

# 地質標本館の来場者 アンケート分析 (2019年度)



サンゴ化石で作ったアゲハチョウ



---

# 地質標本館の来場者 アンケート分析 (2019年度)

2021年1月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
地質調査総合センター 地質情報基盤センター

---



## 要旨

地質標本館におけるアウトリーチ活動のPDCAサイクル（特にCA）を進めるため、2019年度に地質標本館で実施した特別展示、及びそれらの間の常設展示に関する、来館者から回収した無記名アンケートの分析を行った。この分析は年度毎に実施しており、2019年度も、その分析を通して、地質標本館に対するユーザーのニーズを把握することを目的としている。なお、2019年度は、新型コロナウイルス感染防止のために、2020年2月28日午後から年度を越えて6月1日まで地質標本館は臨時休館を余儀なくされた。休館当日の午前中のアンケート回答はなかったため、2月27日までのアンケートを分析対象としている。

分析項目は、大まかには、来館者自身（年齢、居住地など）、館内展示（展示内容、展示設備など）、館内環境（空調、照明など）、解説サービス（見学案内、QRコードなど）などに関する情報、及び全体的な感想などからなる。

展示や館内環境に対する満足度は前年度に続き概ね高い評価を得ている。興味を持った展示は、鉱物・化石・地震・活断層・火山・地学一般・資源・環境が多い。改善要望については、展示設備の修理・改善、わかりやすい解説への改修、館内環境の改善などが比較的割合が高い。毎年、展示改修を進めているが、要望が多いものは、大規模改修を要するものであり費用・時間面から着手できていない展示への指摘が多い傾向にある。館内環境についての要望は、室温や室内の明るさなど、個人による感じ方の違いのあるものが多い。

これらの要望と今後の対応策に関する情報は、引き続き地質調査総合センターのアウトリーチ拠点としての地質標本館の運営・施設改修へつなげるための一次データとして利用する。

## 1. はじめに

この報告は、地質標本館に来館された方々からいただいた 2019 年度分のアンケートについて取りまとめたものであり、基本的には前年度までの報告（地質情報基盤センター，2016a, b, 2017, 2018, 2019）及び GSJ 地質ニュースに掲載している概要版（森尻ほか，2015, 2016, 2017；辻野ほか，2018）に沿った報告書（地質調査総合センター技術資料集）としてまとめている。すなわち、これまでの報告の取りまとめの目的は、地質標本館におけるアウトリーチ活動の PDCA サイクル（特に CA 部分）の実施であり、本報告書も同じ目的でまとめている。

これまでの報告書でも度々指摘してきたが、回収されたアンケートに書かれたコメントは必ずしも全来館者の平均的な感想とは言えないことを前提する必要がある。しかし、アンケートに記されているコメントは、ユーザーのニーズを知るための貴重な一次情報であると認識した上で報告をまとめている。これまでの報告を含めて、今後、「地質標本館のニーズ分析」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等へ活用するとともに、アウトリーチ活動に関わる地質調査総合センター（以下、GSJ）の各研究部門の研究者にフィードバックすることで、一般向けの展示物作製やその他の研究成果普及活動の後押しとして利用する。さらには、今後の GSJ のアウトリーチ戦略策定の基礎資料となることを期待するものである。

## 2. アンケートの取りまとめ

2019 年度の地質標本館での特別展示・企画展（第 1 表）の内、企画展以外は研究戦略部研究企画室国内連携グループが主導し、地質標本館室と調整をしながら実施している。2019 年度は 4 つの特別展示を開催した。企画展は、特別展示との同時開催のためアンケート集計は特別展示に繰り入れている。

取りまとめの方針は、従前の報告書と同様、それぞれの項目の集計を行うことで、「一般の人から地質標本館に求められているもの（ニーズ）」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等に関する情報を抜き出し整理した。それらを図示し、前報告書と構成も含めて視覚的に対比できるようにした。

また、GSJ の第 4 期中長期計画では、以下の 4 つの研究戦略が挙げられており、アンケート結果の分析にはこれらの戦略課題との対応も考慮しているが、明示しているのは前回までと同様に戦略課題 1～3 のみである。

研究戦略 1： 地質情報の整備

研究戦略 2： レジリエントな社会基盤の構築に資する地質の評価

研究戦略 3： 地圏の資源と環境に関する評価と技術の開発

研究戦略 4： 地質情報の管理と社会利用促進

第1表 2019年度の特別展・企画展の一覧

展示時期	タイトル
4月16日-7月7日	地質標本館 2019年度 特別展 「 <sup>そら</sup> 宇宙から <sup>ジオ</sup> 地質—衛星でみる地質—」※1
7月9日-10月6日	地質標本館 2019年度 特別展 「美しい砂の世界—日本の砂、世界の砂、地層の砂—」※2
10月1日-11月4日	地質標本館企画展 「恐竜とアンモナイト—白亜紀の日本を語る化石—」※3
10月8日- 2020年1月5日	地質標本館 2019年度 特別展 「日本初！日本列島大分析 元素で見る『地球化学図』」※4
1月7日-3月8日 (2月28日終了)	地質標本館 特別展 「めくってみよう！大地の図鑑—山口—」※5

以降、タイトルは次のように略記する。

- ※1 「宇宙から地質」
- ※2 「美しい砂の世界」
- ※3 「恐竜とアンモナイト」
- ※4 「地球化学図」
- ※5 「大地の図鑑山口」

### 3. アンケート内容の分析結果と個別対応案

アンケートの回収数総計は 2,241 件である（2018 年度は 2,585 件）。2019 年度の来館者数が 50,266 人（過去最高）であるので、約 4.5%の回収率になる。なお、この間の団体入場者は 10,216 人で全来館者数の約 20%を占めている。団体客や学校単位での来館においては、来館者の見学時間を確保するために、引率者のみにアンケートの回答をお願いしている。

以下、アンケート内容（第 2 表）の順に沿って、各項目の集計結果を見ていく。

#### 3.1 全般的な満足度

最初に、来館された方々が館内で感じたことについて見てみる。まずは館内での見学全般を通してどう感じていただいたかという質問である。回答を見ると、大半が「満足」とあり、「やや満足」を含めると回答を記入していただいた方の 99%に満足していただいている（第 1、24 図）。「不満足」、「やや不満足」と回答した方については、昨年度と同様、もともと興味のない方、たまたま空調設定が好みに合っていなかった方などのようである。

#### 3.2 満足度（次回への期待度）

また機会があればご来館いただけるかどうか（次回への期待度）の質問に対して、回答を記入いただいた約 90%の方が「ぜひ来たい」、「できれば来たい」の積極的な回答、10%ほどの方が「来るかもしれない」で、「もう来ない」は昨年同様ごくわずかである（第 2、25 図）。

#### 3.3 回答者の年齢層・居住地

回答者の概要を考える参考として、年齢層と居住地を見てみる。

回答者の年齢層（第 3、26 図）の傾向を見ると、全体として 40 歳台の回答者が多く、18 歳以下の回答者がやや少ないものの、その他の世代は、ほぼ拮抗している。これは、前述したように学校単位の団体の場合は、引率者のみにアンケートの回答をお願いしていることを反映しているものと思われる。

居住地に関連する情報（お住まい）を見ると、これまでと同様、アンケート回答者は茨城県外が多数を占める（第 4、27 図）。これは、これまでと同様に研究学園都市をテーマとしたつくば観光の一施設として訪れる人が多いことを意味していると思われる。全体の来館者数の地域別来館者の推移（第 22 図）を見ると、2014 年度を極小として、それ以降は増加傾向にある。県外からの来館者増加は、2017 年 2 月に茨城県内が全開通した圏央道（首都圏中央連絡自動車道）の恩恵とも考えられる。2015 年度以降、つくば市内からの来訪者が着実に伸びている傾向は継続している。



第2表 2019年度アンケートの内容

<p>1. 本日ご見学頂きました地質標本館は、いかがでしたか？</p> <p>①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足</p>
<p>2. またご来館いただけるでしょうか？</p> <p>①ぜひ来たい ②できれば来たい ③来るかもしれない ④もう来ない</p>
<p>3. お客様ご自身について</p> <p>「性別」①男 ②女</p> <p>「年齢」①18歳以下 ②19～29歳 ③30歳代 ④40歳代 ⑤50歳代 ⑥60歳代以上</p> <p>「お住まい」①つくば市内 ②茨城県内（つくば市以外） ③茨城県外</p>
<p>4. 今回のご来館のきっかけとなるもの（複数可）[] は2019年7月9日から変更</p> <p>①地質標本館公式ウェブサイト ②インターネット（ブログ、SNS等）[地質標本館以外のウェブページ] ③掲示ポスター・チラシ [産総研 Twitter] ④新聞・雑誌・テレビ [その他のSNS] ⑤知人の紹介 [ポスター] ⑥その他</p>
<p>5. ご興味を持った展示テーマ（複数可）</p> <p>①鉱物 ②化石 ③岩石 ④地震 ⑤火山、温泉 ⑥資源、環境 ⑦地学一般 ⑧その他</p>
<p>6. 展示物について（各々4段階で回答）</p> <p>(1) 展示の仕方や表示方法（パネル、ラベル等の説明）はわかりやすかったですか.</p> <p>(2) 展示機器（ボタン操作等）の使い勝手はいかがでしたか.</p> <p>①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足</p>
<p>7. 建物やサービスについて（各々4段階で回答）</p> <p>(1) 受付の対応はいかがでしたか.</p> <p>(2) 館内案内の表示はわかりやすかったですか.</p> <p>(3) 館内の明るさはいかがでしたか.</p> <p>(4) 館内の空調の温度設定はいかがでしたか.</p> <p>(5) 展示物、展示室、トイレ、洗面所及び通路の清掃は行き届いていましたか.</p> <p>①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足</p>
<p>8. 利用した解説・サービスについて（各々4段階で回答）</p> <p>(1) 説明員の解説</p> <p>(2) QRコード</p> <p>(3) 標本館クイズ</p> <p>①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足</p>
<p>9. 当館へのご希望、ご意見があればお聞かせください。（例）特別展についての感想・ご要望、ミュージアムグッズ、イベントの内容等</p>

### 3.4 来館のきっかけ

特別展示やイベントの開催案内は地質標本館のウェブサイトや産総研の公式ツイッターなどで行っている。ポスターはA2サイズのものを作成して、つくばエキスポセンターなど、つくば市内及び近隣の公共施設に掲示を依頼している。また、近隣の学校などにはチラシを配布している。ウェブサイト関係の割合では、今までの記録にある地質標本館アンケート集計によると、2007年度は13.2%ほどだったが、2013年度は20.1%、2017年度40.5%、2019年度は43.9%と約半分に迫るほどになっている（第5図）。今後も、地質標本館のウェブサイトや産総研の公式ツイッター（SNS）などインターネットを通じたイベント等の情報発信を重要な手段と位置づけ、続けて行く。一方で、これまでのポスター・チラシは、関心がない人々にもイベント等を知るきっかけとなり得るので、それらの配布も継続する必要があると考えられるが、より効果的な配布先を検討すべきかもしれない。なお、これらに比べて、「その他」の割合が大きい。「その他」が何を示しているのかは問うていないので、この意味については正確に分析できないが、当日たまたま産総研内に用事があったので寄った、あるいは近くに来たので立ち寄ったという方もかなり多いようである。

### 3.5 興味を持った展示テーマ

ここでは、「興味を持った展示テーマ」を、その他を含めて7つのキーワードでの選択式として、複数回答可とした。また、⑧その他として回答のあったものに、記入式で具体的な展示物などを書いていただいた。集計においては「その他」で自由記述された展示物などを戦略課題と関連付けたキーワード（地質情報基盤センター，2016a）に結びつけ、興味を持ったテーマとして表示した（第6、29図）。これによれば、2019年特別展「美しい砂の世界」により、岩石・砂に対する関心がわずかに高くなっている。

### 3.6 展示物について

展示物については、展示の仕方、機器の使い勝手などについて、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階で回答をしていただいた。集計結果は第7、8図、第30、31図にあるように昨年度同様概ね満足のようなものである。自由意見欄の記述は「3.9 ご意見、ご要望」にまとめた。

### 3.7 建物やサービス

建物やサービスについては、受付の対応、案内表示、館内の明るさ、空調の温度設定、館内各所の清掃状況について、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階で回答をしていただいた。この5つの質問に対する回答の集計結果は第9～13図、第32～36図で示しており、例年通り概ね満足となっている。

### 3.8 利用した解説サービス

地質標本館として提供している解説サービスには、(1)館スタッフによる予約団体への説明解説、(2)スマートフォンやタブレット利用によるQRコード解説システム、(3)紙資料による標本館クイズの3種類がある。これも①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階での回答をしていただいた。集計結果は第14～16図、第37～39図に示す。利用したかどうかの回答総数は2,120件で、このうち解説案内利用は752件となっている。QRコード解説システムについては、これまで利用された方からは良い感触を得ていたものの、やや不満足、不満足の回答も7.7%あった。これはこれまで館内に閉じた無線LANのシステムを使用しているが、このシステムでは最新のOSを搭載しているスマートフォンでは表示されない場合があったためと思われる。これを受けて、2020年2月に公衆Wi-Fiの導入によりこの問題は改善された。

### 3.9 ご意見、ご要望

最後に自由記述で、全体のご意見、ご要望をうかがった。これらの自由なご意見は、地質標本館に課せられた役割と照らし合わせながら今後の参考とするものである。

自由意見として寄せられた内容に従って以下の12のキーワードに整理してきており、今年度もそれに沿って整理した(第17図)。

- ①展示物の更新・入れ替え
- ②解説内容の充実・修正
- ③わかりやすい解説・子供向け解説
- ④質問対応・解説案内者の充実
- ⑤展示設備の修理・改善
- ⑥体験型展示
- ⑦動線の改善
- ⑧館内の環境改善
- ⑨PR強化
- ⑩ミュージアムショップ
- ⑪他機関との連携
- ⑫その他(地質標本館外の要因)

それぞれのキーワードとその中で整理された意見で目についた事例を第3表に示す。それぞれのキーワードの要望の割合を前年までと比較すると、①展示物の更新・入れ替え、⑤展示設備修理・改善、⑩ミュージアムショップが減少した。このことは展示改修やショップの充実により改善してきていると思われる。一方で、解説内容の充実・修正が次に改善すべきこととして問われているところである。これらの自由意見の要望については、既に対応済

みのものも多数あるが、今後の改修の検討内容に寄与できる事項が多く含まれている。

①「展示物の更新・入れ替え」の要望では、シアター内容の充実があり、この映像の製作には、費用と時間をかなり要するので、産総研ホームページに公開されている「かがくチップス」にある地質に関する映像の内容がわかりやすく充実しているのでそちらを追加していきたい。また、最新の情報の展示を期待する声がこれまでであったが、2018年度から1階ロビーにトピックスコーナーを新設し、これに応えるようにした。2019年度はGSJホームページにプレスリリースされた内容を6件紹介した。

②「解説内容の充実・修正」と③「わかりやすい解説」については、同じものを見ても簡単と思う人と難しいと思う人がいるために、両方を満足させるのは難しい。地質標本館の機能の最も大きなところはGSJの研究成果の広報施設かつ研究所の展示施設としての役割である。このため、ある程度専門家が満足しうるだけの詳細さ・正確さが必要であることは前提として考えるべきことである。それを踏まえた上での改善として、例えば専門家・知識が多い人向け、一般の非専門家向け、小～中学生程度向けといったように、入館者のレベルに応じた見学コースを用意することが必要であろう。この一環として、受付に数種類の見学コース例を置いているので、これをより積極的に利用してもらえるように、案内を改善する。また、ご指摘のあった標本ラベルの産地等の市町村合併による表示変更については、逐次進めている。さらに、写真や図解の追加展示については、限られた展示スペースのためそれに代わるQRコード閲覧での充実を引き続き進めていく。

④「質問対応・解説案内者の充実」については、説明員の確保をどうすべきかを検討しなければならないことは引き続き懸案である。2019年度は、平日の予約団体に対してのみ、説明員が館内を案内したが、休日の入館者、平日の個人来館者に対する対応を具体的に検討する必要がある。

このほかに、地質の日（5月10日）や茨城県「県民の日」（11月13日）の関連イベントとして、事前予約なし（先着順）での平日の個人向けガイドツアーを実施した。これを拡大する形で、2019年度半ばからは、毎月最終金曜日（夏休み期間にあっては毎週金曜日）に個人向けガイドツアーを試行して、好評を得た。このような取り組みを正規のサービスとして位置づけられるか、前向きに検討する必要がある。最近では地質標本館での体験学習イベントを休日に企画・開催するようになっており、この際には職員も出勤しているので、展示室での質問等に応える機会が以前より増えている。ただし、新型コロナウイルス感染防止という点から、今後の対面式の解説・案内については対応をよく検討していきたい。

⑤「展示設備修理・改善」については、地質情報基盤センターとしてGSJ運営会議に諮った地質標本館ビジョンや地質標本館大規模改修タスクフォースで提案した展示改修計画に沿って改修を進めてきた。2019年度の展示改修では、経年劣化した熱水鉱床チムニー展示の改修、1階ホールの震源分布のシステム改修、ジュラ紀の褶曲模型の基礎部分の補修など

第3表 自由意見の中の改善要望		
①	展示物の更新・入れ替え	<p>宝石の展示を増やして欲しい。</p> <p>シアター内容の充実をお願いします。休憩兼ねて観るには少ない感があります。</p> <p>砂の展示大変興味深かったです。常設にして欲しい！</p>
②	解説内容の充実・修正	<p>大陸移動等の動画については解説（音声）が欲しいですね。</p> <p>説明資料の配布を多くして欲しい。</p> <p>色々と展示方法見せ方に工夫がされていると思いました。出来れば今話題になってますレアアース等の解説、資料等展示して頂きたい。それと鉱物等がどう人間社会に役立っているのか関連がわかる様な展示もあればいいと思いました。本日はみてまわるのが楽しく来てよかったです。</p> <p>箱根山の形成についてかな川の地球生命博物館ではカルデラではなく複数の火山で形成されたという説明がありました情報の更新はされるのでしょうか？</p> <p>鉱石の実物を見ているのだから、ネットの高解像度画像よりもさらに美しさを感じられるような展示の工夫がほしかったです。</p> <p>もう少し派手な演出があるとより良いかと思えます。</p> <p>もっと素人が知識を楽しく増やせるといいなと思った。</p> <p>ジオパークの説明を詳しく知りたい。</p> <p>アンモナイトについても詳しく知りたい。</p> <p>地質図を作成する過程を紹介してほしい。</p> <p>結晶構造の模式図も書いてほしい。</p> <p>化石標本ラベルで木の葉石が「栃木県塩谷郡塩原町」となっていたがS52頁→那須郡塩原町H17→那須塩原市塩原と変わってきています。</p>
③	わかりやすい解説・子供向け解説	<p>クイズがむずかしい。</p> <p>クイズをもっとむずかしいのにして欲しい。</p> <p>展示品をもっと楽しめる様にクイズを増やして欲しい。</p> <p>クイズの問題がもっとあった方がいい。</p> <p>小学生のために標本にひらがな名があれば良いと思いました。漢字にふりがながあると小さな子どもにもわかりやすいです。</p> <p>小学生にも分かる様にもう少し易しいものに。</p> <p>英語ふやしてほしい。</p> <p>もう少し英語の説明書きが欲しい、これからのインバウンドのため。</p> <p>字が少し小さい。もう少し解説が欲しい。</p> <p>写真展示と図解があるとわかりやすい理解が早い。</p> <p>珪酸塩鉱物の角の鉄電気石はおそらく黒いところでしょうが素人がみるとどこかわからない。他の鉱物も写真に矢印など矢印などで示した方が親切と思う。</p> <p>小3には難しかったです。</p> <p>今回の特別展の図録（ブックレット）が欲しかったです。春の特別展の時と同じようにサイトにPDFがあるのかもしれませんが、1ページ当たりの情報量が多く、家庭用のプリンタでキレイに紙面化するの難しいのです。</p> <p>子どもが小さかったので内容が難しく思えましたが、化石など興味があるものも多く、また来たいと思います。</p>
④	質問対応・解説案内者の充実	<p>ガイドが欲しかった(休日)</p>
⑤	展示設備修理・改善	<p>iphoneからのQRコードアプリでは読み取れなかった。</p> <p>ガラスケースの中や説明パネルのバックライトが暗くて（明るさにムラ）見にくい所があった。</p> <p>2Fにトイレがないのが不便でした。</p> <p>説明がむずかしい。館内ネットがつながりにくい。</p> <p>映像の提供場所ではイスが欲しい。</p> <p>Wi-FiがあればQRコードの解説が見れたかも。</p> <p>QRコードを読みとつても、ケータイの受信環境がわるいので公共Wi-Fiをつけてほしい。</p> <p>授乳室があればうれしいです。</p> <p>車イスからの目線での展示をお願いしたいです。光る石を特に見たかったので少しざんねんでした。</p> <p>2階の蛍光する鉱物標本のところに小さな子どもが見れるようふみ台があると素敵だと思います。よろしくお願ひします</p>
⑥	体験型展示	<p>触れる展示がもっとあるとおもしろいです。</p> <p>子ども向けの展示に工夫、実体験出来るものがあると良いと思う。</p>
⑦	動線の改善	<p>順路がわかりにくい。</p> <p>第2展示室への行き方が入口では分かりづらかった。</p>
⑧	館内の環境改善	<p>2階が暑かった。</p> <p>ちょっと空調の音が気になりました。</p>
⑨	PR強化	<p>特別展などの開催について次回の予定などご案内いただけるとありがたいです。</p> <p>HPに情報が少なすぎる。</p>
⑩	ミュージアムショップ	<p>ミュージアムショップをもっと充実させて欲しい。特に書籍、グッズが少ない。</p> <p>ミュージアムグッズを拡充してほしい（第2展示室のプレートテクトニクスの説明書きを販売してほしい）。</p> <p>鉱物トランプを買いました。化石トランプは無いですか？</p> <p>ミュージアムグッズをもっと増やしていいのではないかと思います。</p> <p>お土産がもっと充実するとよいと思った。</p> <p>当館の種々の部門の解説書があればよい（有料でよい）。とくに我々の住んでいる大地の地層、地形について知りたい。</p> <p>地方密着型のイベントでまずはつくば市民が標本館の価値を認識すべきである。</p>
⑪	他機関との連携	<p>世界樹の迷宮（アトラス）とのコラボイベントがあればおもしろそうだと思います。</p> <p>（「つくば駅」からタクシーで1400円かかった）アクセスが簡単にできる（わかりやすい）と来訪者も助かります。</p>
⑫	その他	<p>標本館の場所について構内の案内がやや足りない。</p> <p>子供が参加出来るイベントが増えると嬉しいですね。</p> <p>どのようにしてこうした知識を積みあげて、どのようにしてこうした調査がなされているのか、その人間の営みも是非知りたいと思いました。</p> <p>アンモナイト階段がすてきでした！</p> <p>HP上で見学時間約1時間とあったのでその位の規模と内容を考えて予定をくんでいたのだがボリュームの多さに満足出来る閲覧が出来なかった。また後日来てみたいです。</p> <p>駐車場が少ない。</p> <p>国石ひすいの特別展をやってほしい。</p> <p>マイクロマウントの作り方やマイクロマウント標本を双眼鏡実顕微鏡でのぞく企画に参加してみたい。</p> <p>お弁当を食べられる場所を作ってほしいです。</p>

を行った。また、2018年度からQRコードの不具合の指摘があり、2020年2月に公衆Wi-Fiを導入し受信環境が大きく改善された。展示が高く見えないという指摘があった「蛍光を出す鉱物」の展示について、展示方法を検討する。ほかに、展示設備の軽微な故障等は日々の点検とともに修繕が進められているが、老朽化しているものもあり、タイミング悪く故障している時期に来館された方からの指摘もあり、故障については今後も迅速な対応を進めていく。

⑥「体験型展示」については、新型コロナウイルス感染拡大のため中止している地盤液状化実験ボトル「エキジョッカー」や断層の動きを見られる簡易型模型の展示があり、感染が収束すれば再開したい。ただし、常に担当者が付いていなければならないものを増やすのは現状のスタッフ体制では難しいのが実情である。

また、⑫「その他」にも関係する、各種体験学習イベントの開催要望については、夏休みの子供向けイベントに加えて、2019年6月と8月、2020年1月に砂の体験イベント、2019年11月に化石レプリカ作成体験イベントを実施して、好評を得た（この他に台風接近、新型コロナウイルス感染拡大防止対応のために開催を見送ったイベントがいくつかある）。今後、新型コロナウイルス感染拡大の収束が明確になれば、各種イベントを定期的に行っていきたい。

⑦「動線の改善」については既に各所に表示が設置されていたが、展示室前の床にも大きなサインを表示した。また、館内パンフレットにもフロアマップを掲載しており、それほど問題はなくなっている。なお、当館では、特別展を1階ロビーのフロアを使用して開催しているが、この期間の第1展示室への見通しが良くないことから依然として動線改善の要望につながっている。

⑧「館内の環境改善」については、空調関係の要望がある、これらは個人による感じ方の違いに依存すると考えられる。空調（室温）については、受付に伝えていただくことで今後も対応していく。

⑨「PR強化」については、来館者数増加策のために即時に対応すべき点であることはこれまでと変わらない。要望にあった地質標本館ウェブページの充実を引き続き進める。地質標本館のイベントや新たな特別展では、産総研の公式ホームページやツイッターなどを利用し事前などの情報発信を進めていく。また新聞掲載などに繋がるよう報道機関へもメールなどで今後も情報発信していく。

一般向けの地学関係の漫画企画やオンラインゲーム企画などにおいて地質標本館の名前を取り上げていただける機会があり、今後もその機会が増えることが望まれる。2017年3月から4コマ漫画専門誌に連載が始まり、2020年1月から3月までテレビアニメとして放映された「恋する小惑星(アステロイド)」がきっかけとなり、アニメファンが地質標本館にも多数訪れるようになったことは特筆すべきことである。しかし、折悪しく新型コロナウイ

ルス感染拡大のタイミングと重なり、2020年2月末で地質標本館が約3カ月の間休館になったことは、誠に残念である。今後もテレビ取材などには引き続き積極的に応じていきたい。

⑩「ミュージアムショップ」については、市販の書籍など販売を求める声もあるが、現状では対応できない。グッズの種類を増やす要望については、少しずつ対応しており（森尻ほか、2016）、地質標本館ウェブサイトでも案内している。鉱物や化石の標本などの販売を期待する声も依然としてあるが、地質標本館はGSJの研究成果としての研究資料として岩石等を展示する博物館であり、また、ジオパークの学習施設となっていることもあり、販売は検討していない。ミュージアムグッズは、GSJの研究成果に裏打ちされた地質情報を製品化し、産総研の規定範囲内で取り扱っているものであり、今後もこの方針に沿って開発を行っていく予定である。

⑪「その他」については、地質標本館あるいはGSJのみで対応できるものではなく、産総研としての対応が求められるものがある。例えば、継続的な懸念事項として駐車スペースの充足や、産総研構内への入構について簡素化を望む声がある。これらの問題点については、広報部とも情報共有し、状況の改善につなげるよう努力する。

#### 4. 来館者動向と今後の対応

地質標本館受付では、継続的に来館者の統計を取っている。2019年度のデータを第18～23図に示す。

全体では、昨年度と比べると個人が2,000人以上増加し、団体が2,000人以上減少した。

第18～20図に見られるとおり、7～8月の夏休み期間は例年通り個人の来館者数が多いが、それ以外の時期では、団体での来館者数が1/4～1/3近くを占めることもある（第18図）。この傾向は、基本的にはほぼ毎年の傾向とも言える。7～8月の個人来館者の主体は小学生とその保護者である（第19図）。夏休みにはつくば市内からの来館者が占めている（第20図）。なお、9月から受付時の記入が、家庭、自営、教官・教諭、会社員、公務員の区別をなくし、これらをまとめて一般へと変更した。

毎年の傾向であるが、夏休みに比べるとその他の各月の来館者数はかなり少ない。年間の来館者数の増加をめざし、かつ来館いただいた方々に満足して見学していただくためには、夏休みの来館者を増やすよりも、夏休み前の6月と夏休み終了後、そして特に12月～2月の間に学校関係の団体と呼び込む工夫が引き続き必要と考えている（前年度と比較して2019年度は1月～2月に団体数が増加している）。秋は全国の高校からの修学旅行やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）などの団体が多い。高校の団体には、特に地元の地質を中心とした展示説明をするようにしている。最近では、産総研の他領域からの見学依頼も増えてきており、説明対応依頼があれば積極的に対応しているところである。この場合も、専門

分野に関係する話題や居住地などの地質情報も交えて説明している。全くの異分野ではあるが、生活に身近な話題を提供することで地質に興味を持つ方が増えてくると幸いである。

見学だけでなく、秋から冬にかけての時期に来館者を増やす工夫の一つとして、この時期の体験イベントの開催なども引き続き企画していきたいと考えている。その実践として、2018年に日本古生物学会が、10月15日を「化石の日」と制定したことに因み、2018年度から10月半ばに定例イベント（企画展）を実施することとした。2019年度の企画展は「恐竜とアンモナイト」を開催したが、体験イベントの「自分で作ろう!! 化石レプリカ」は、台風19号の接近により中止となった。しかし、来館者などからの要望も多く、2019年11月9日に中止となった体験イベントを代替開催した。また新たな試みとして、この企画展に合わせて、関連の講演会を開催した（10月19日）。

年度ごとの来館者数総計推移（職業別）では、地域別ではつくば市内の来館者数が増加している（第22図）。つくば市以外の茨城県内からの来館者数は前年度とほぼ変わらず、2011年3月の東日本大震災以前の水準への回復にはまだ道のりが遠いようである。リピーターの集計では、9月から6-10回と11回以上をまとめて集計している。2019年度も、初めて来館された方の割合が微増しているが、2-5回のリピーターも少しずつ上昇している（第23図）。

2011年の東日本大震災以降の入場者数の減少傾向が、2015年度から増加に転じ、2019年度も増加傾向を維持している。この後も増加傾向をはかっていくために、上述の①～⑫の個別対応策を総合し、引き続き、

- (1) つくば市以外の茨城県内の入館者数を増やすこと
- (2) 老朽化・故障した展示物の改修を進めるとともに、一度来た人がリピーターとなるように更新の容易な展示物も配置し、また時流に合わせた話題を特別展示などで提供するなど、魅力的な博物館展示となるようにすること
- (3) さらにその魅力を積極的に発信していくこと

の3点を目標とした活動を実施すべく努力しているところである。このため、地質標本館を運営する地質情報基盤センターだけでなく、研究部門や産総研全体にも協力を求めながら、GSJ全体として取り組みを進めている。

## 5. おわりに

この報告では2019年度のアンケートを分析した。現在、地質標本館では、大規模な改修計画をもとに地質情報基盤センターとGSJ研究企画室国内連携グループとが連携しながら、改修が進められている。

今後も地質標本館で実施するアンケート内容は、社会ニーズの把握とGSJ全体のアウト



リーチ活動に対する満足度を測る指針とすることを念頭に置き、引き続き地質情報基盤センター地質標本館室運営グループにより継続的かつ定期的に報告する。これら来館者からの直接的な意見は、GSJのアウトリーチ活動のPDCAサイクルを動かしていくための参考資料として活用しつつ、地質標本館の運営に反映していく予定である。

#### 追記

この報告は、地質情報基盤センター地質標本館室 兼子尚知（兼務）、利光誠一（兼務）、朝川暢子、谷島清一、下川浩一、谷田部信郎、森田澄人が集計・執筆した。また、アンケートの集計や分析においては、地質標本館説明員に登録されている森尻理恵氏の現場サイドからの意見も参考にさせていただいた。

#### 文献

地質情報基盤センター（2016a）地質標本館の来場者アンケート分析（2007年～2015年度夏展まで）。GSJ技術資料集 No. 5, AIST15-G00002-5

[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_05\\_2016.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_05_2016.pdf)

地質情報基盤センター（2016b）地質標本館の来場者アンケート分析（2015年度後半：秋～冬の特別展）。GSJ技術資料集 No. 6, AIST15-G00002-6

[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_06\\_2016.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_06_2016.pdf)

地質情報基盤センター（2017）地質標本館の来場者アンケート分析（2016年度）。GSJ技術資料集 No. 8, AIST15-G00002-8

[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_08\\_2017.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_08_2017.pdf)

地質情報基盤センター（2018）地質標本館の来場者アンケート分析（2017年度）。GSJ技術資料集 No. 10, AIST15-G00002-10

[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_10\\_2018.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_10_2018.pdf)

地質情報基盤センター（2019）地質標本館の来場者アンケート分析（2018年度）。GSJ技術資料集 No. 11, AIST15-G00002-11

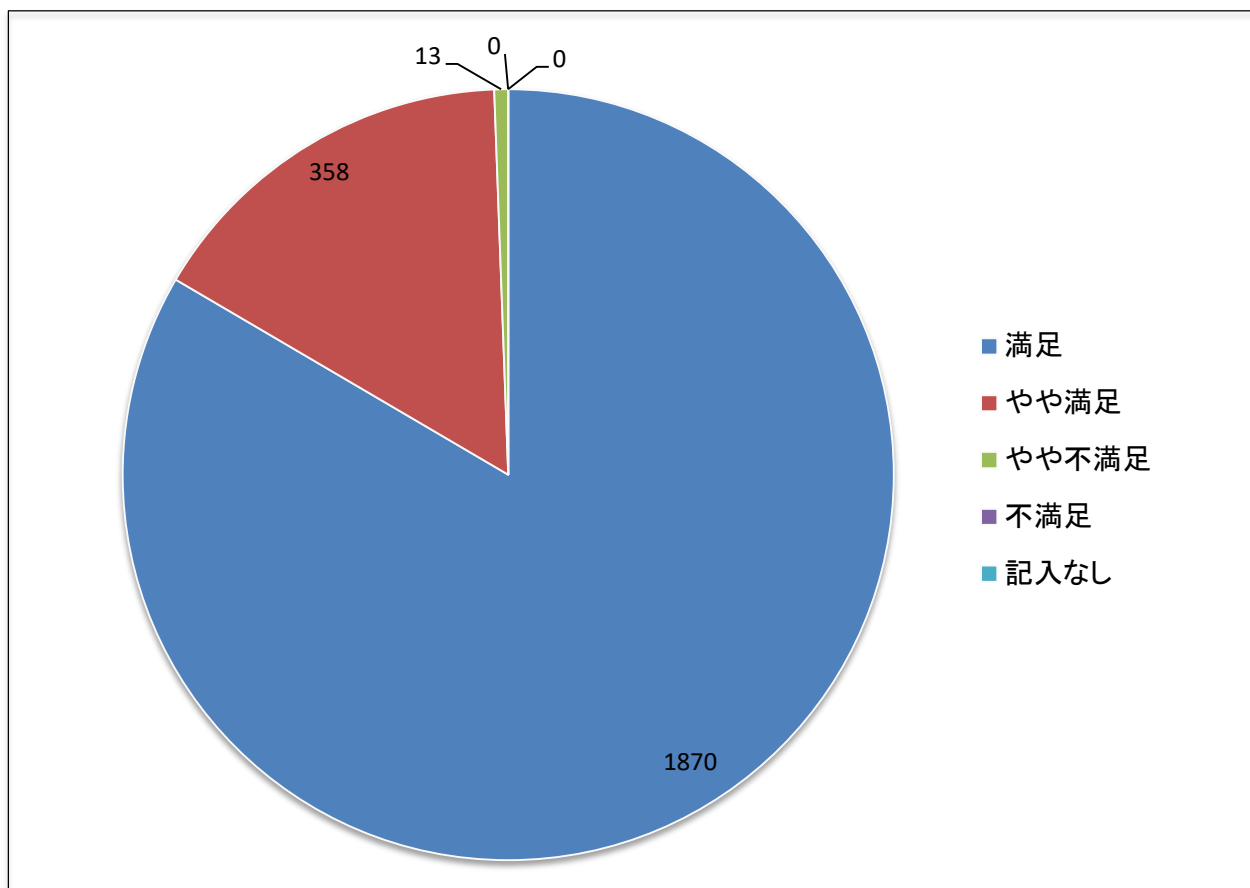
[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_11\\_2019.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_11_2019.pdf)

森尻理恵・吉田清香・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一（2015）地質標本館来館者アンケート結果概報（2007-2014）. GSJ 地質ニュース, 4, 346-352

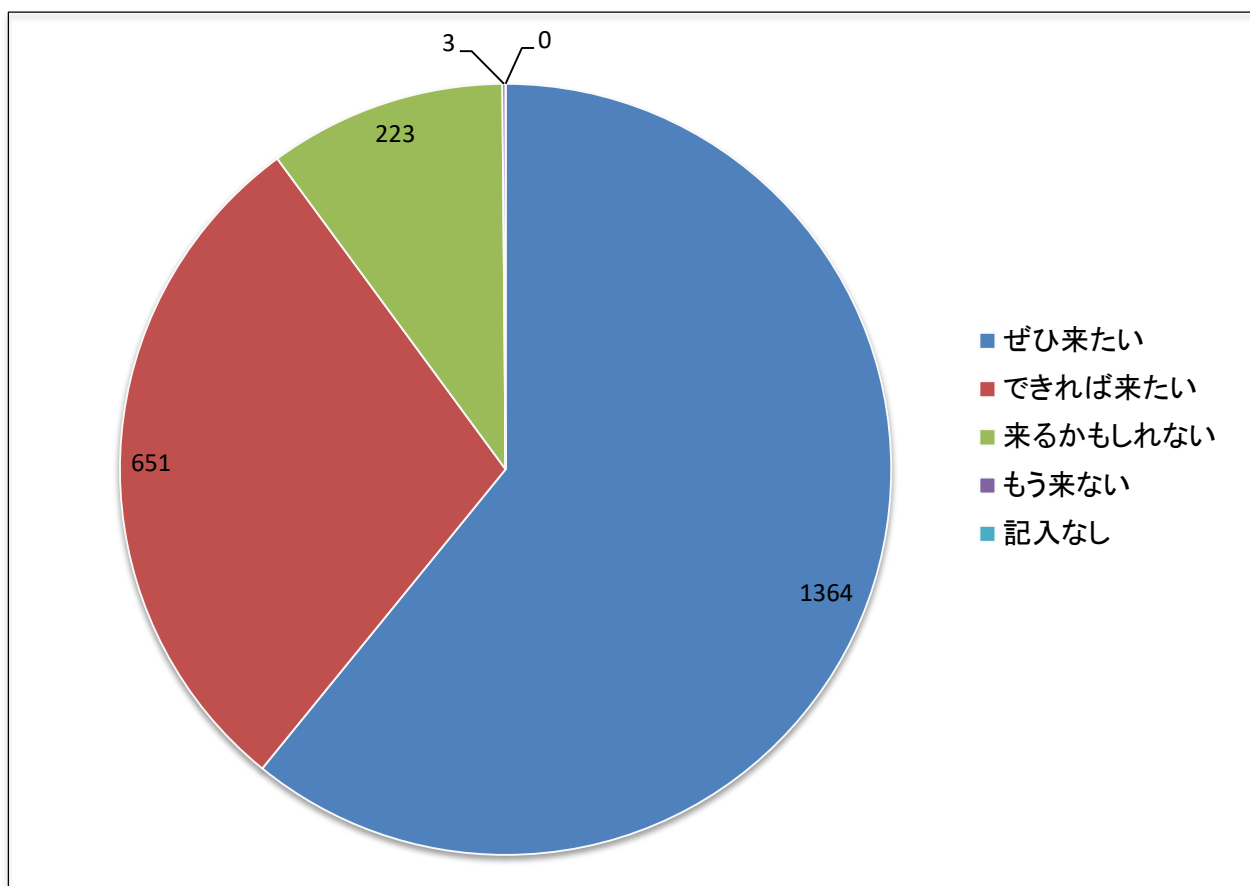
森尻理恵・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一・菅家亜希子・吉田清香・中山 淳・常木俊宏・小賀野功（2016）地質標本館来館者アンケート結果概報（2015 年度）. GSJ 地質ニュース, 5, 377-381

森尻理恵・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・菅家亜希子・中山 淳・常木俊宏・小賀野功・川鈴木宏（2017）地質標本館来館者アンケート結果概報（2016 年度）. GSJ 地質ニュース, 6, 268-276.

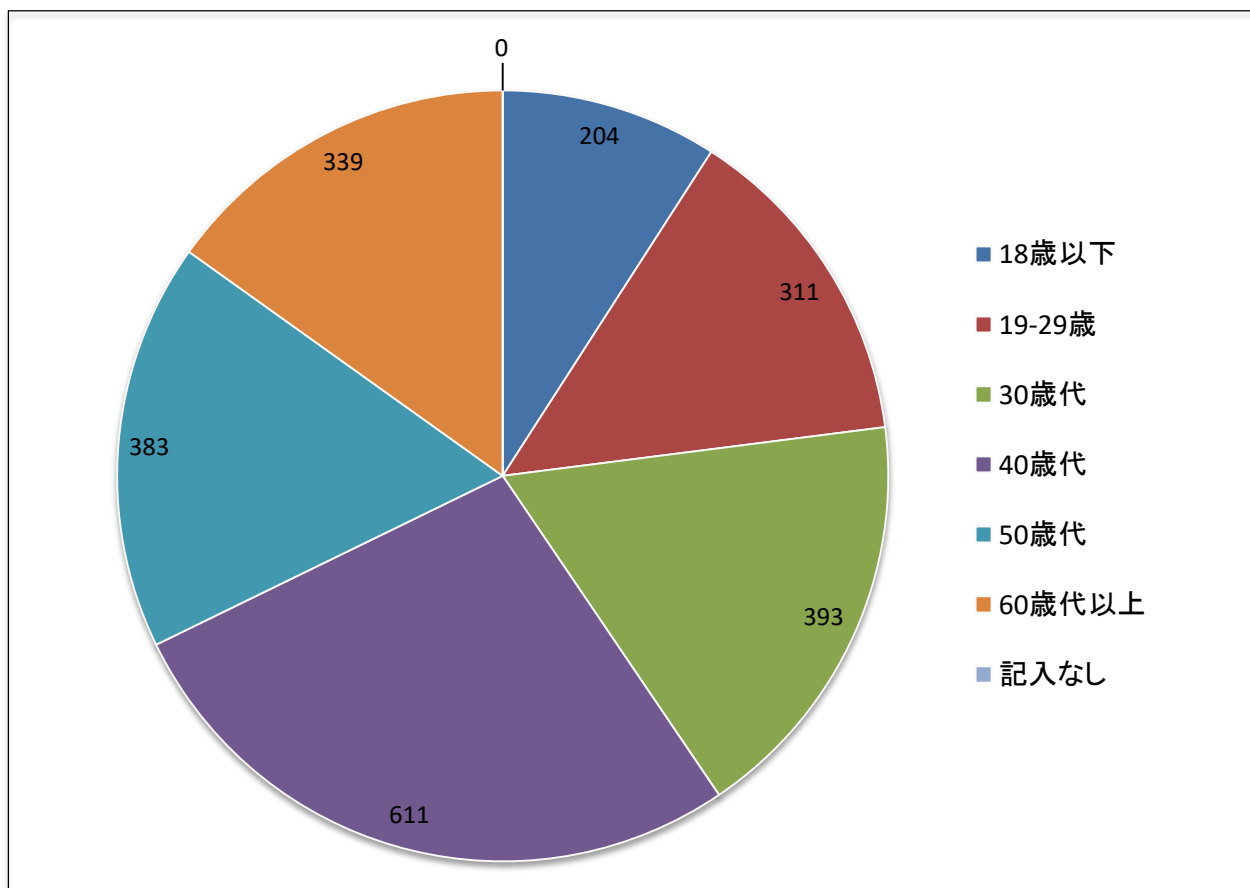
辻野 匠・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・中山 淳・常木俊宏・五十嵐幸子・川鈴木宏・利光誠一・藤原 治（2018）地質標本館来館者アンケート結果概報（2017 年度）. GSJ 地質ニュース, 7, 239-248.



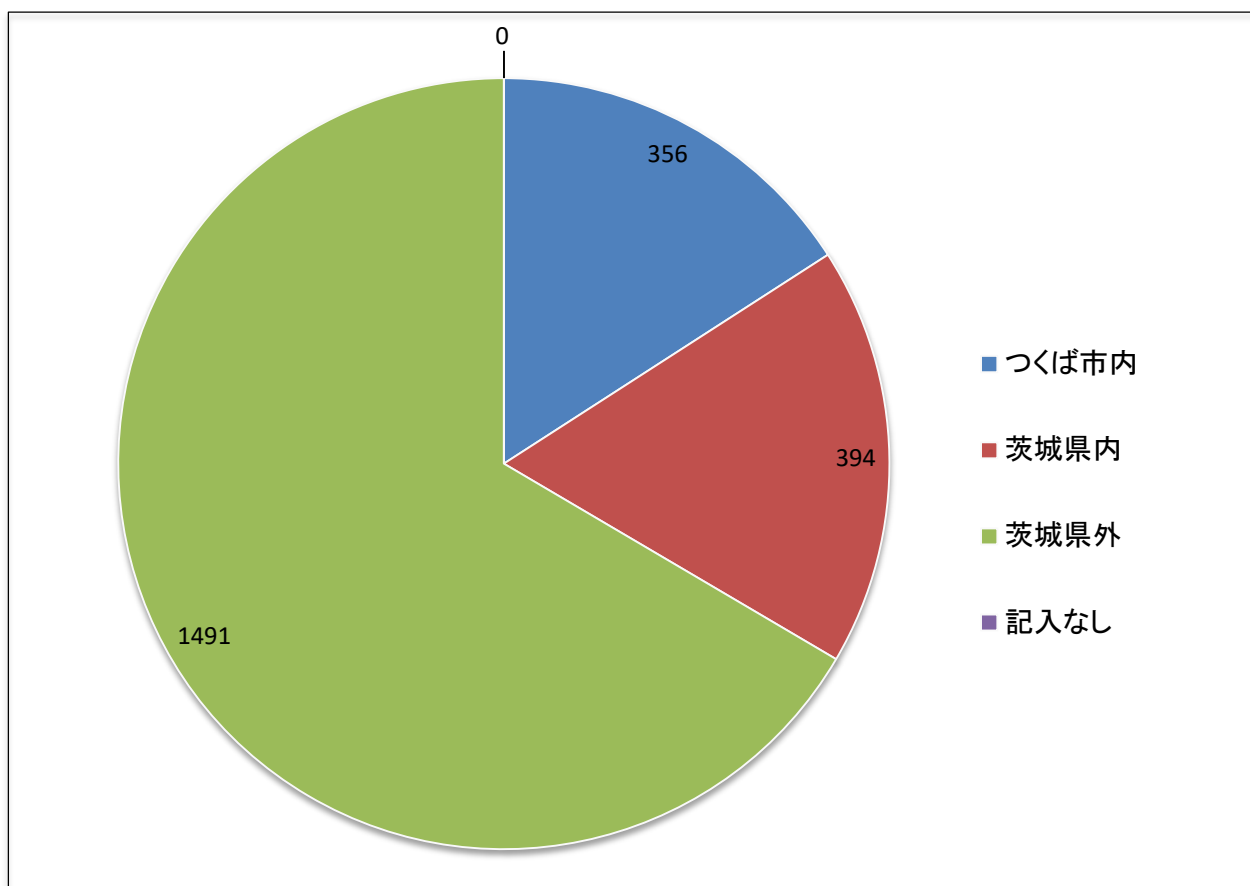
第1図 満足度(館全般)(N=2,241)



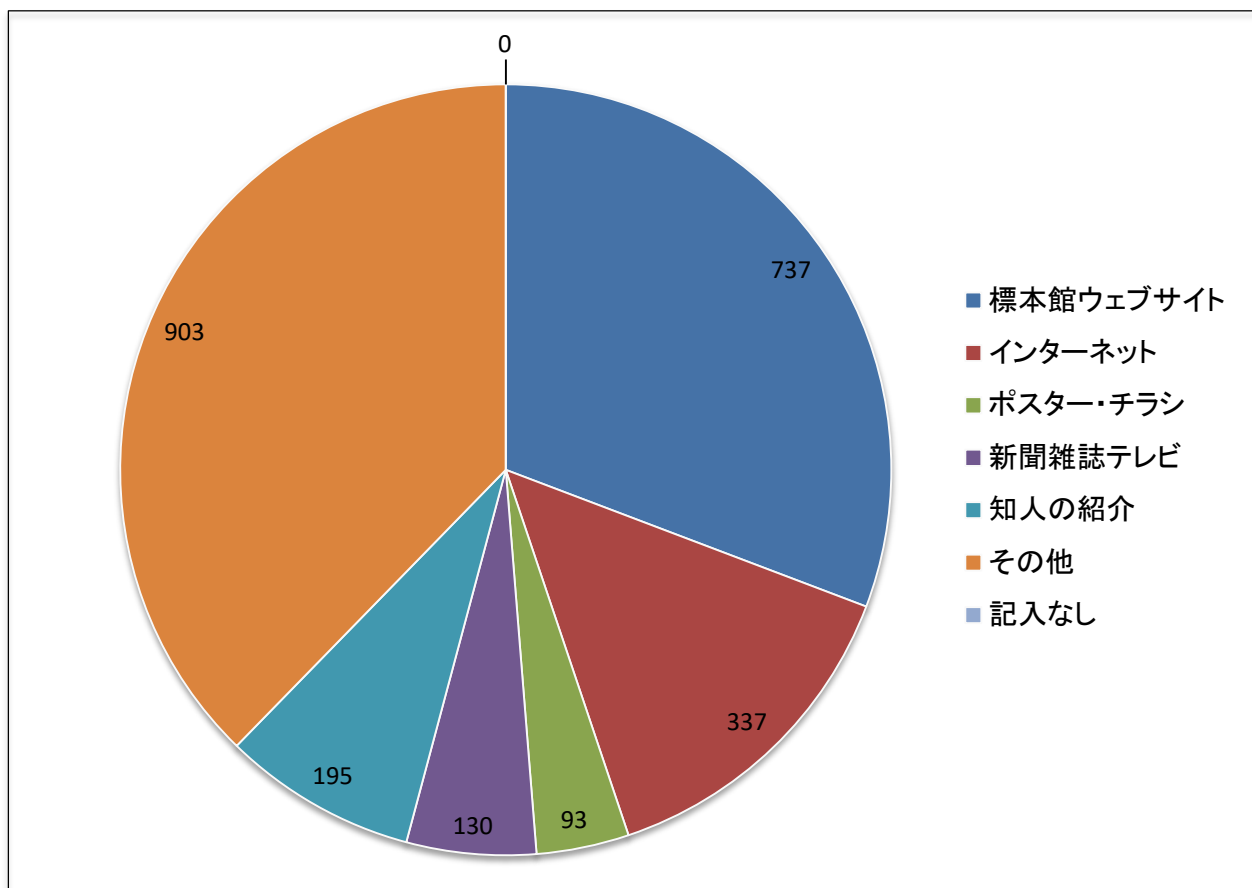
第2図 満足度(次回への期待度)(N=2,241)



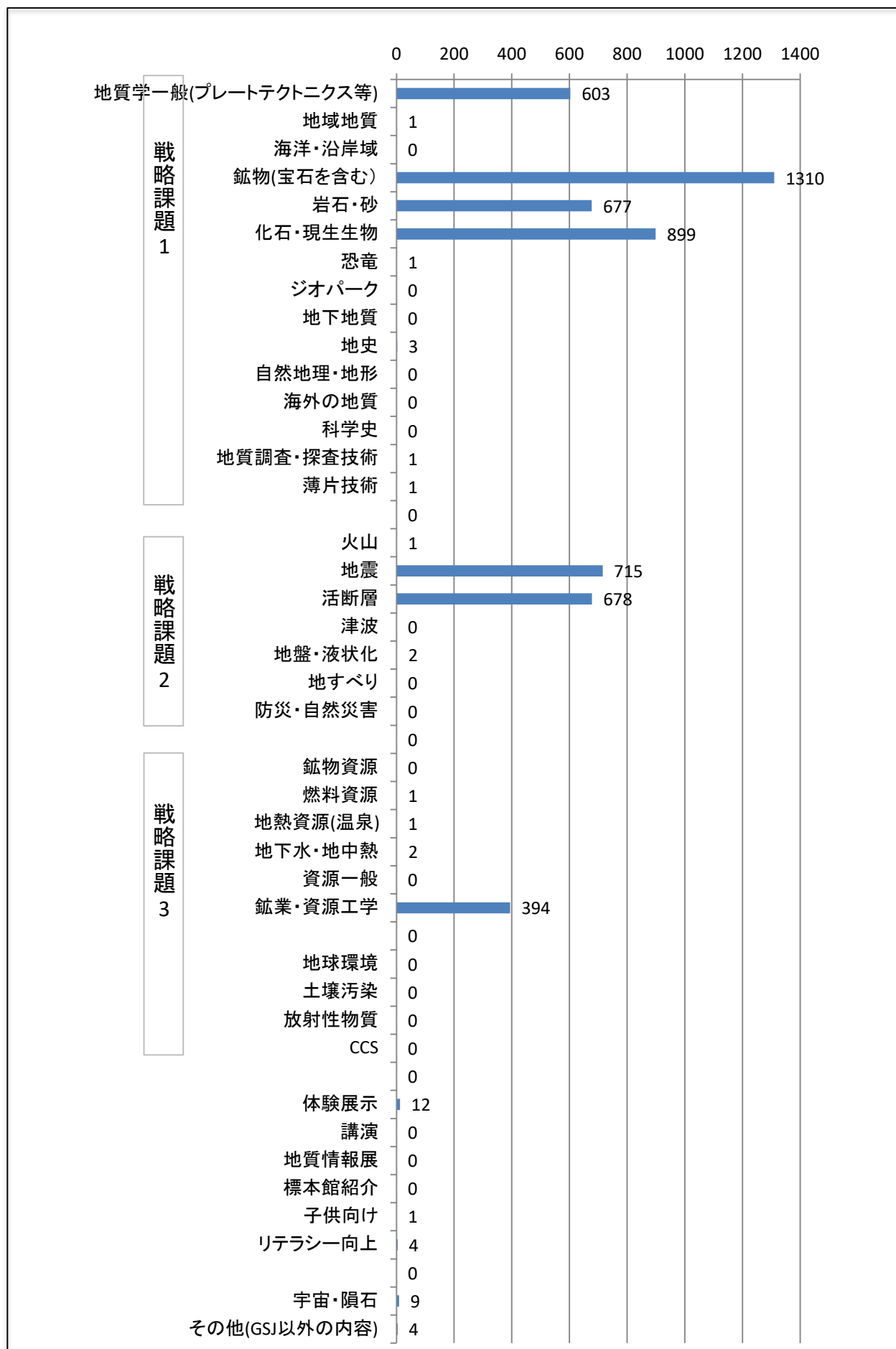
第3図 回答者の年齢層 (N=2,241)



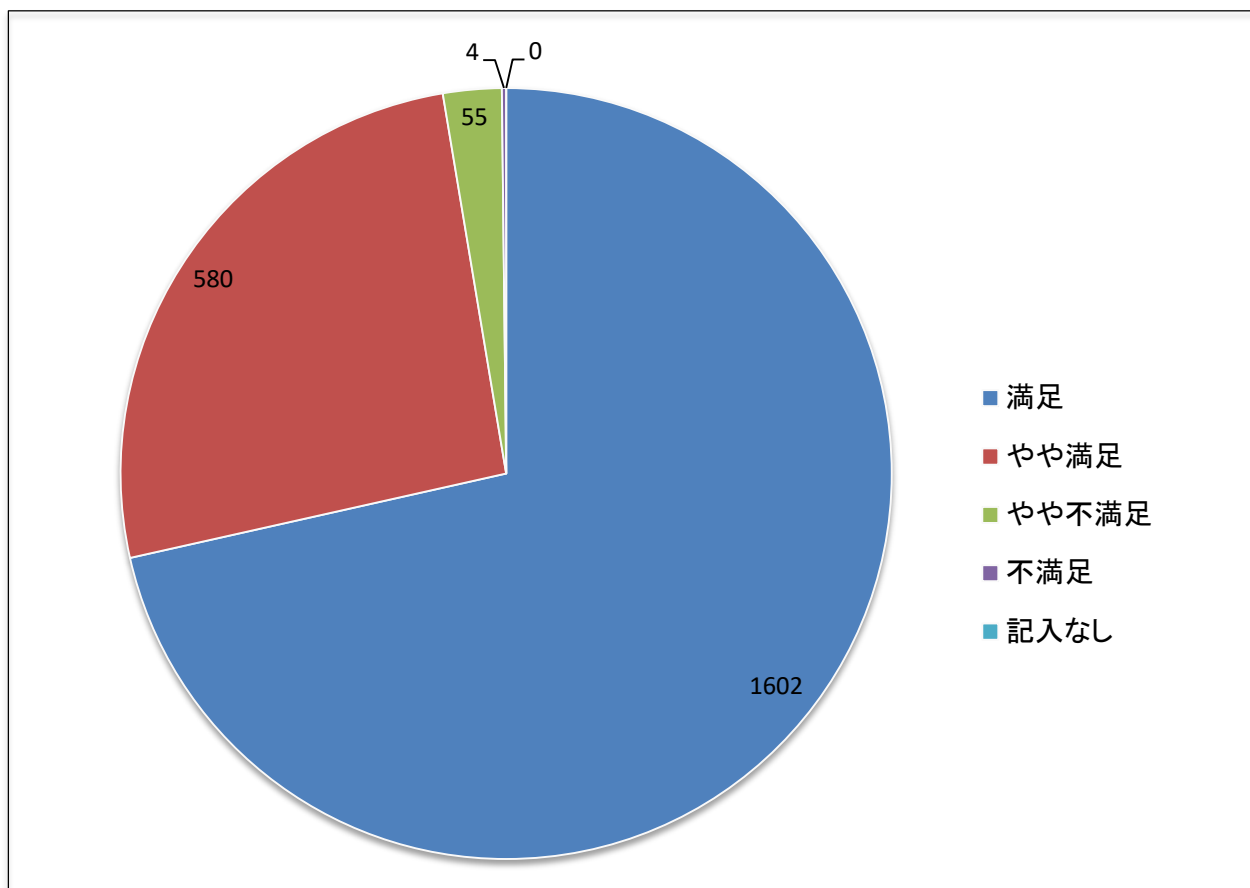
第4図 居住地 ( N=2,241 )



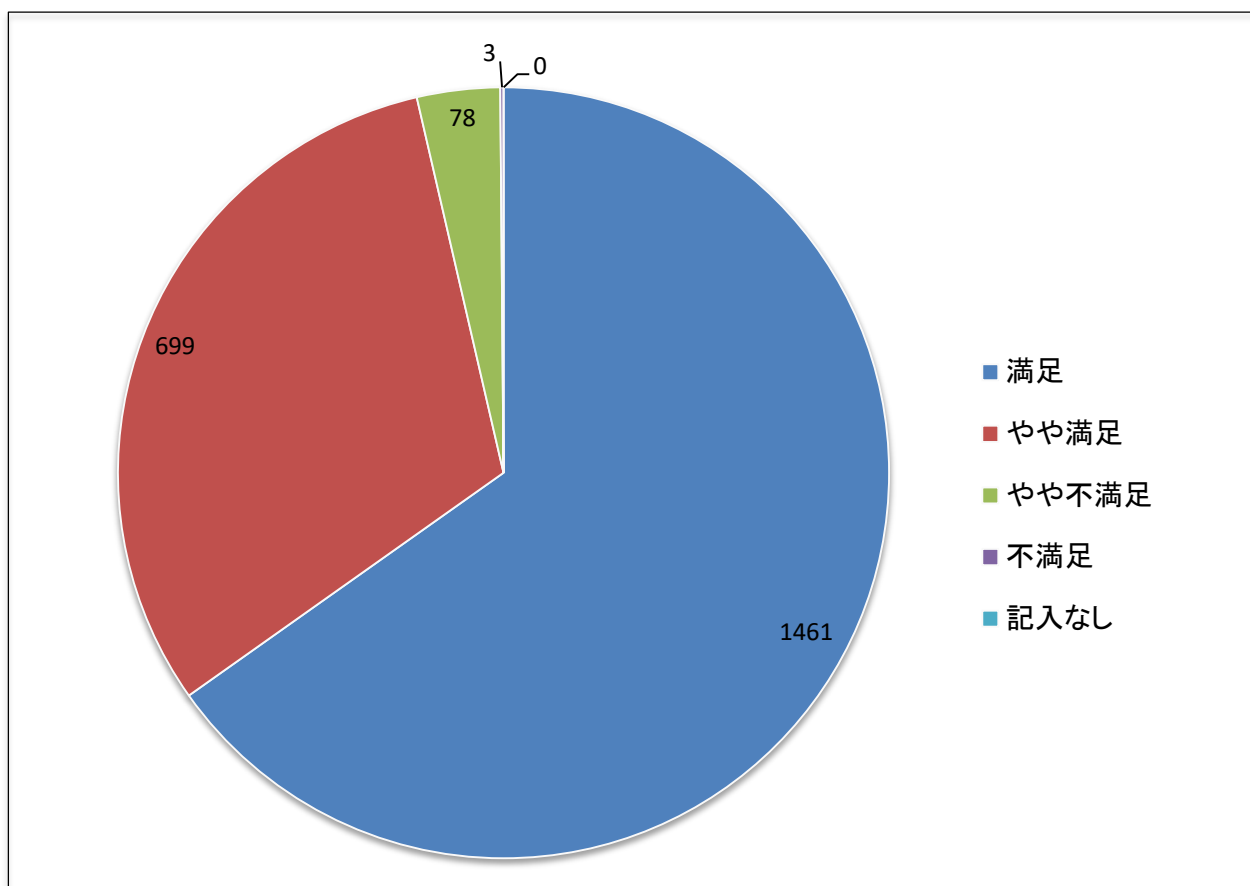
第5図 来館のきっかけ(N=2,395)



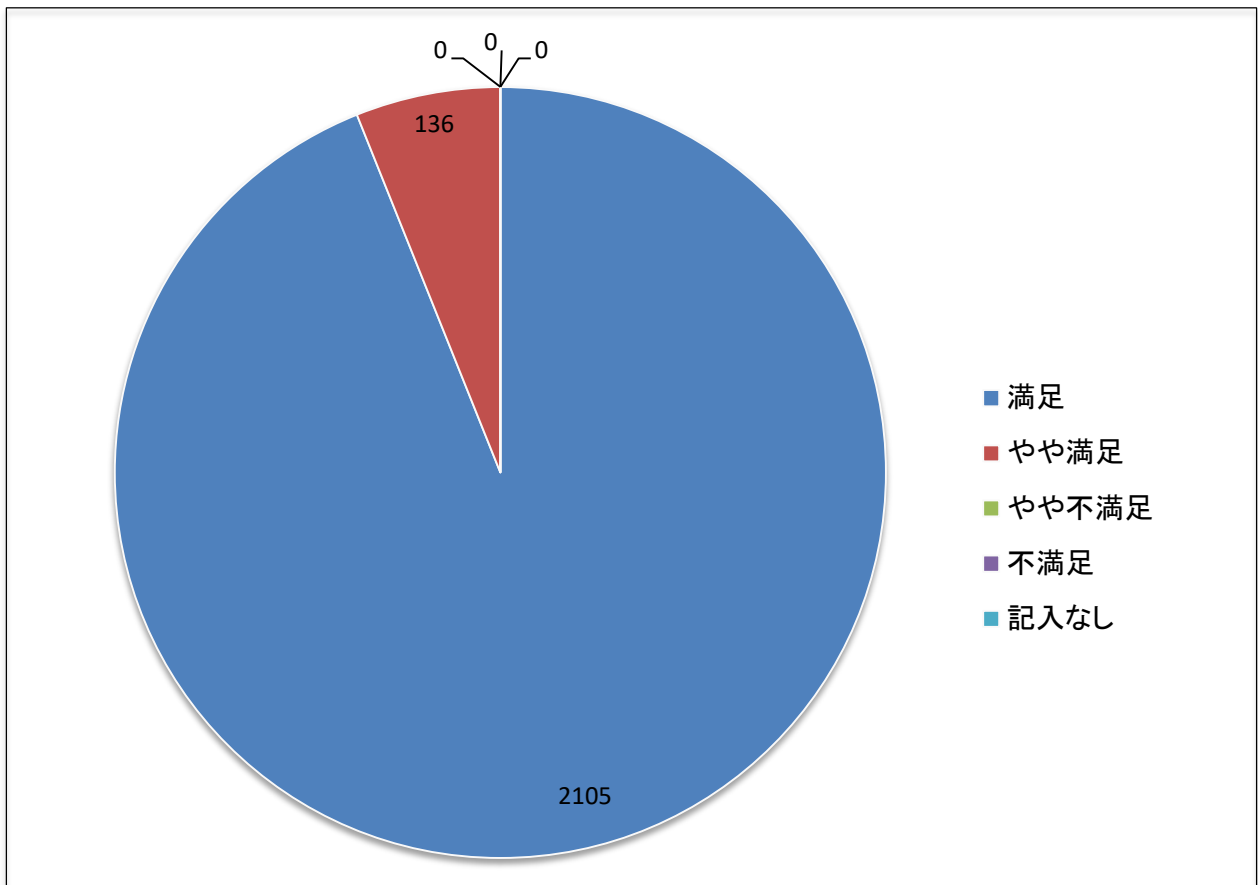
第6図 興味を持った展示テーマ(複数回答可)(n=5,320)



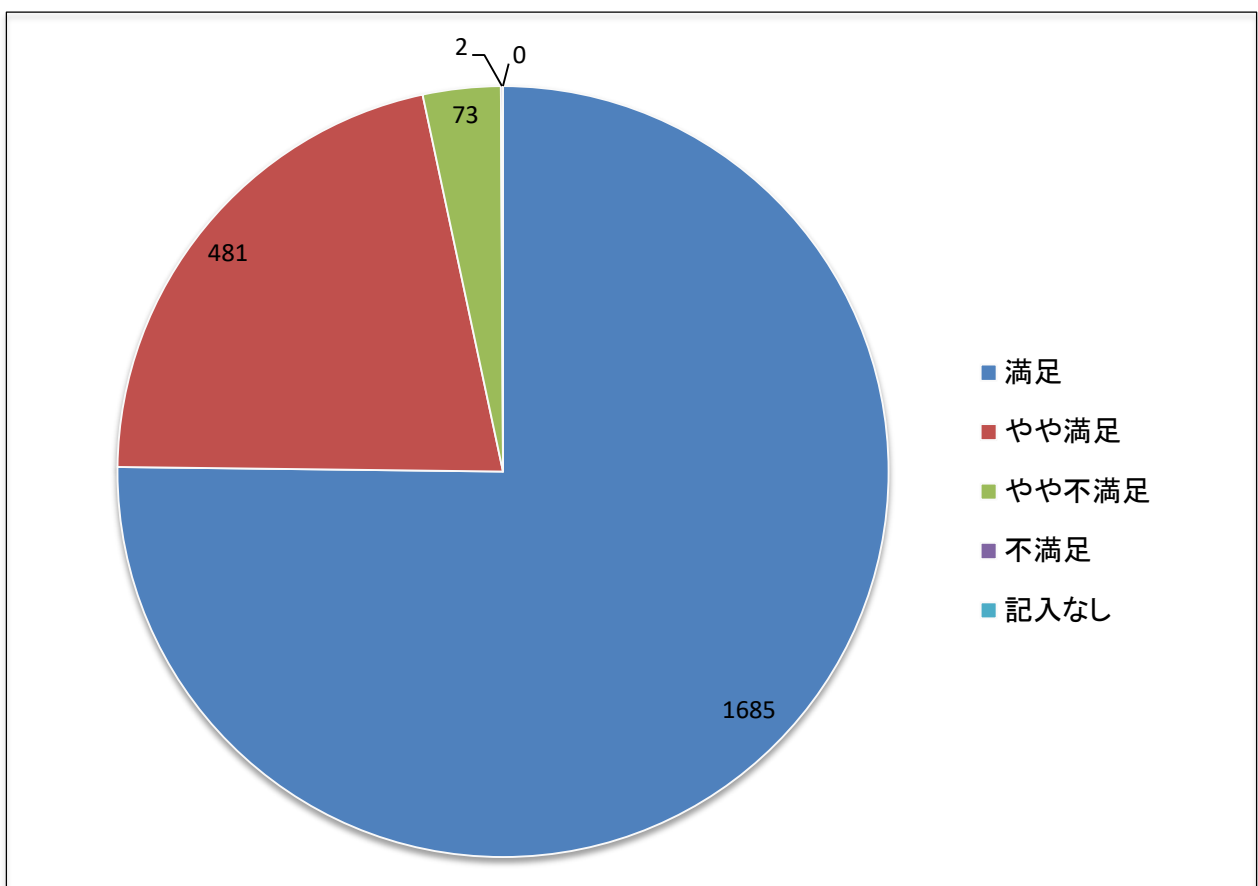
第7図 展示物について(展示の仕方)(N=2,241)



第8図 展示物について(機器の使い勝手)(N=2,241)

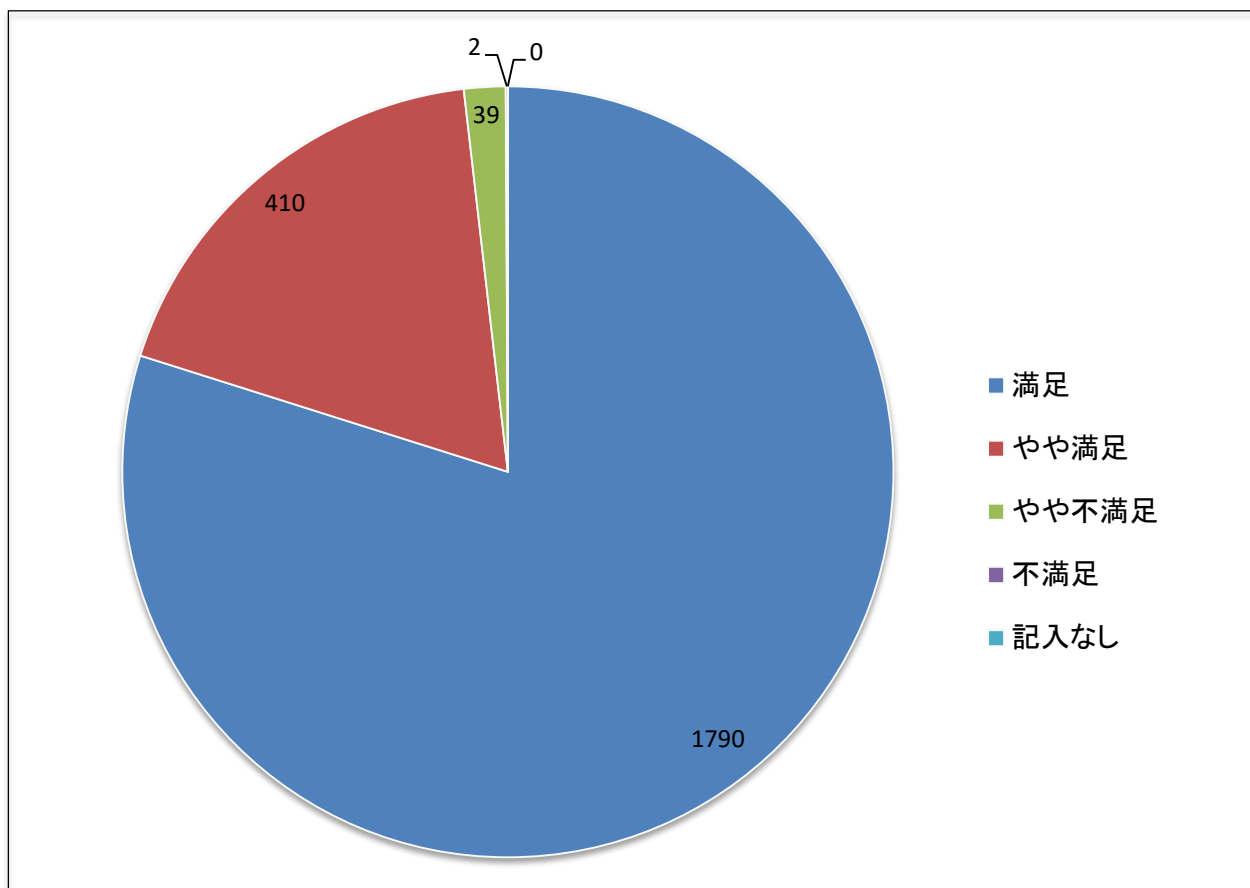


第9図 建物やサービスについて(受付の対応)(N=2,241)

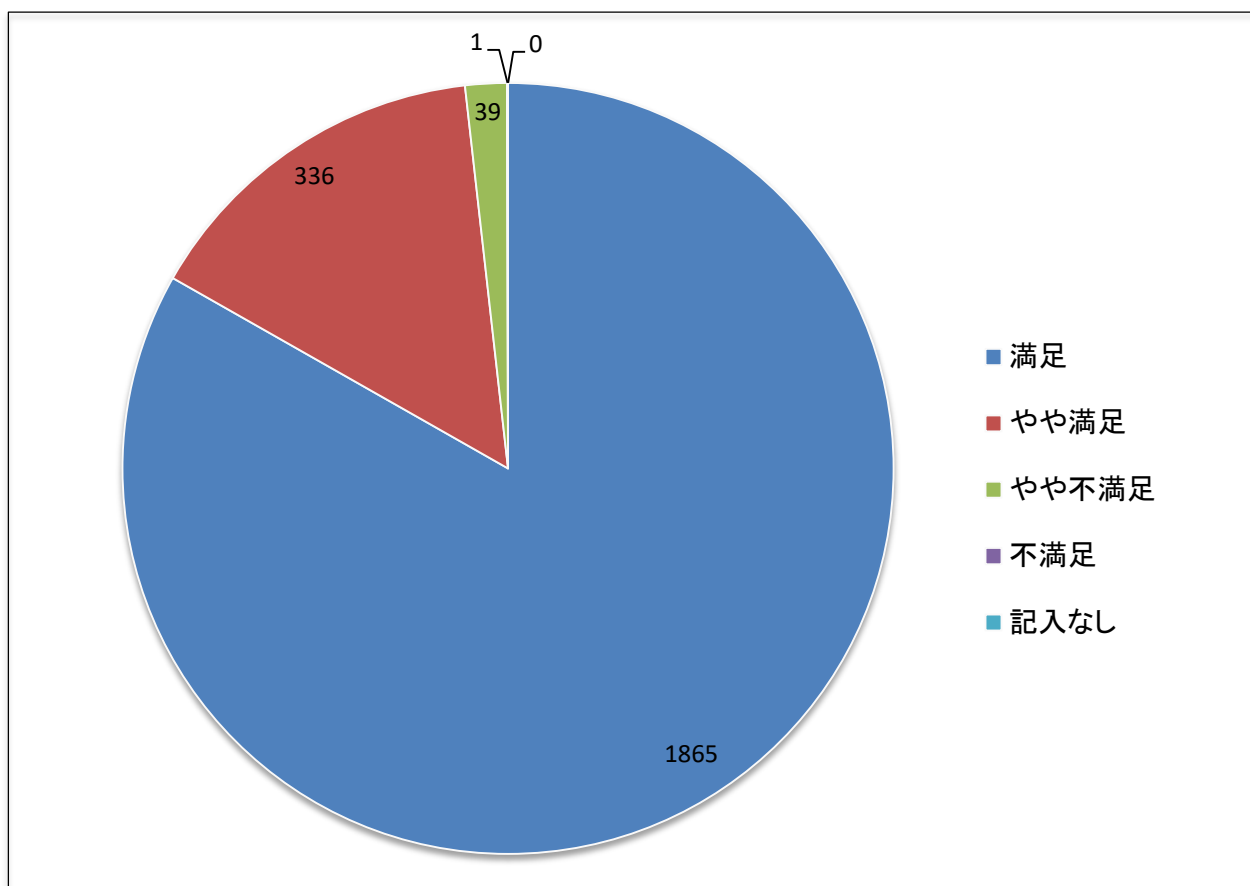


第10図 建物やサービスについて(案内表示)(N=2,241)

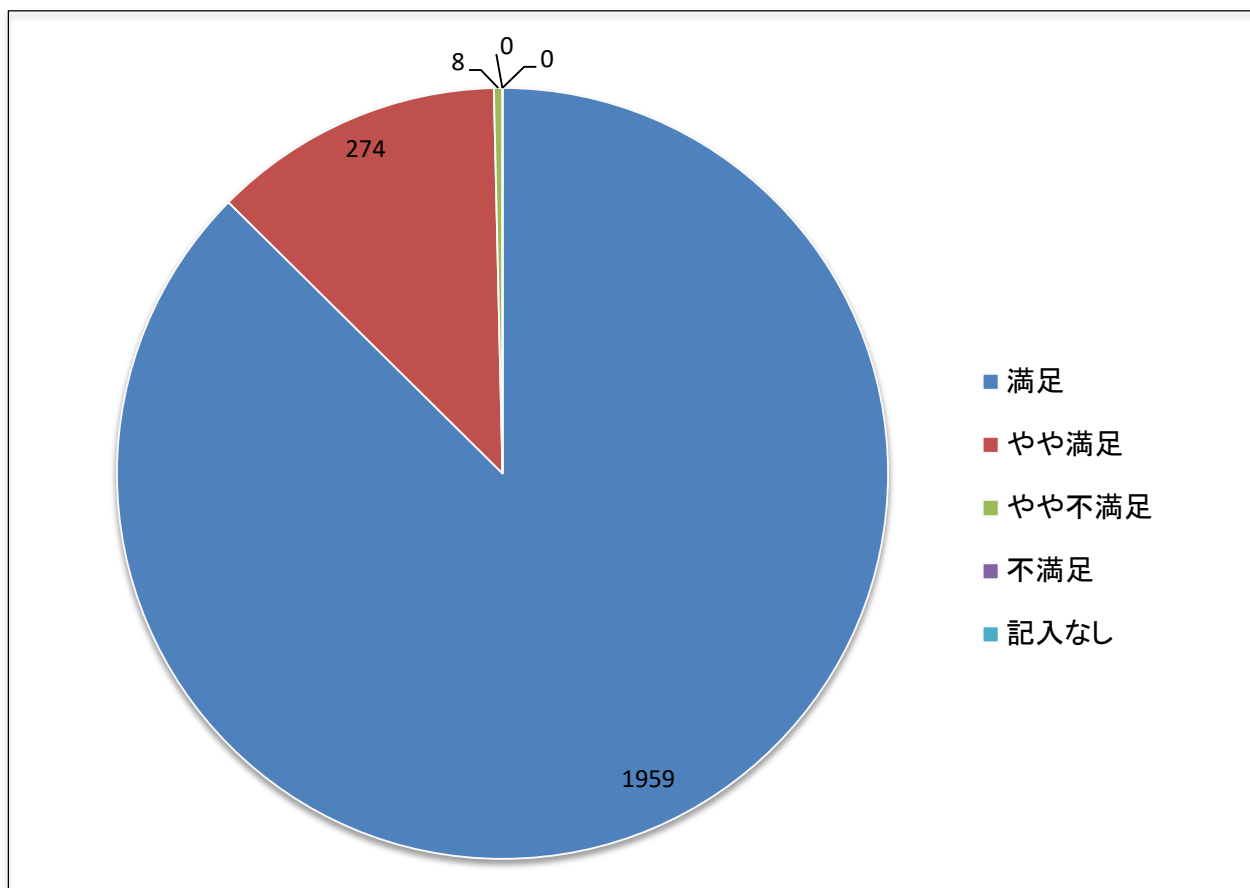




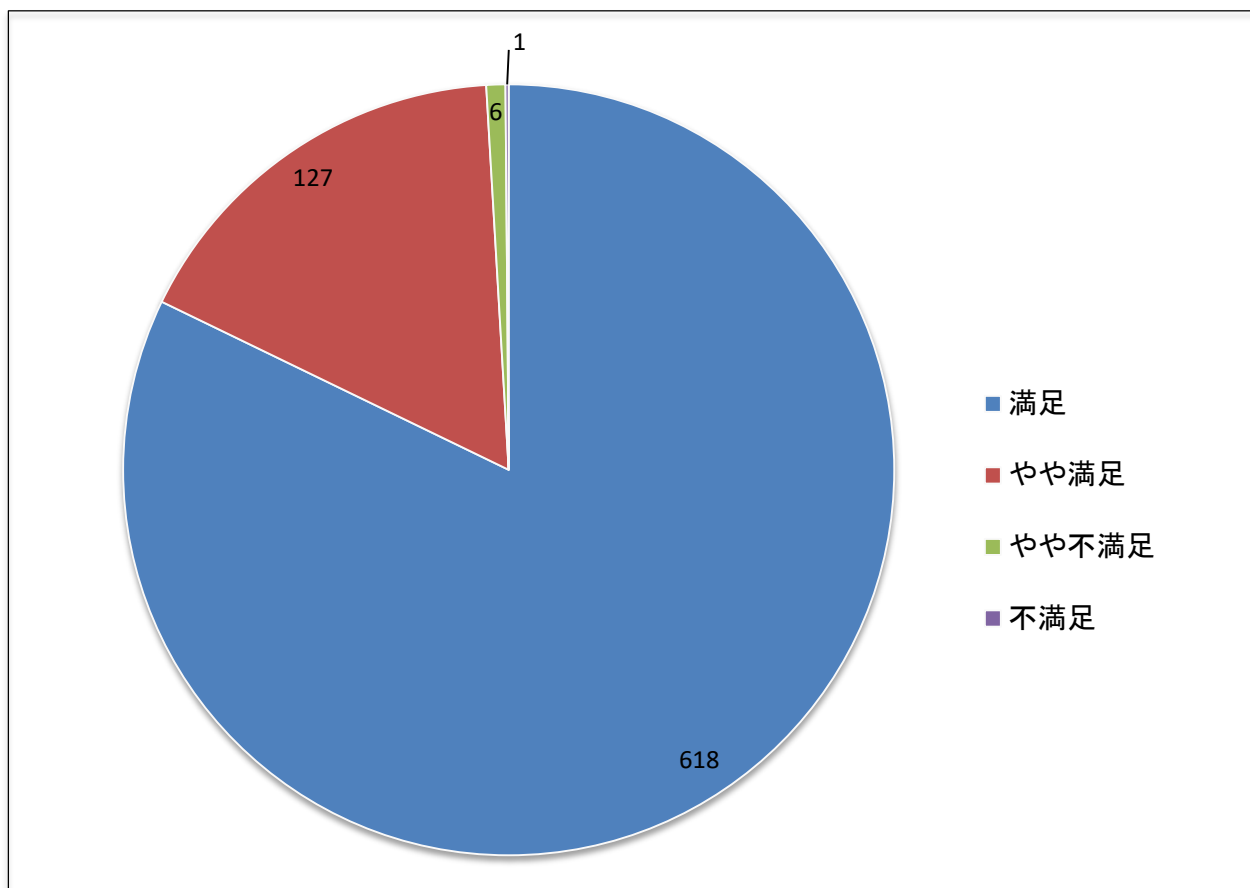
第11図 建物やサービスについて(館内の明るさ) (N=2,241)



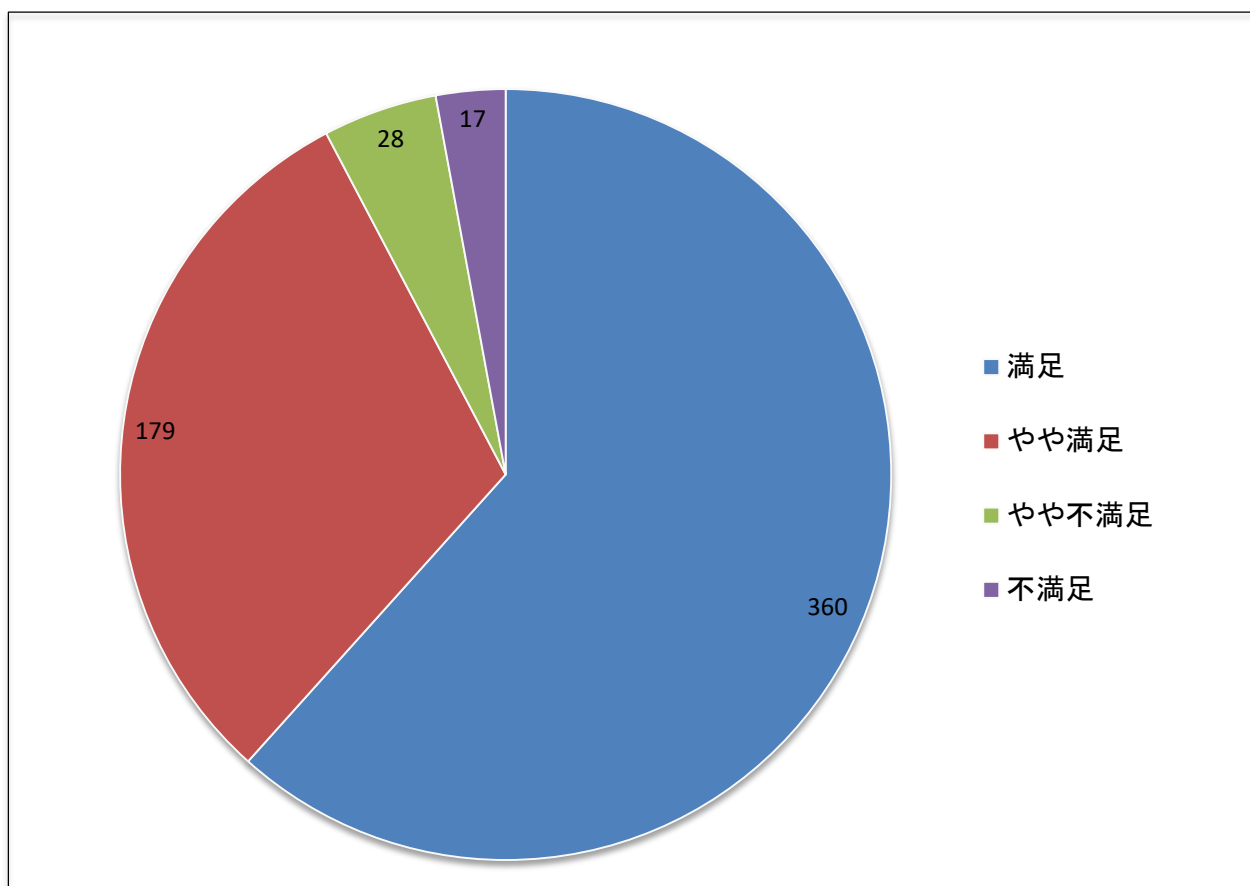
第12図 建物やサービスについて(空調温度) (N=2,241)



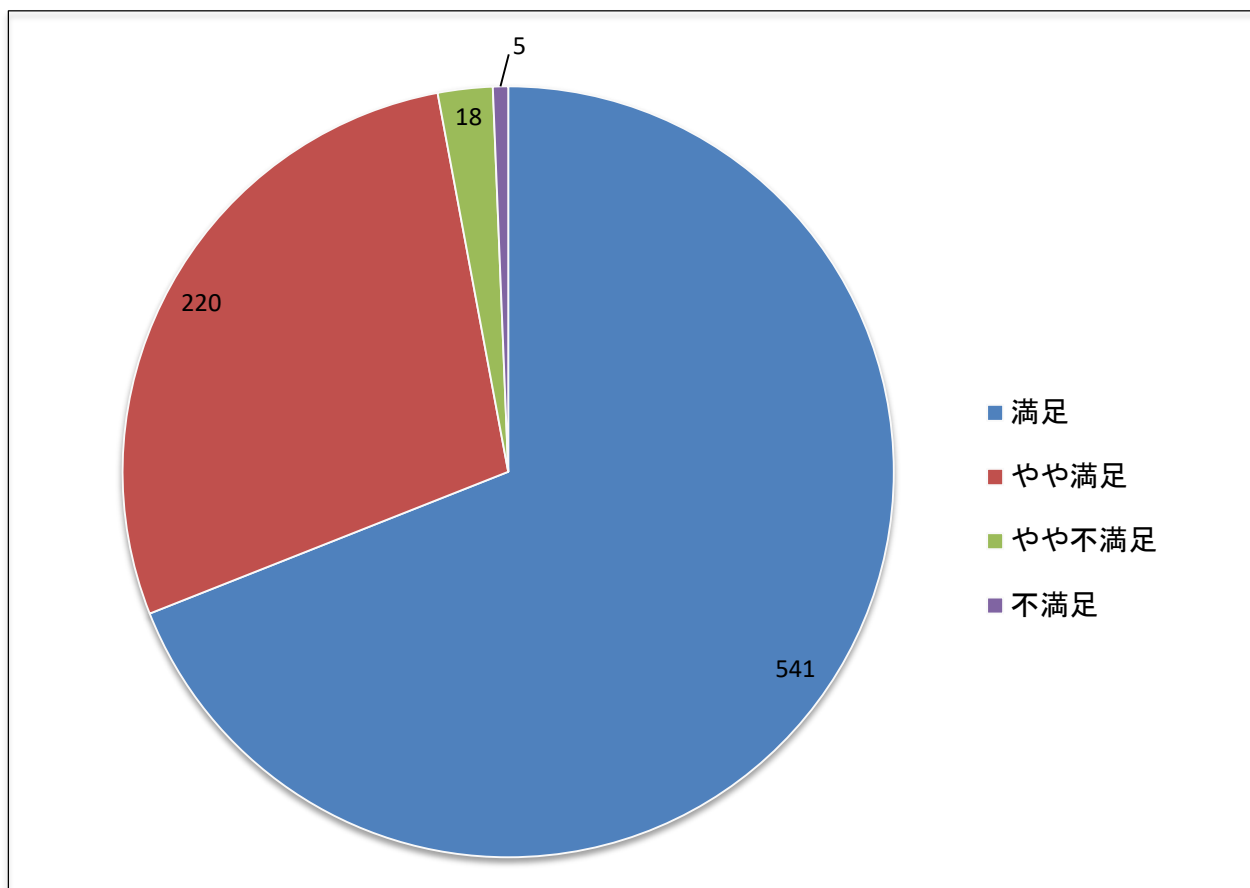
第13図 建物やサービスについて(清掃) (N=2,241)



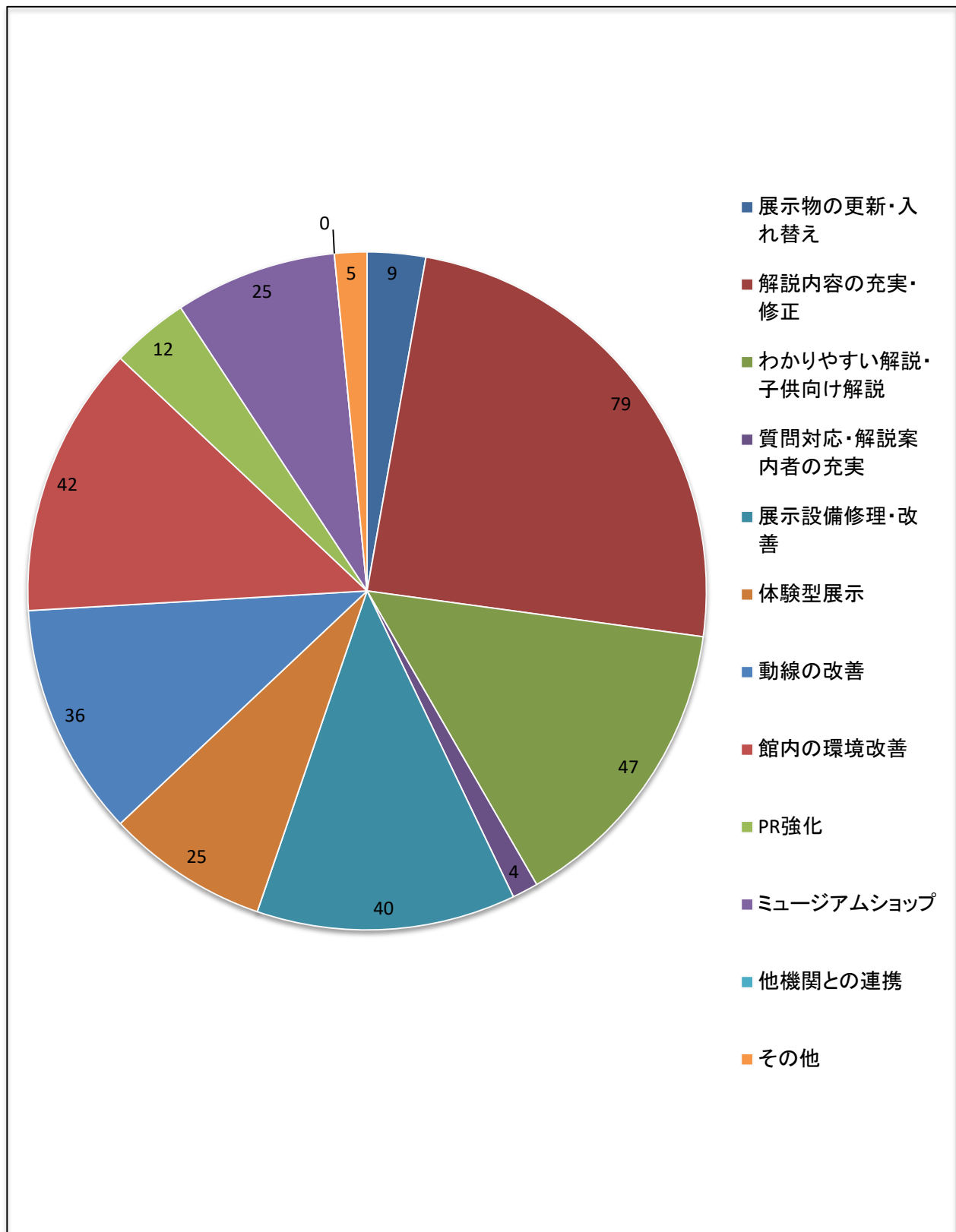
第14図 解説サービスについて(解説案内) (N=752)



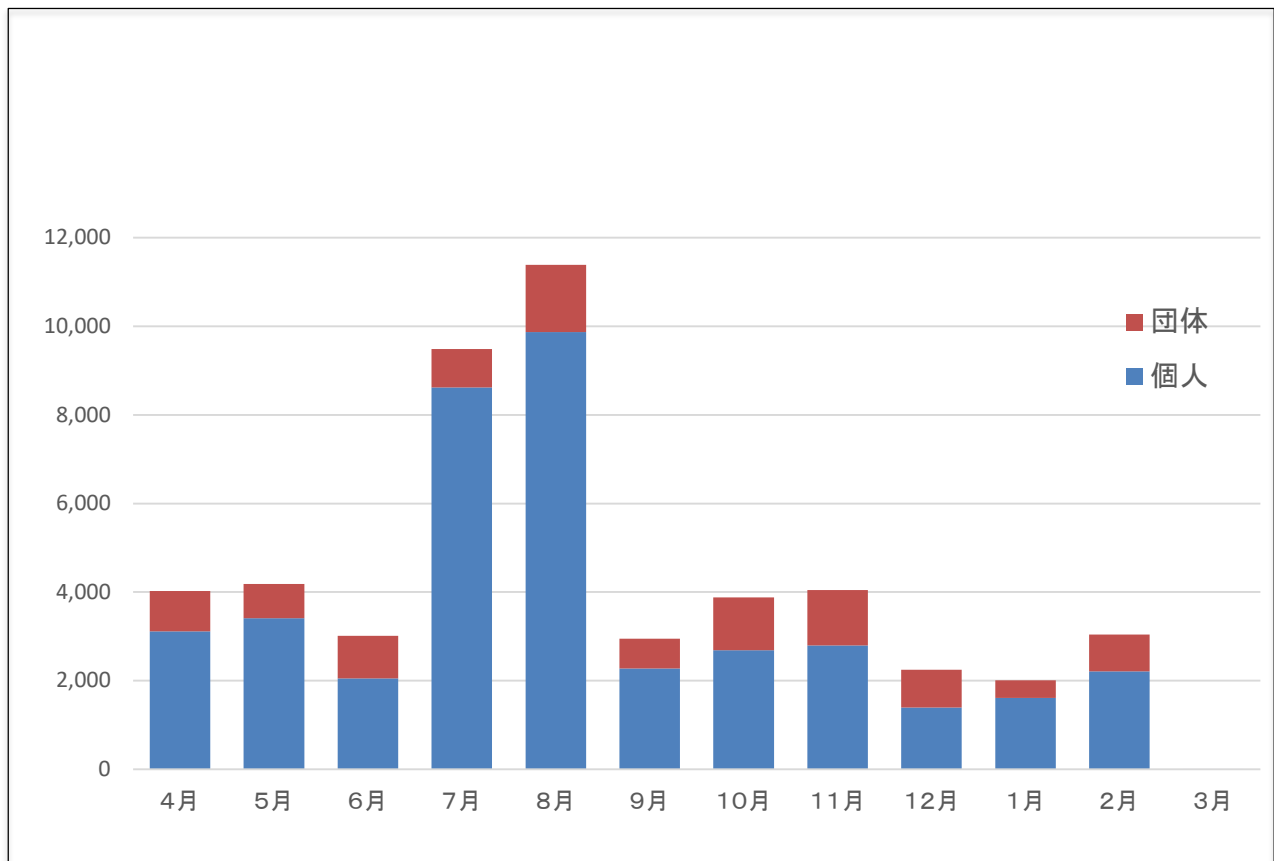
第15図 解説サービスについて(QRコード解説) (N=584)



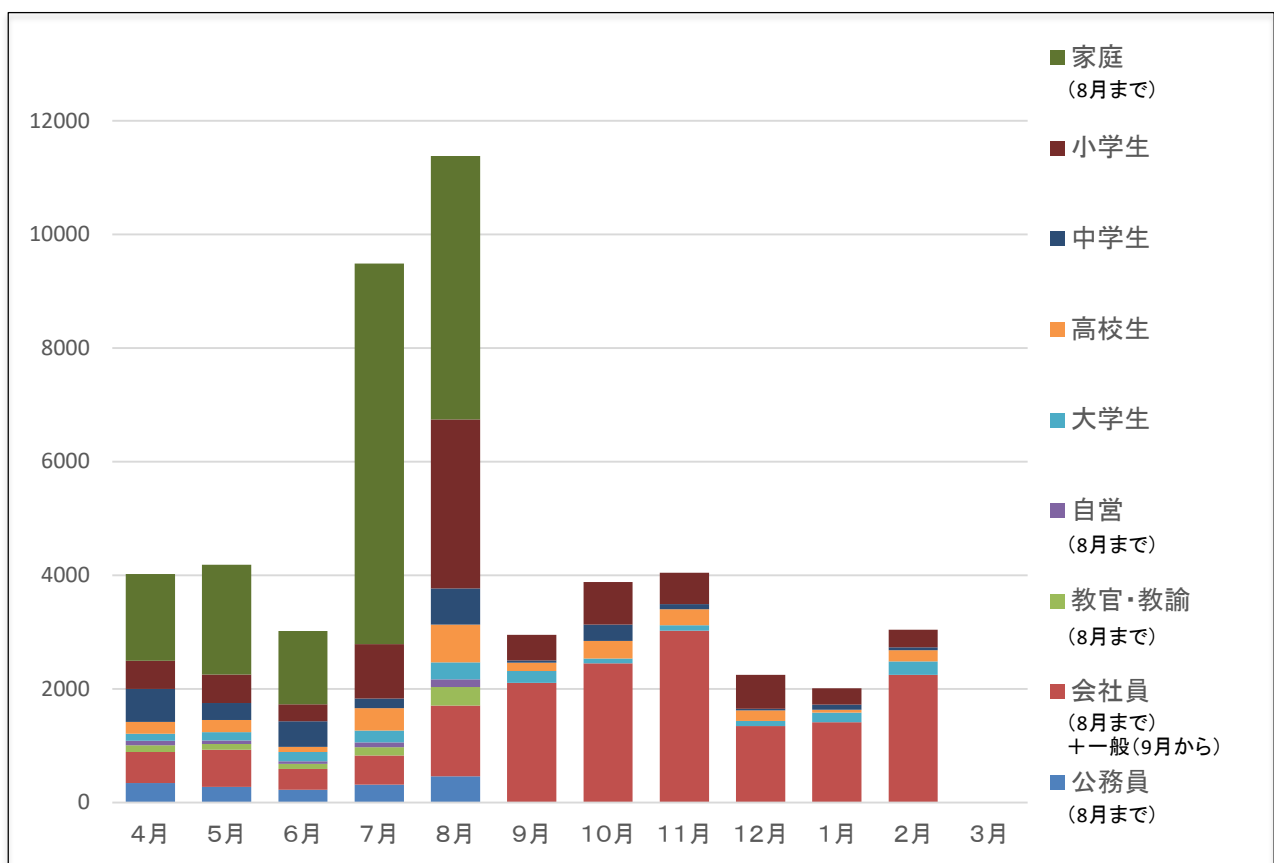
第16図 解説サービスについて(標本館クイズ)(N= 784)



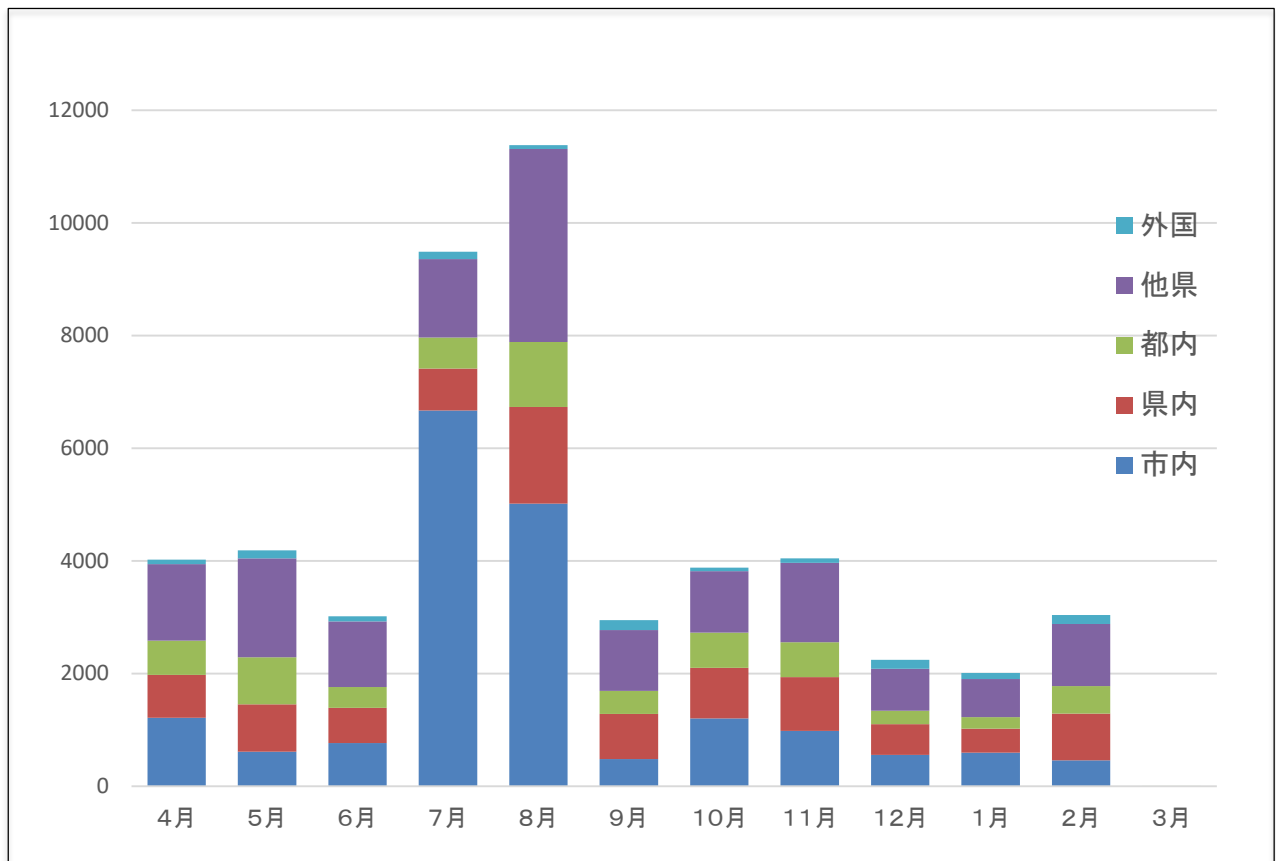
第17図 今後の展示内容の改善要望 (n=324)



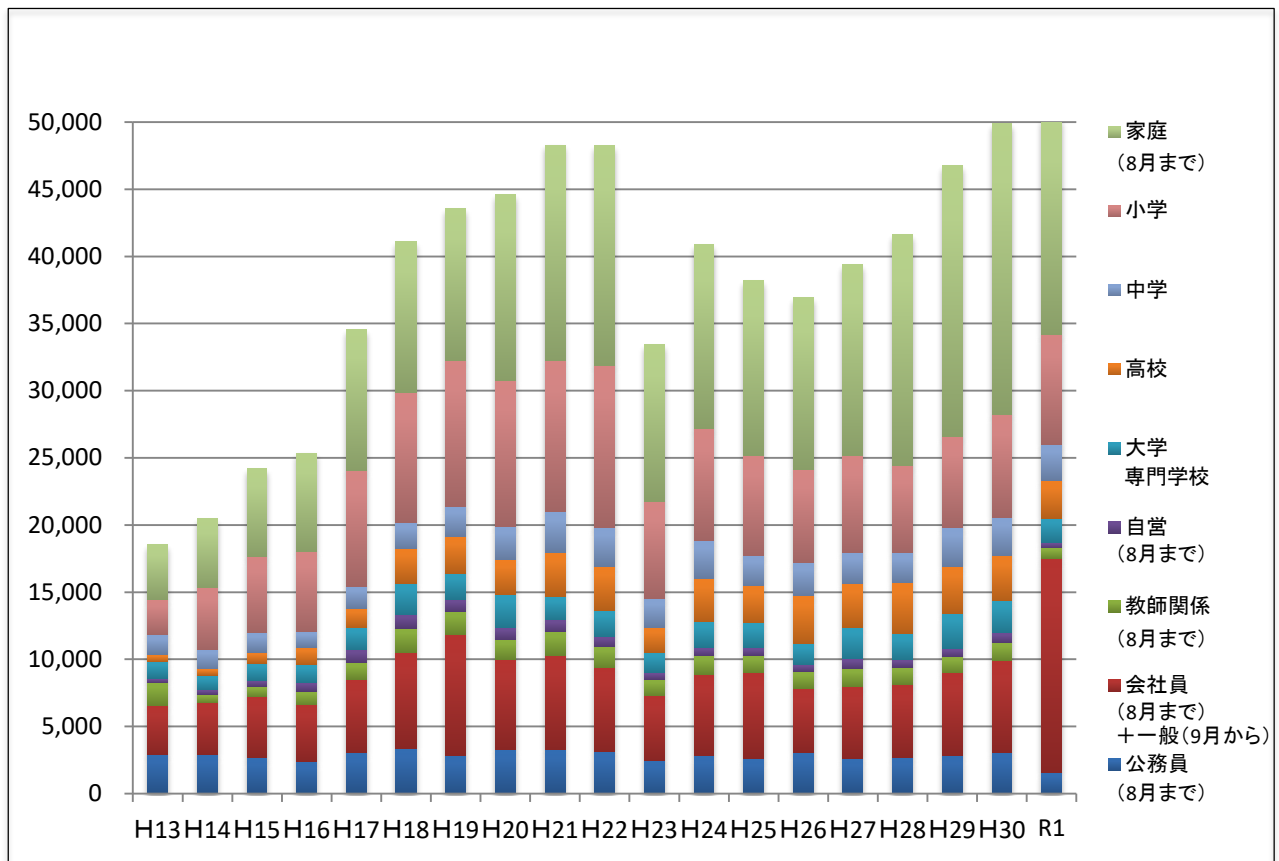
第18図 2019年度の月ごとの来館者数(N=50,266)



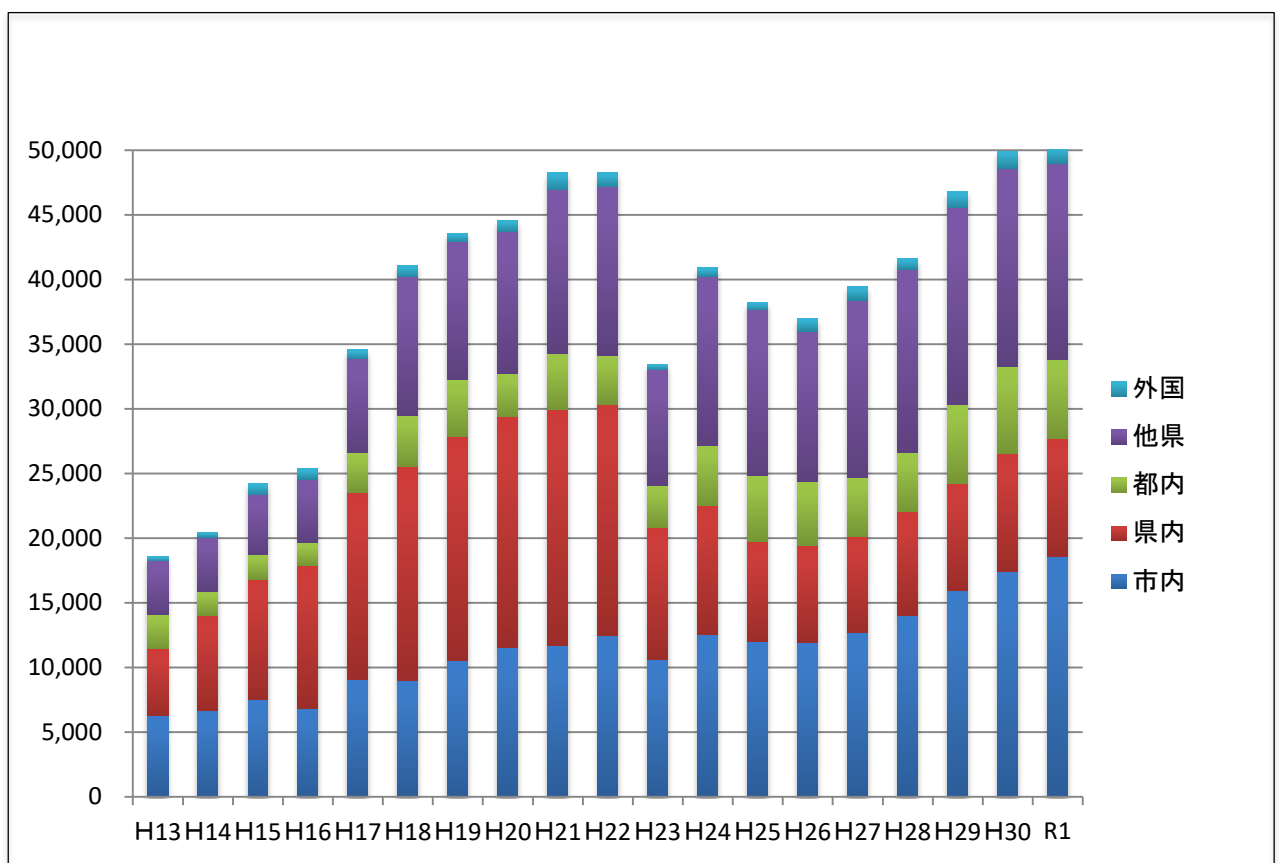
第19図 2019年度の月ごとの来館者職域内訳(N=50,266)



第20図 2019年度の月ごとの来館者地域別内訳(N=50,266)

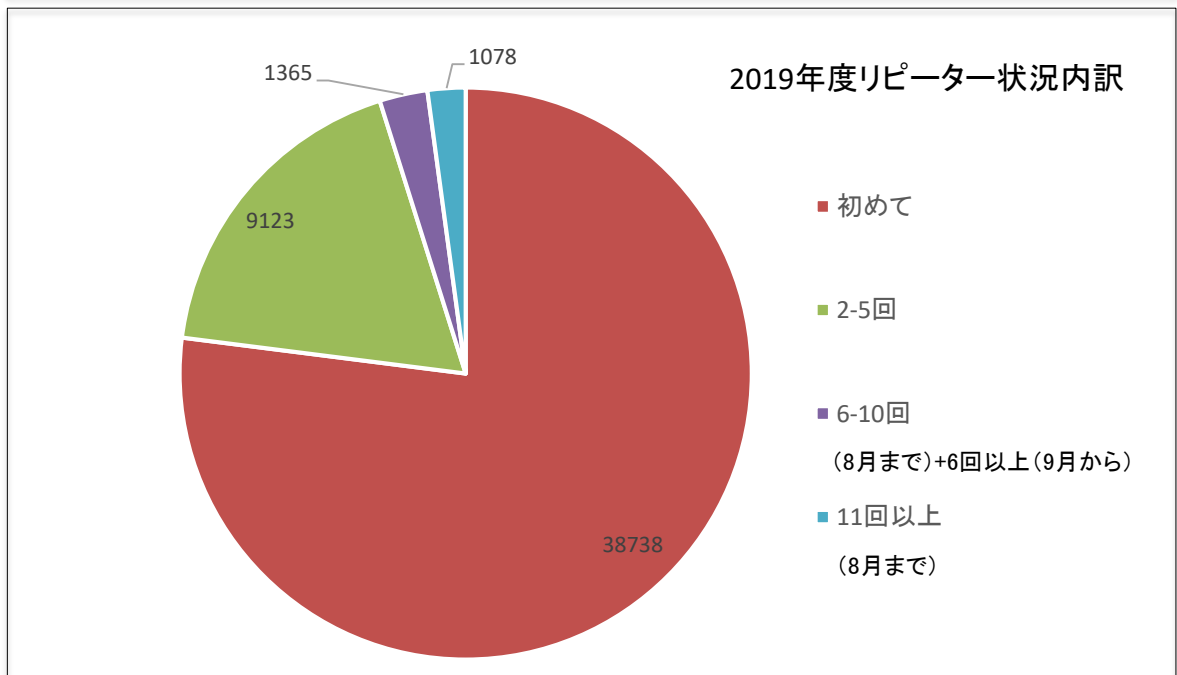
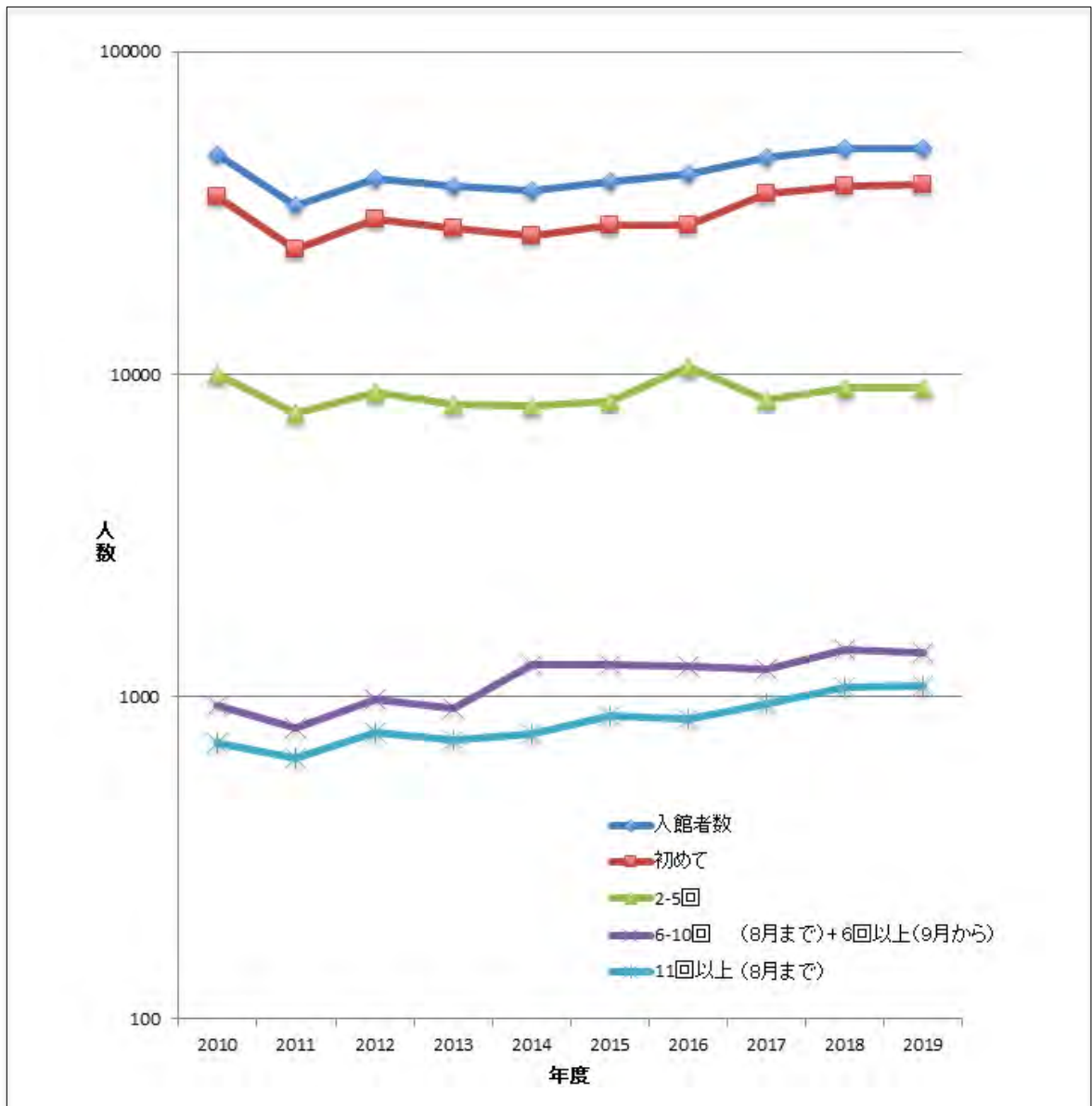


第21図 来館者数総計推移(職業別)

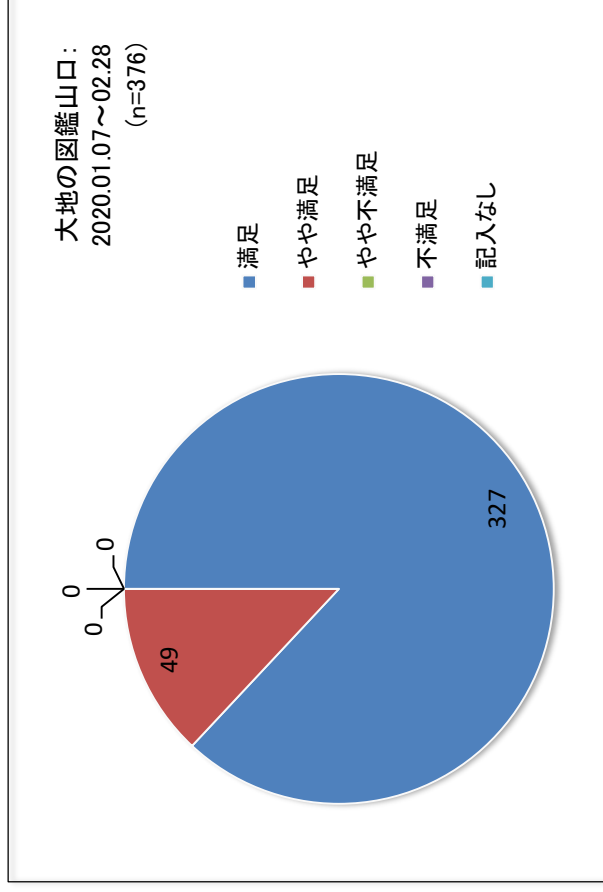
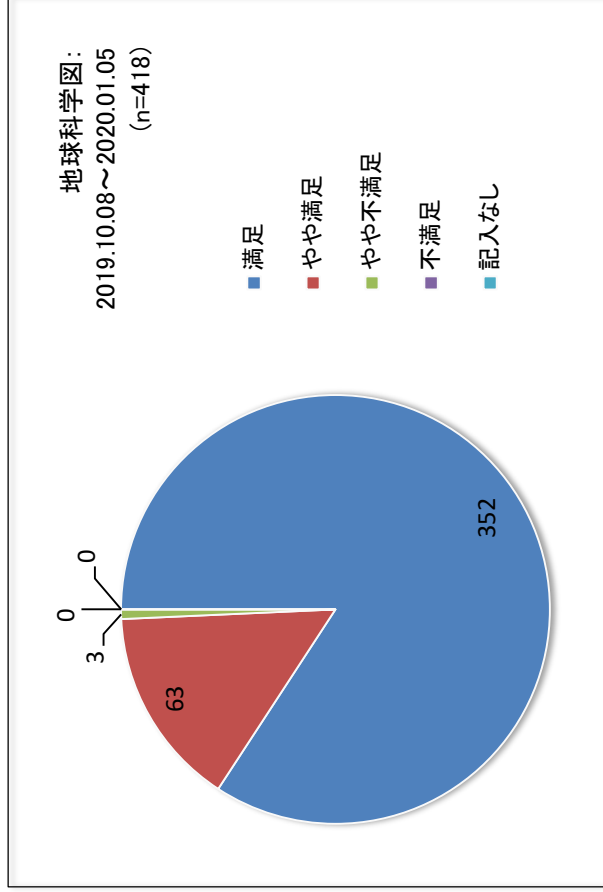
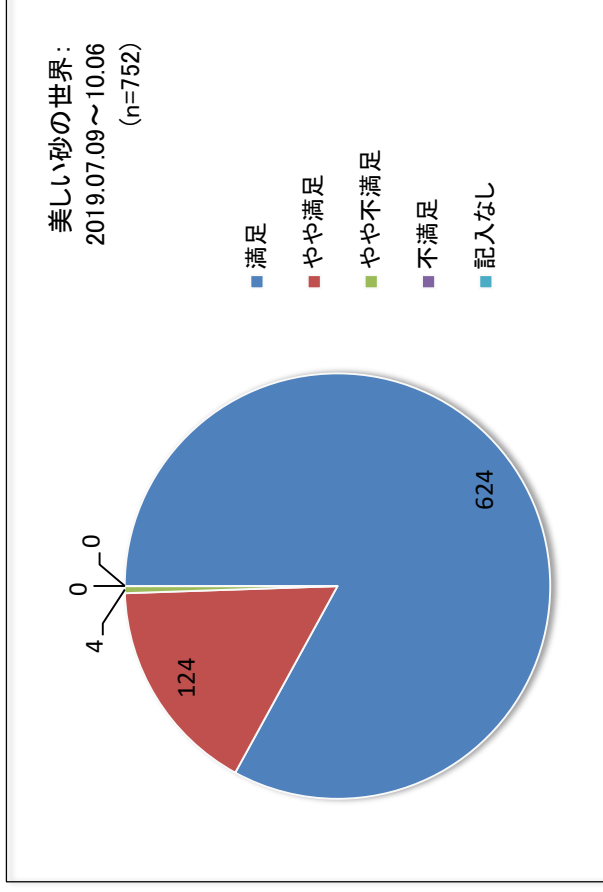
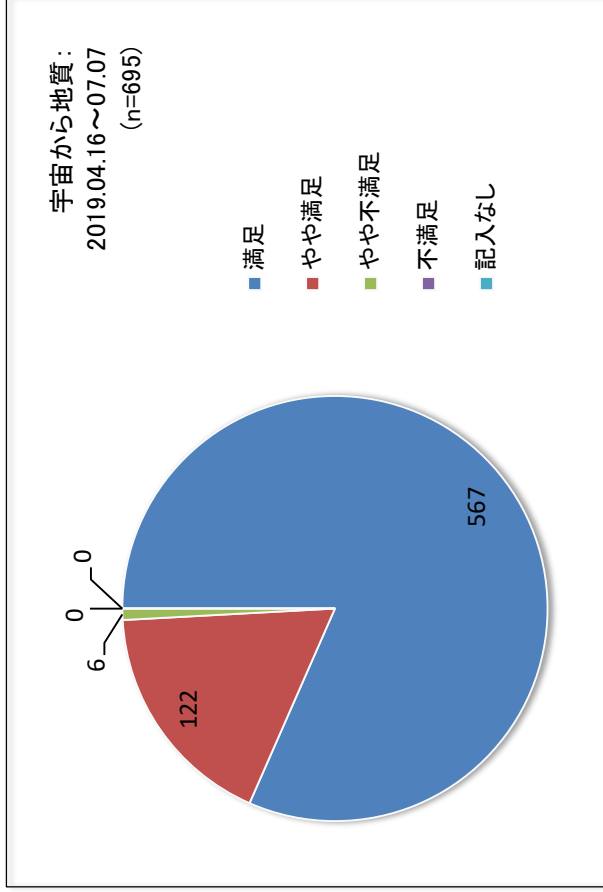


第22図 来館者数総計推移(地域別)

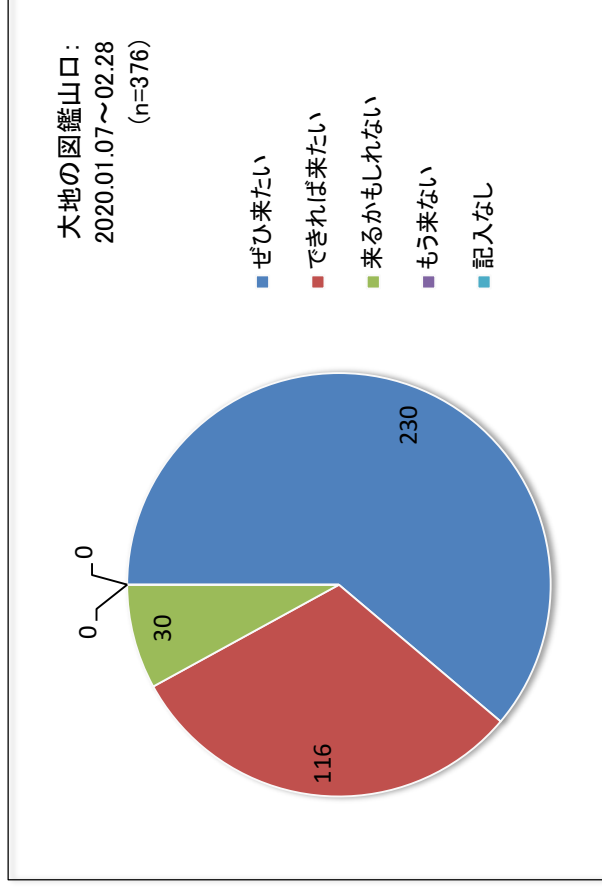
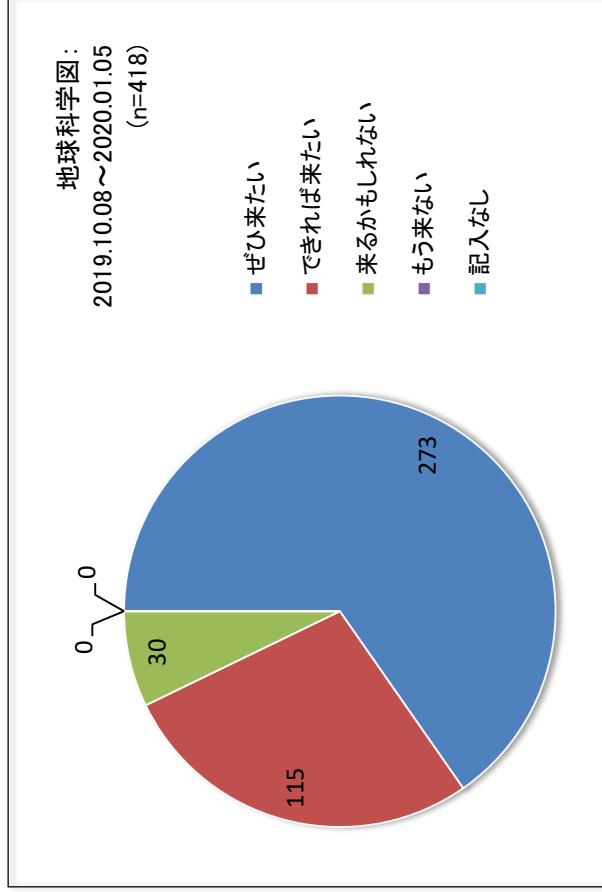
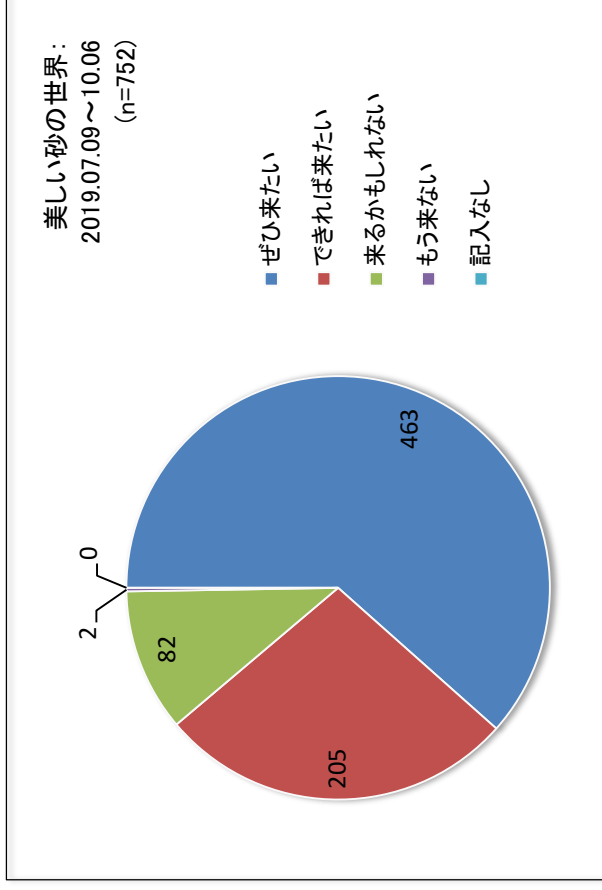
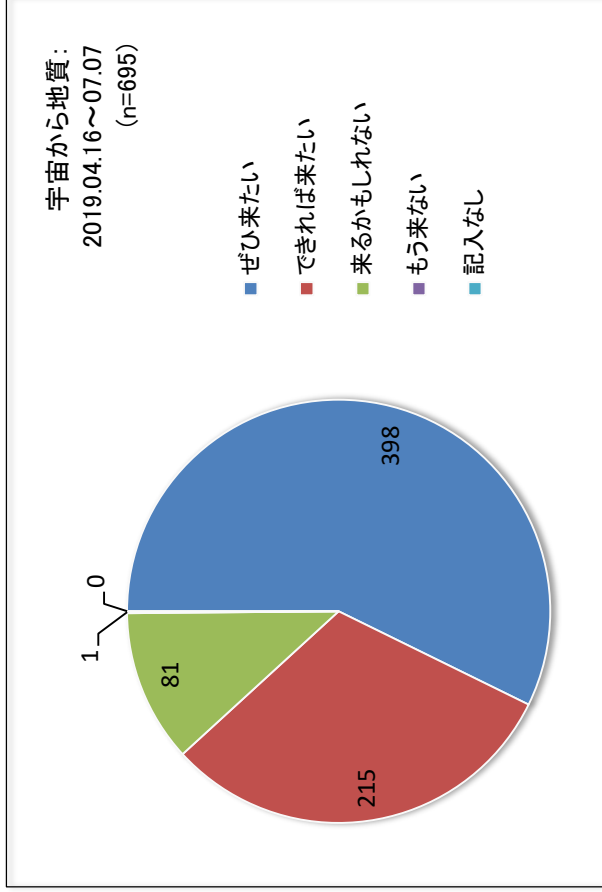




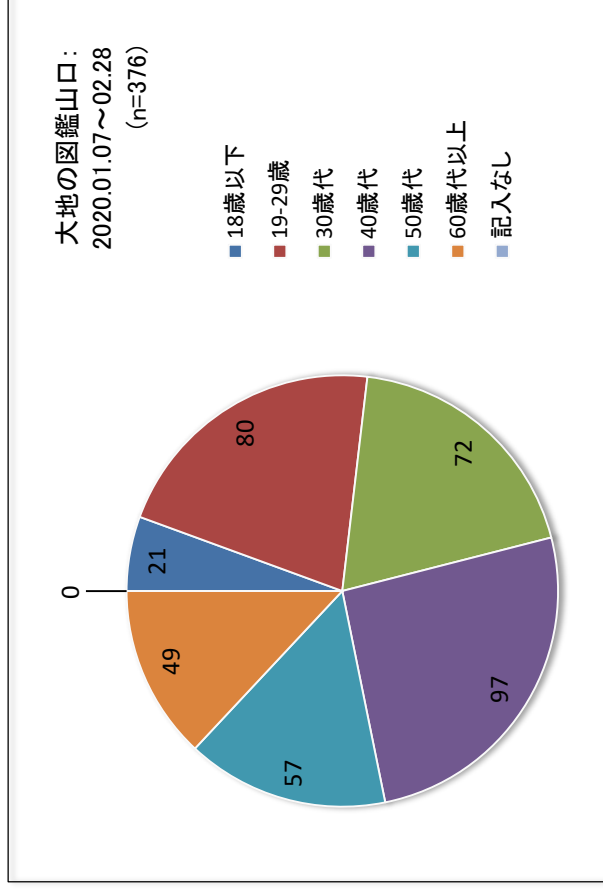
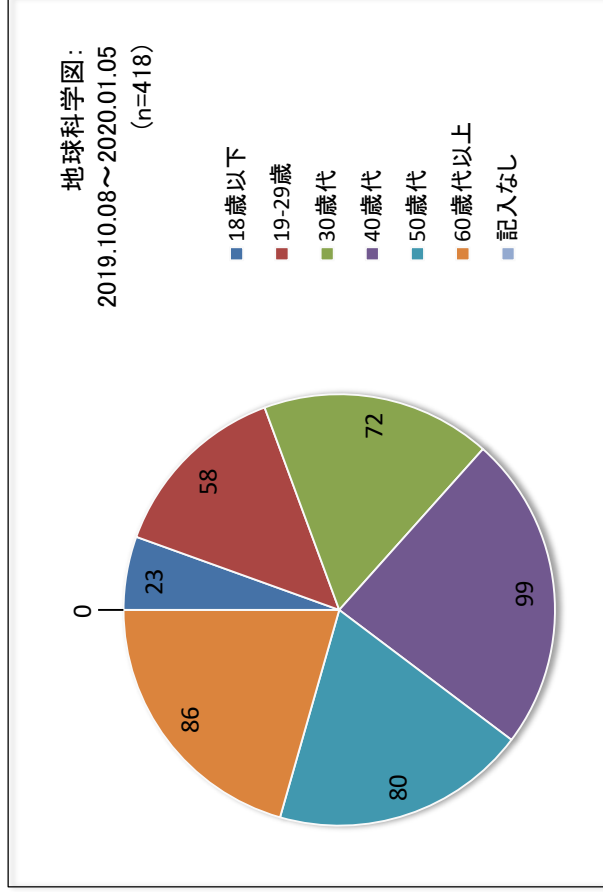
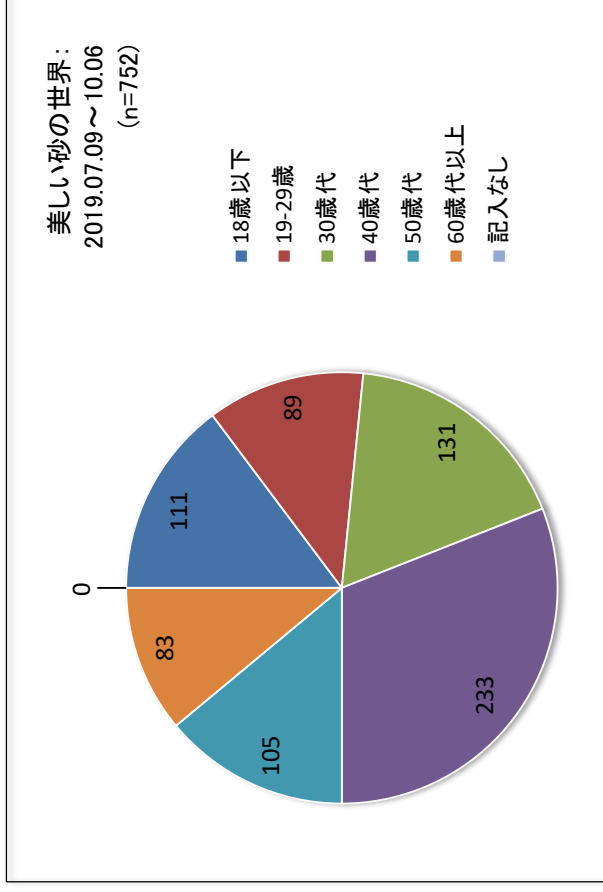
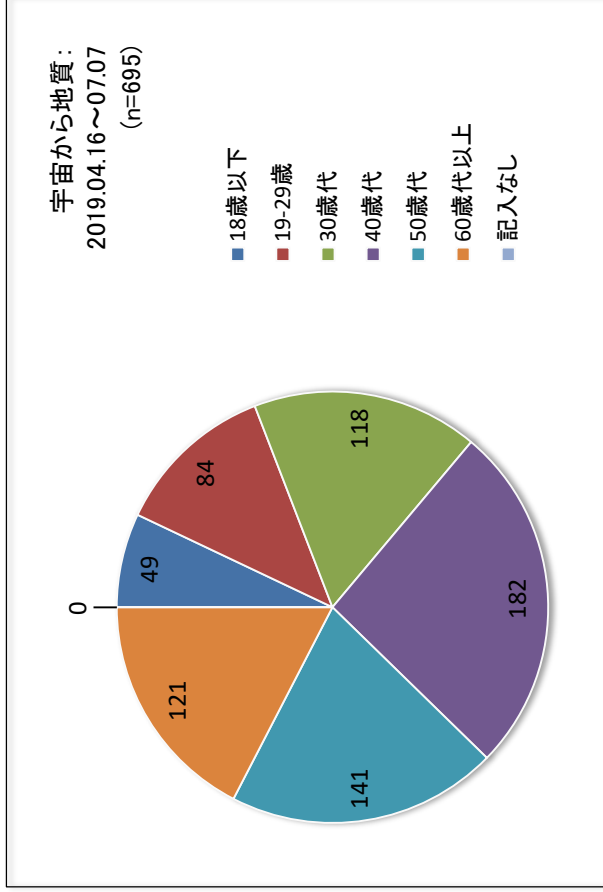
第23図 来館者数とリピーター状況



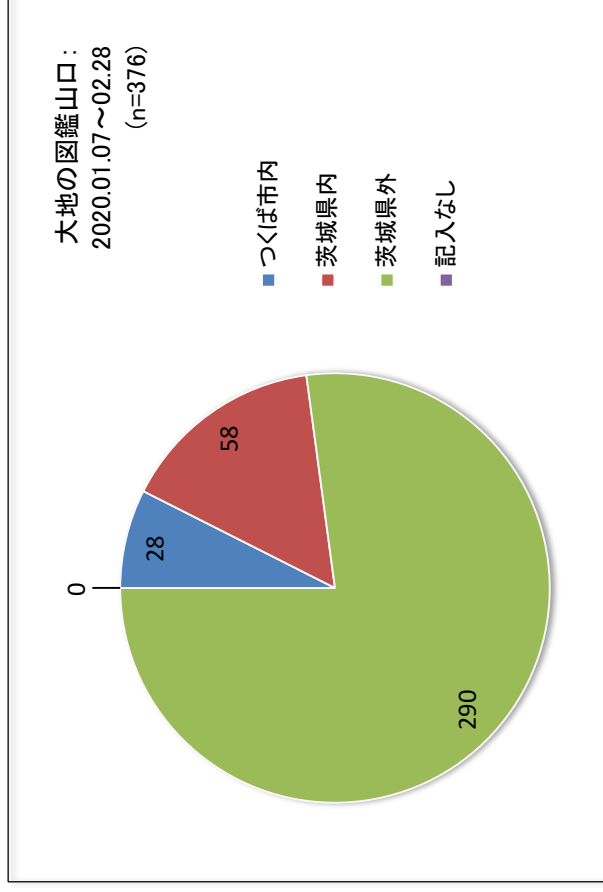
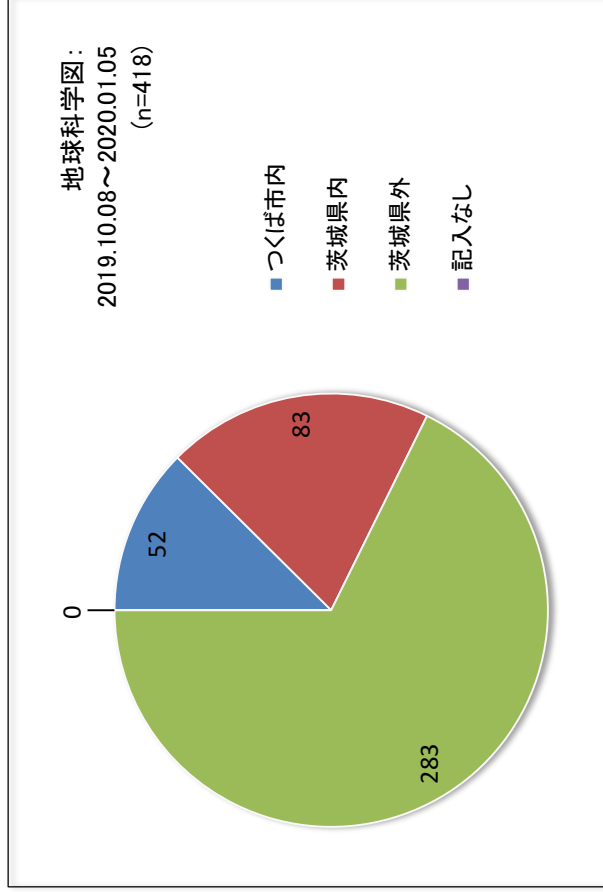
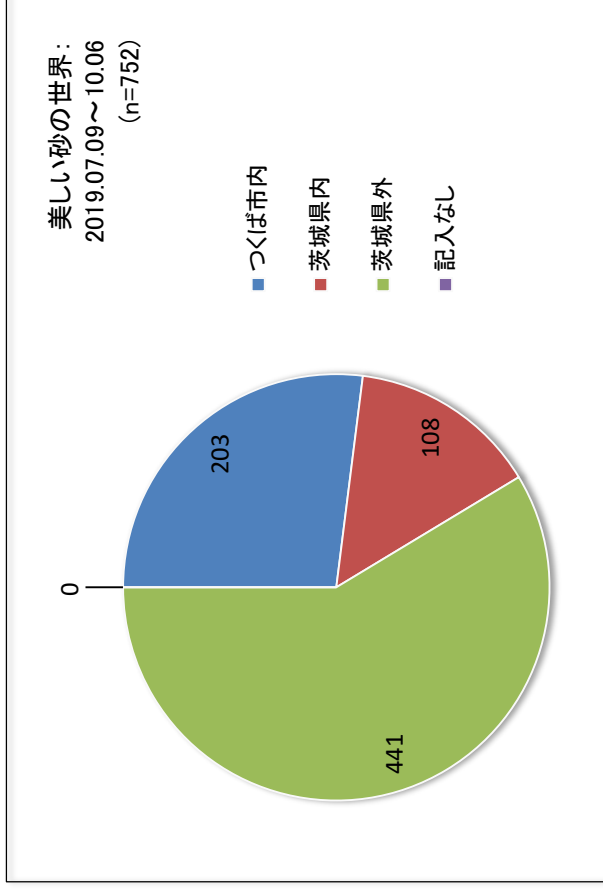
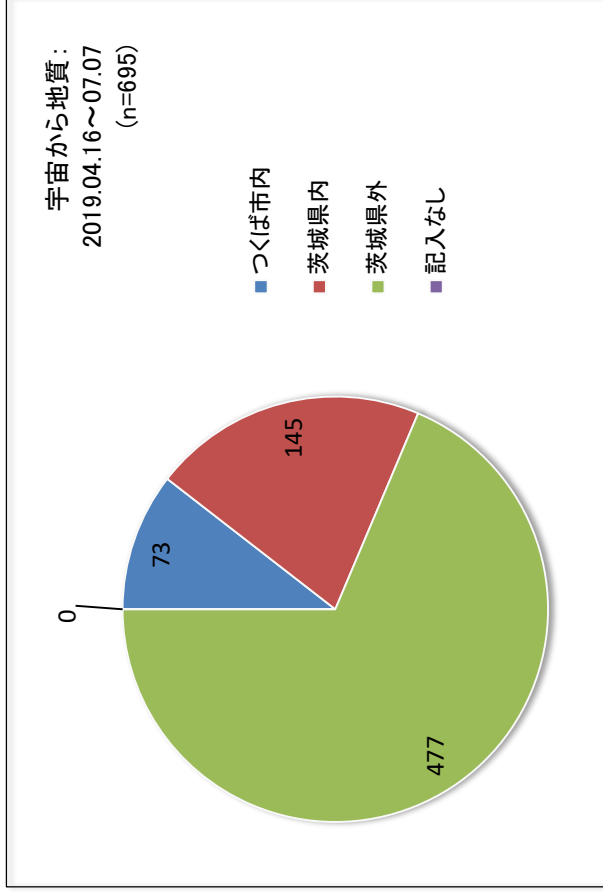
第24図 満足度(館全般)(期間ごと)



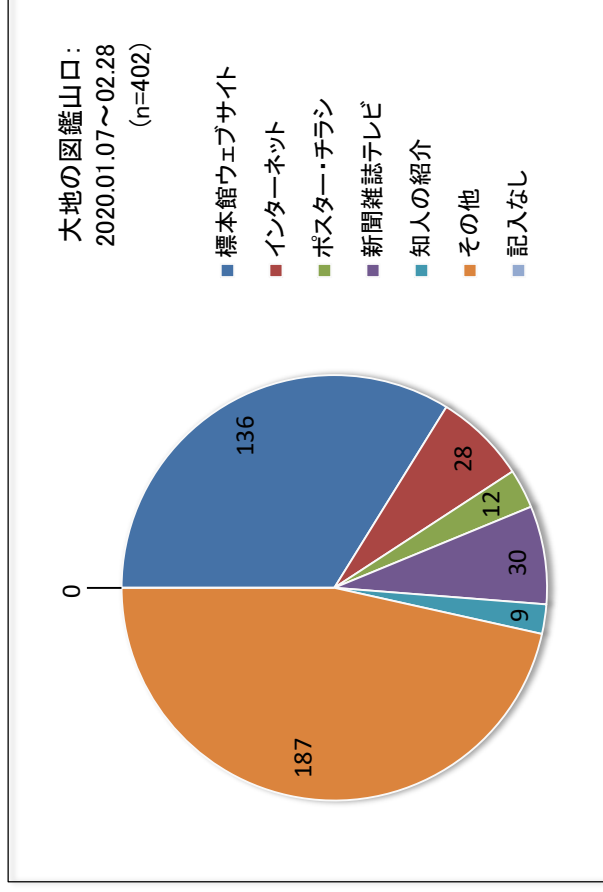
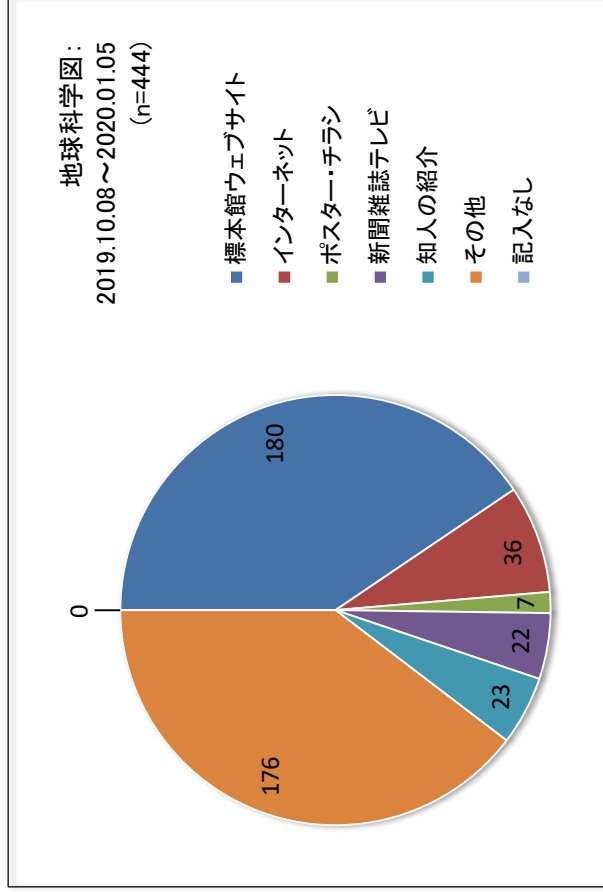
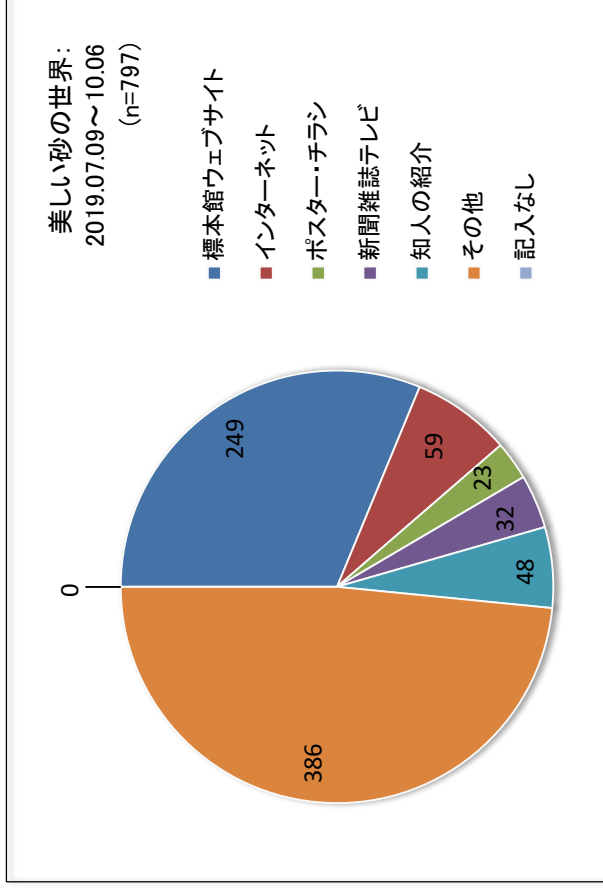
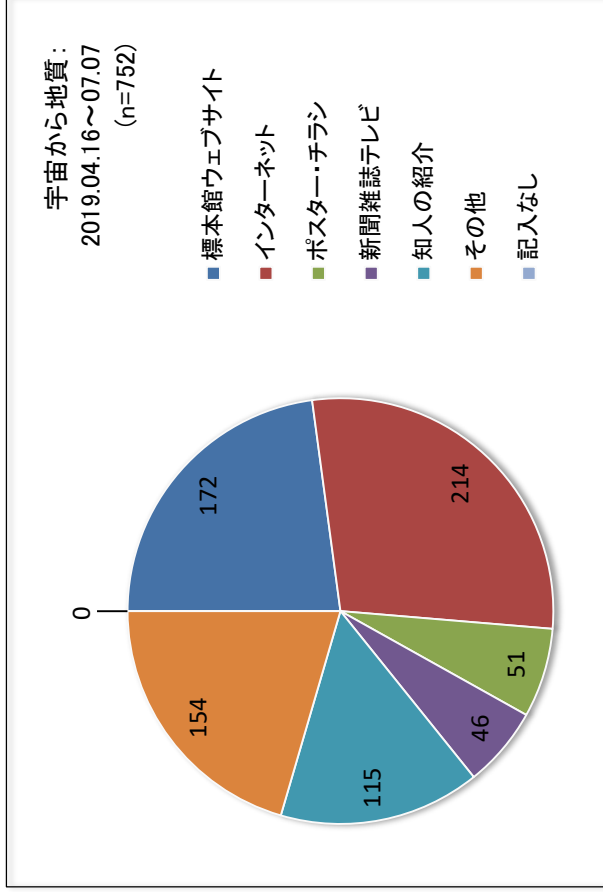
第25図 満足度(次回への期待)(期間ごと)



第26図 回答者の年齢層(期間ごと)



第27図 居住地(期間ごと)



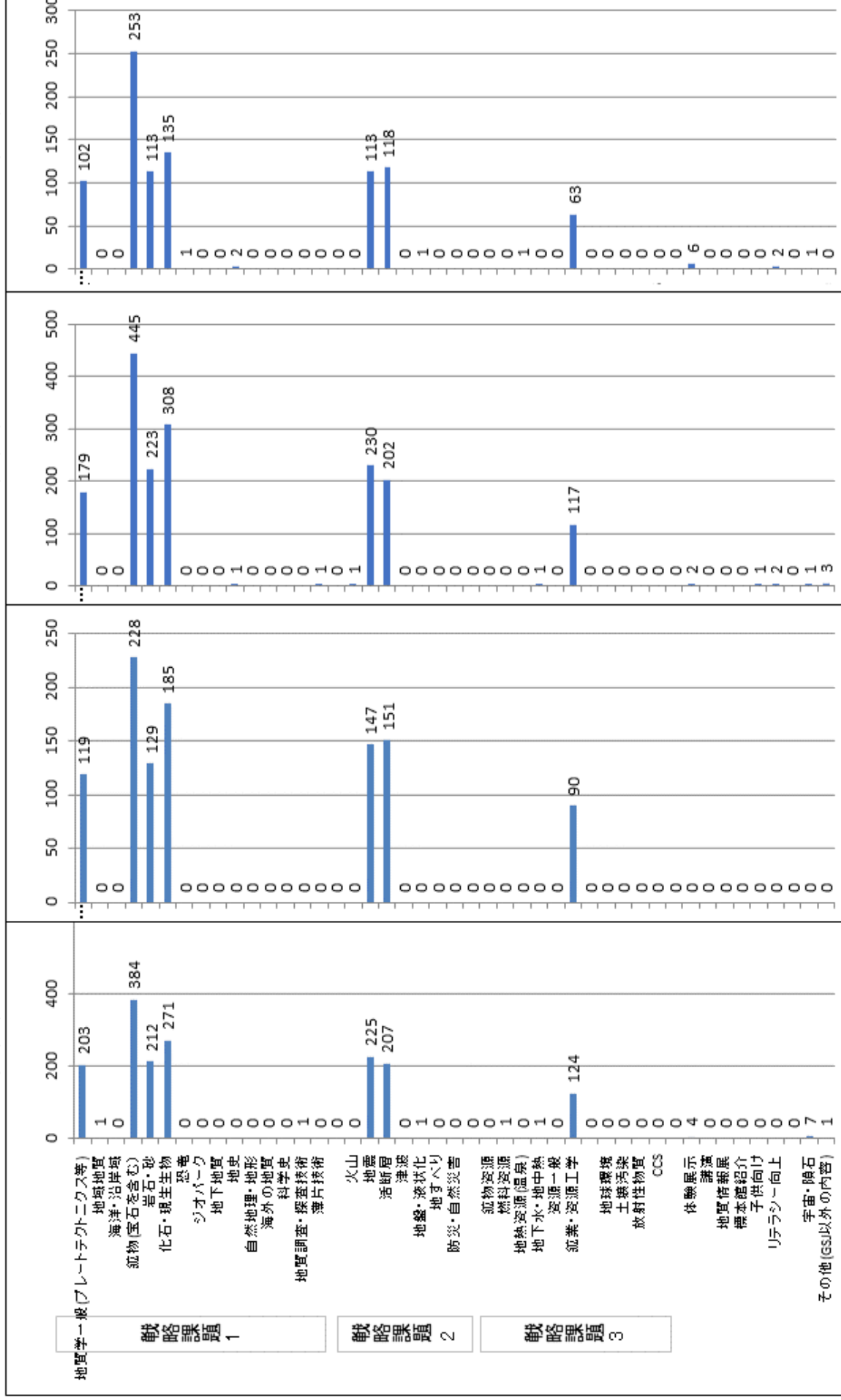
第28図 来館のきっかけ(期間ごと)

宇宙から地質:  
2019.04.16~07.07  
(n=1,648)

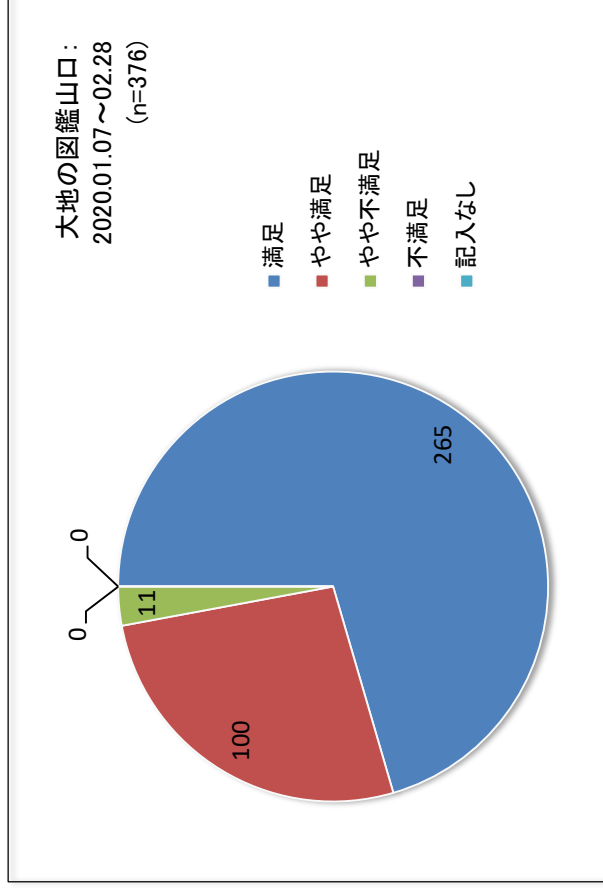
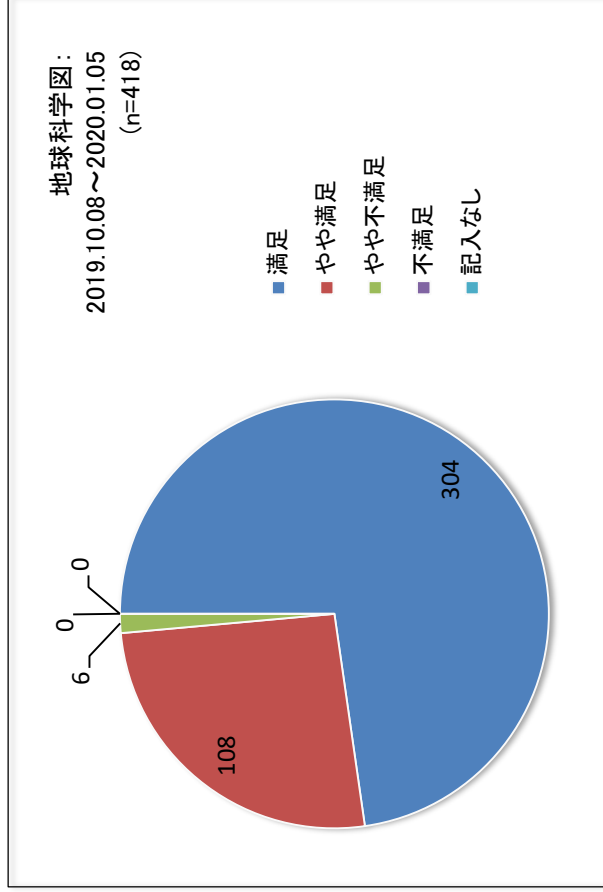
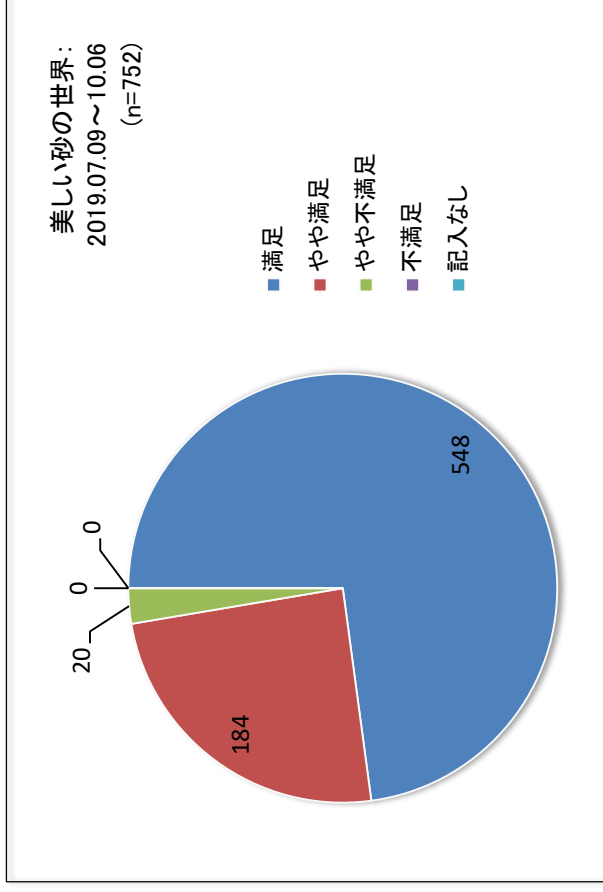
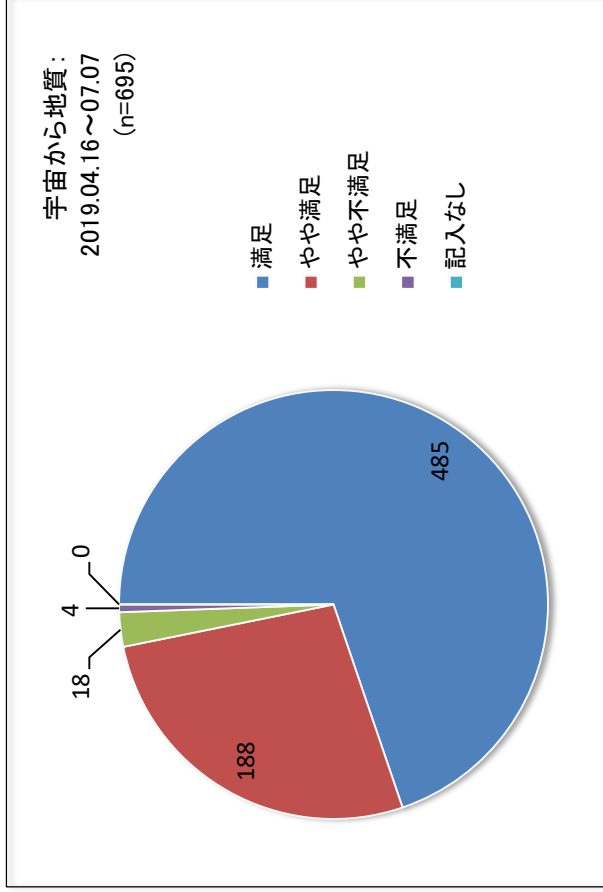
美しい砂の世界:  
2019.07.09~10.06  
(n=1,717)

地球科学図:  
2019.10.08~2020.01.05  
(n=1,049)

大地の図鑑山口:  
2020.01.07~02.28  
(n=911)

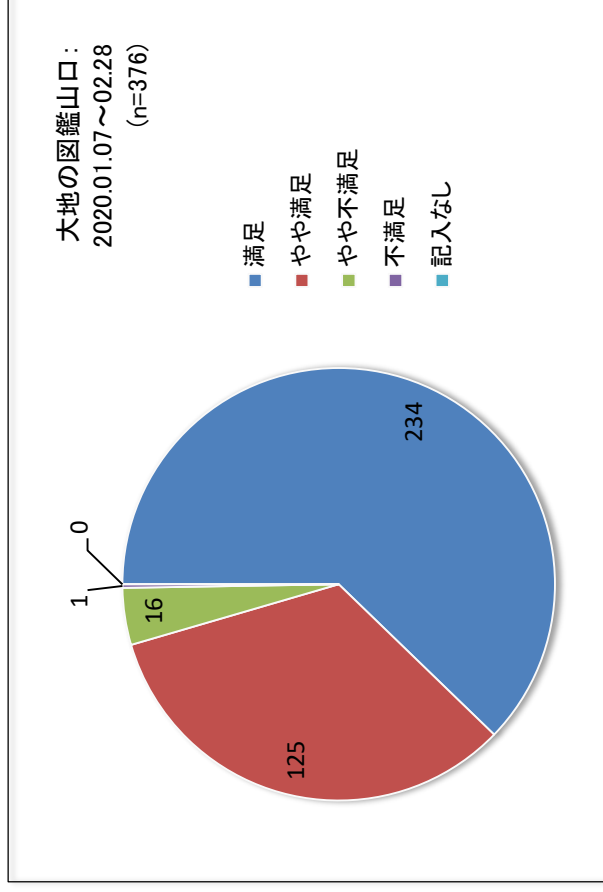
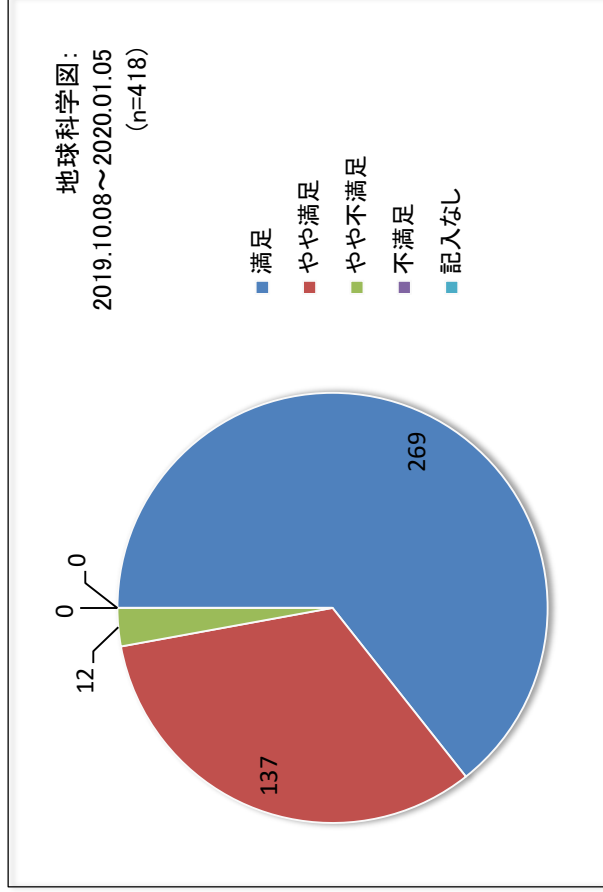
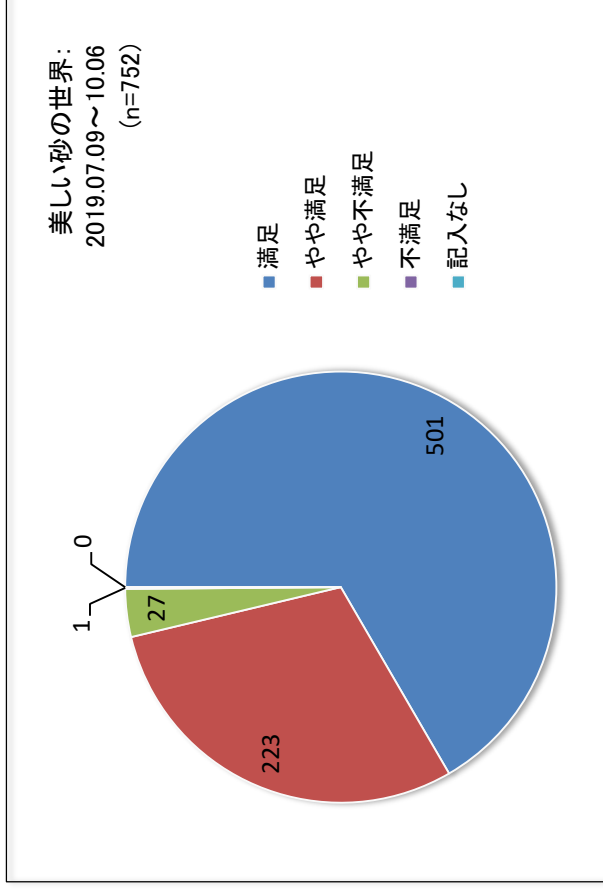
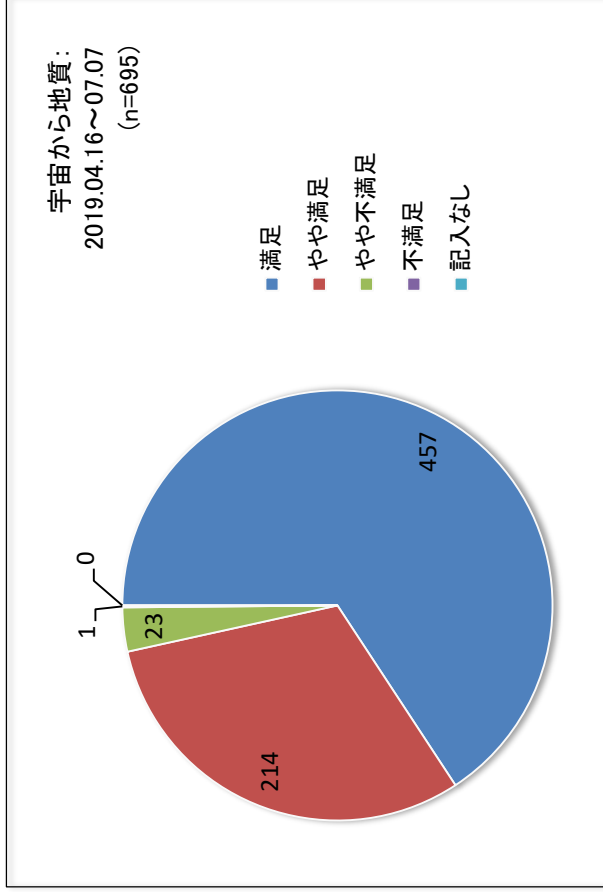


第29図 興味を持った展示テーマ(期間ごと)

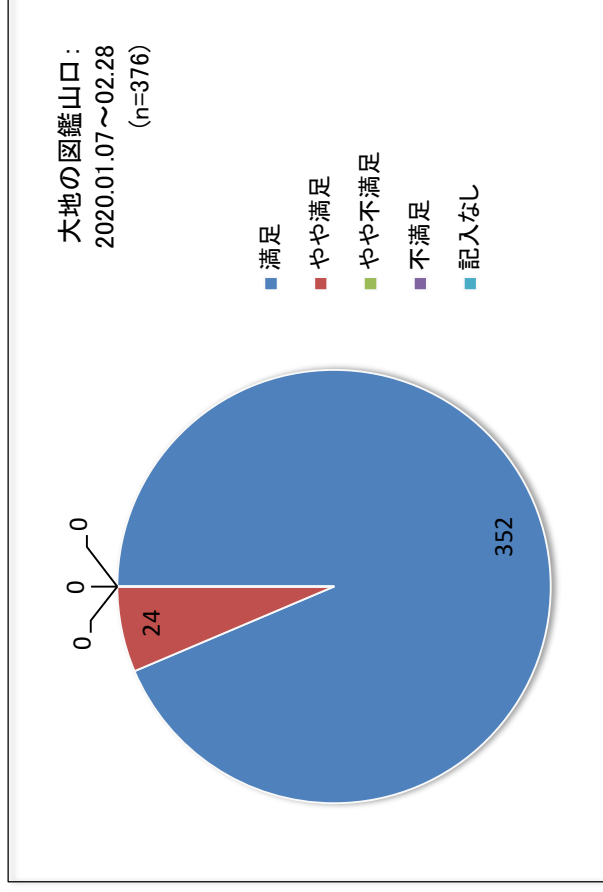
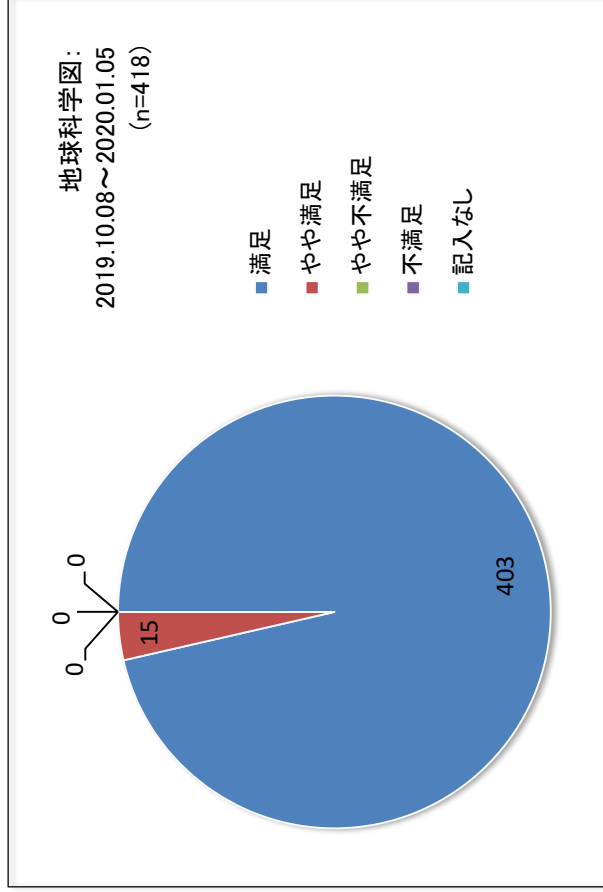
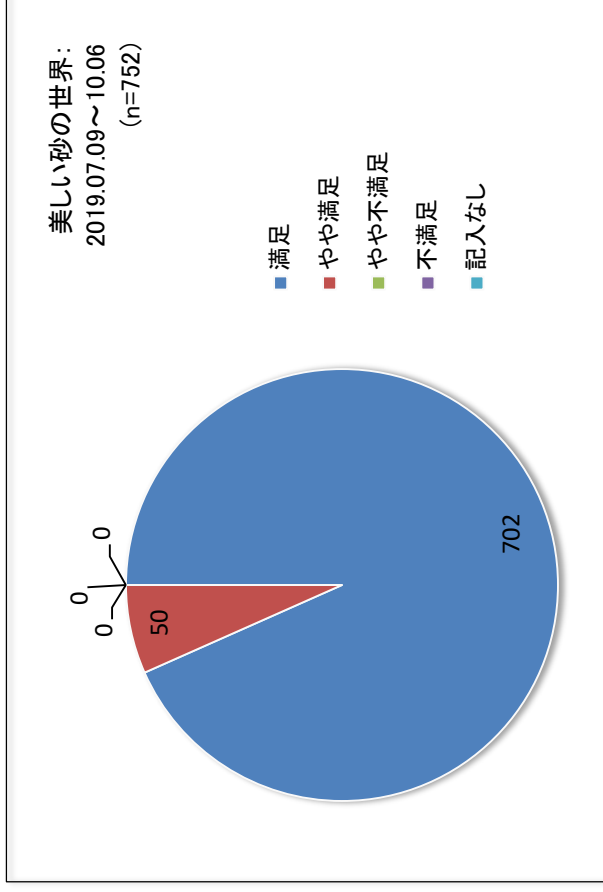
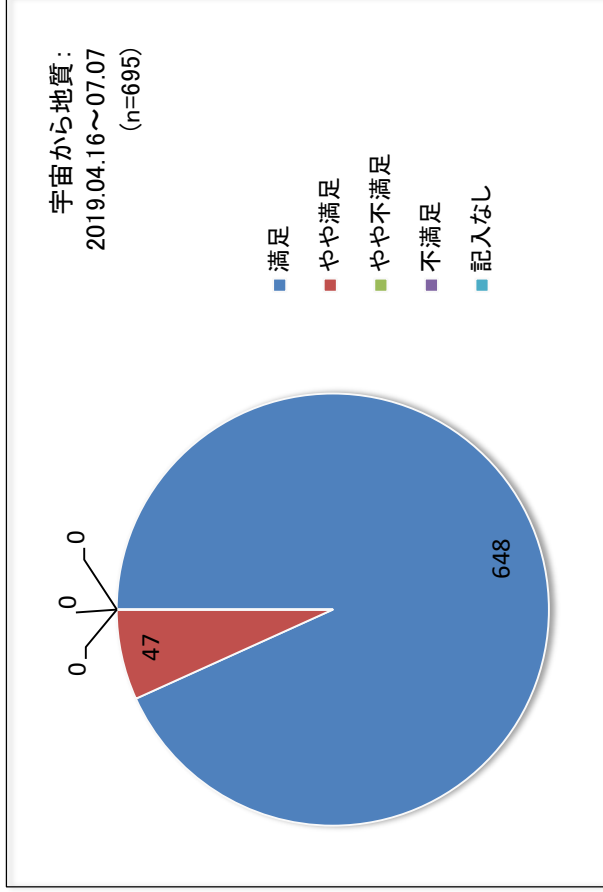


第30図 展示物について(展示の仕方) (期間ごと)

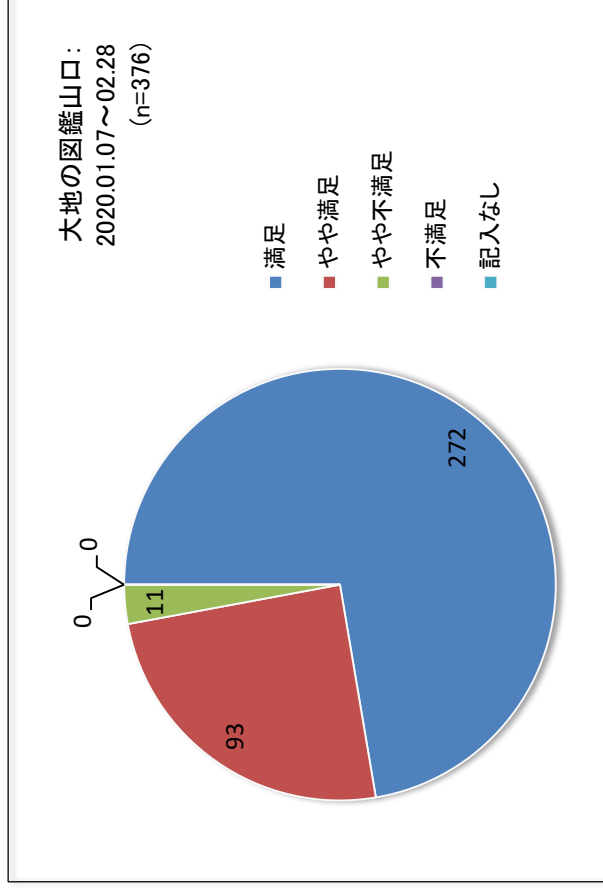
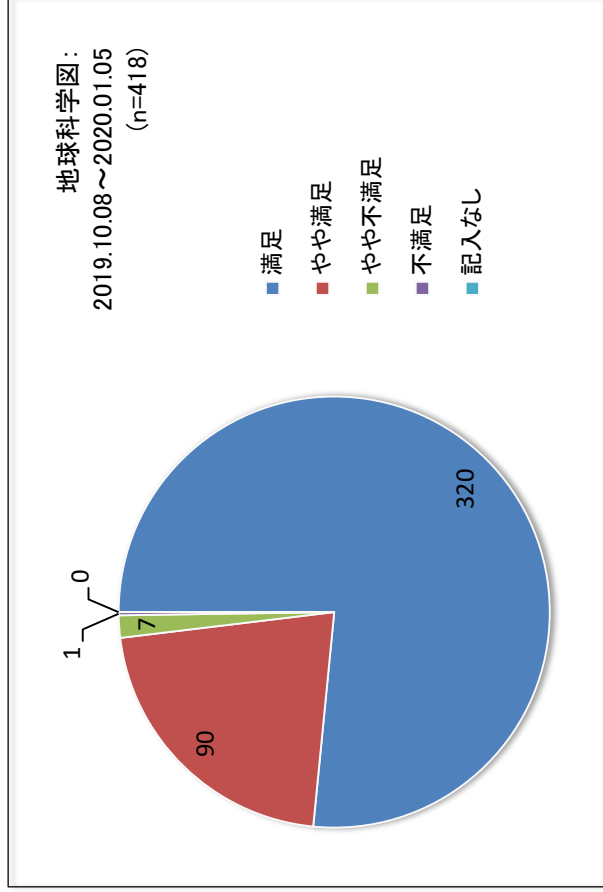
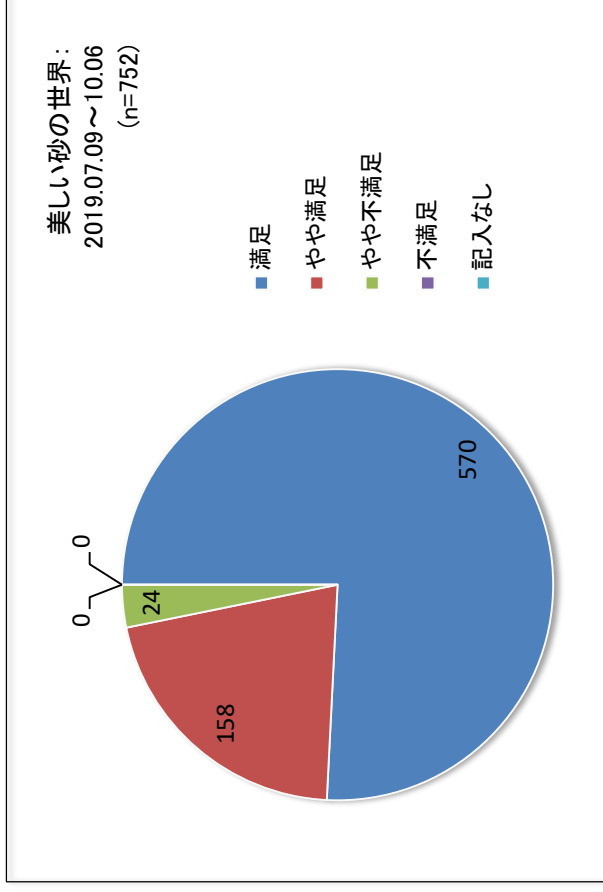
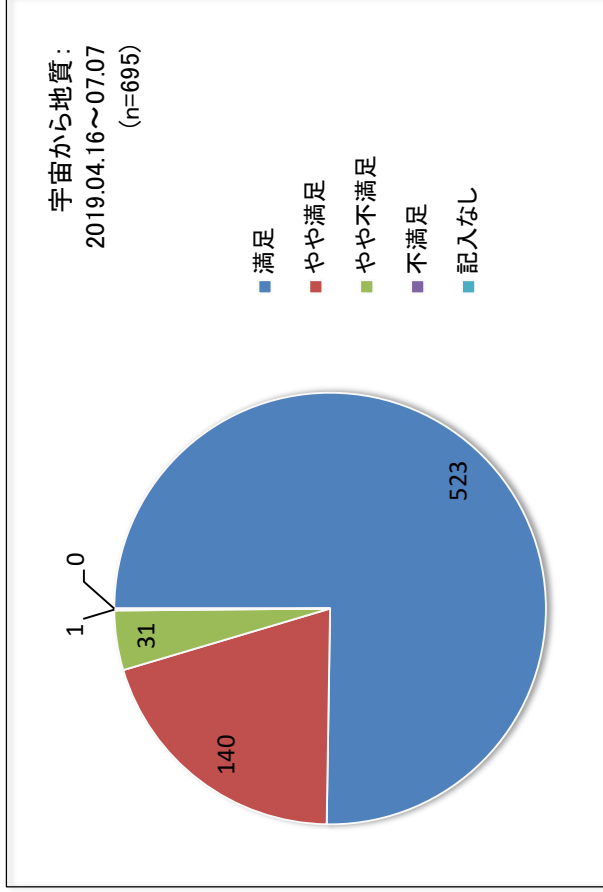




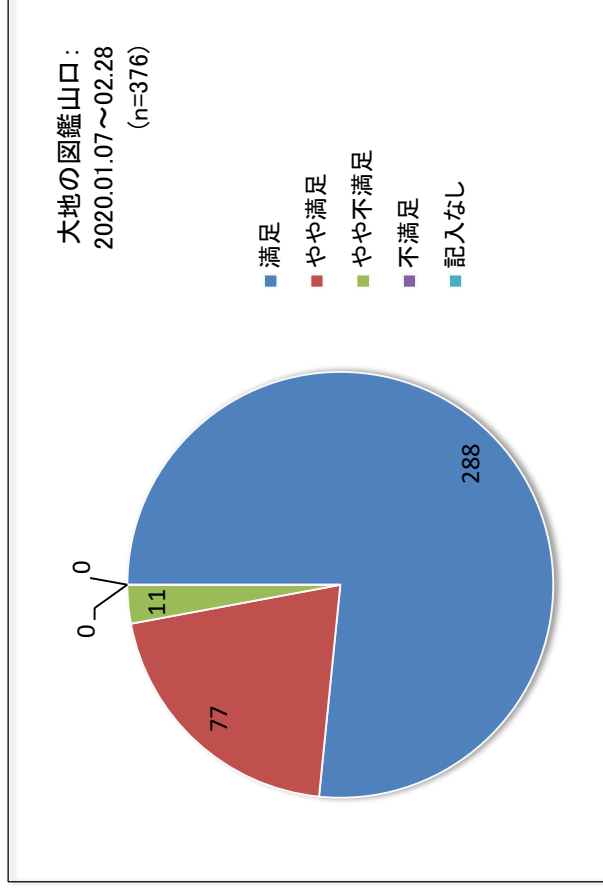
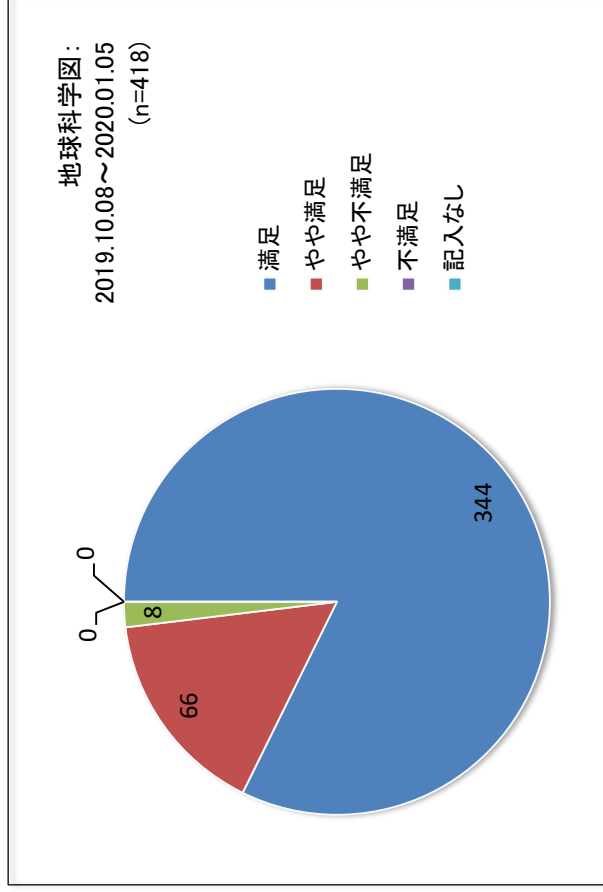
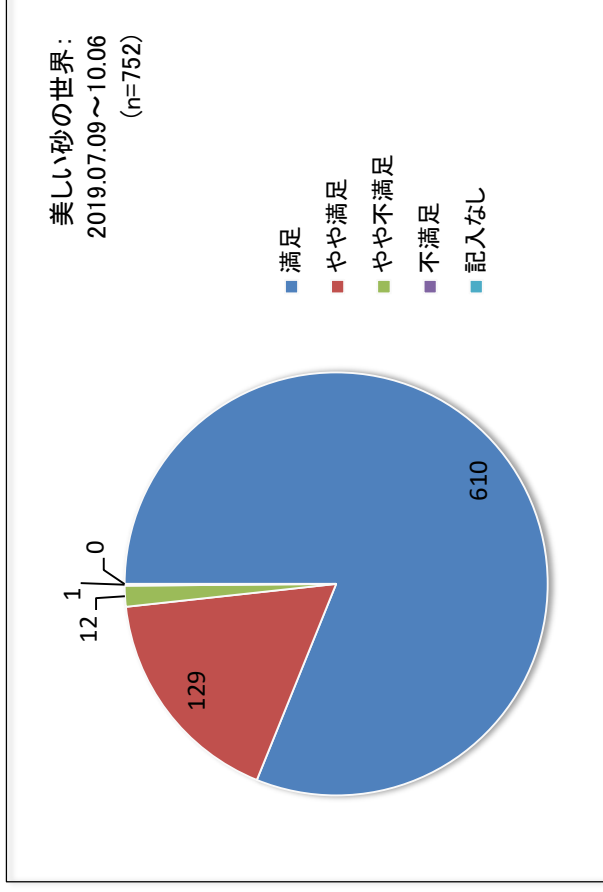
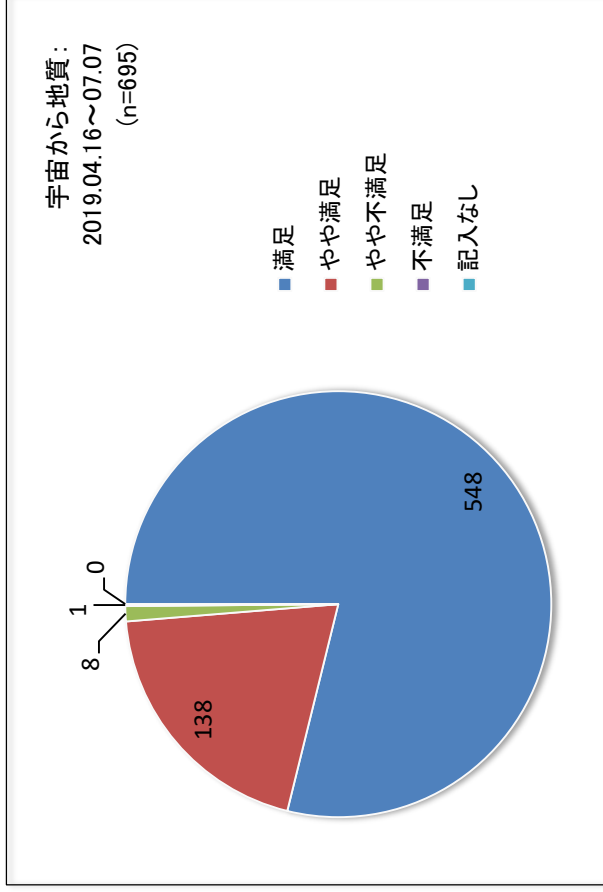
第31図 展示物について(機器の使い勝手)(期間ごと)



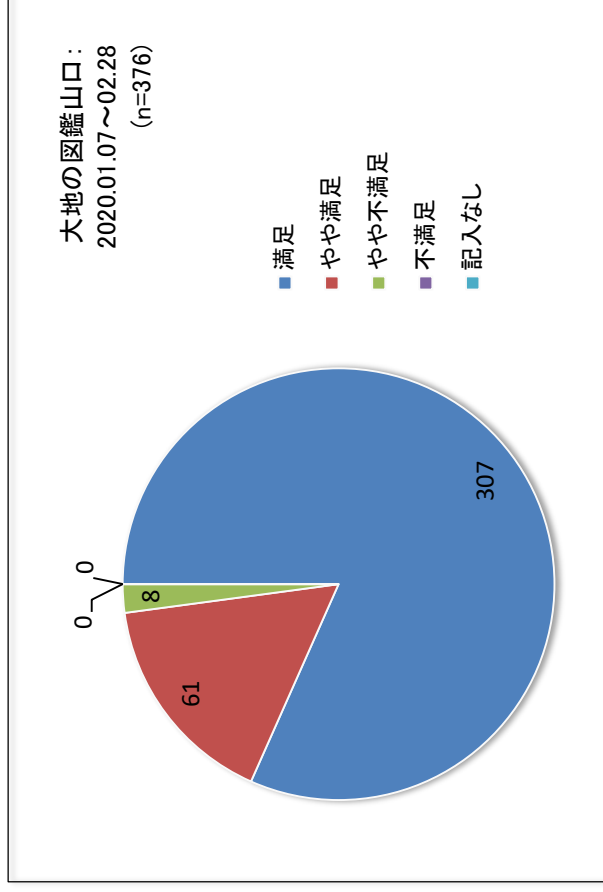
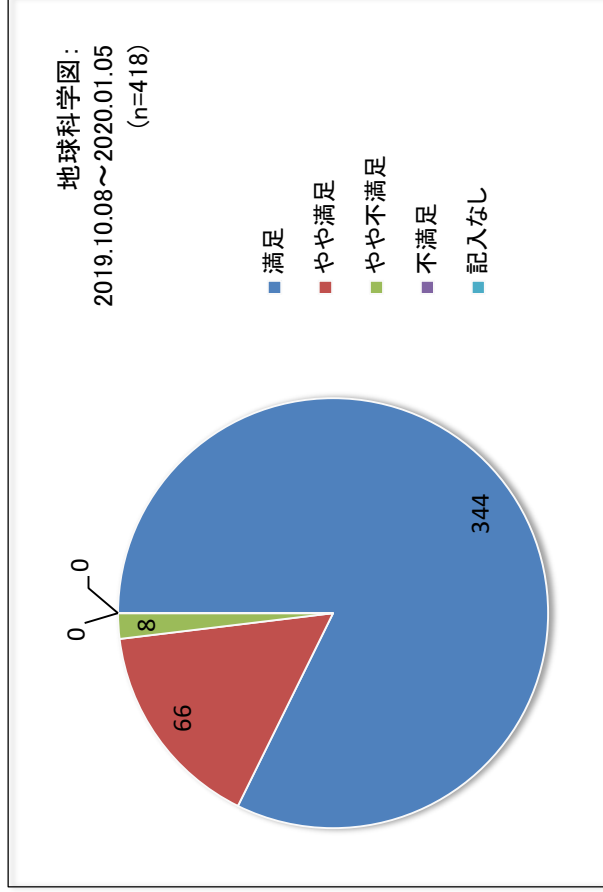
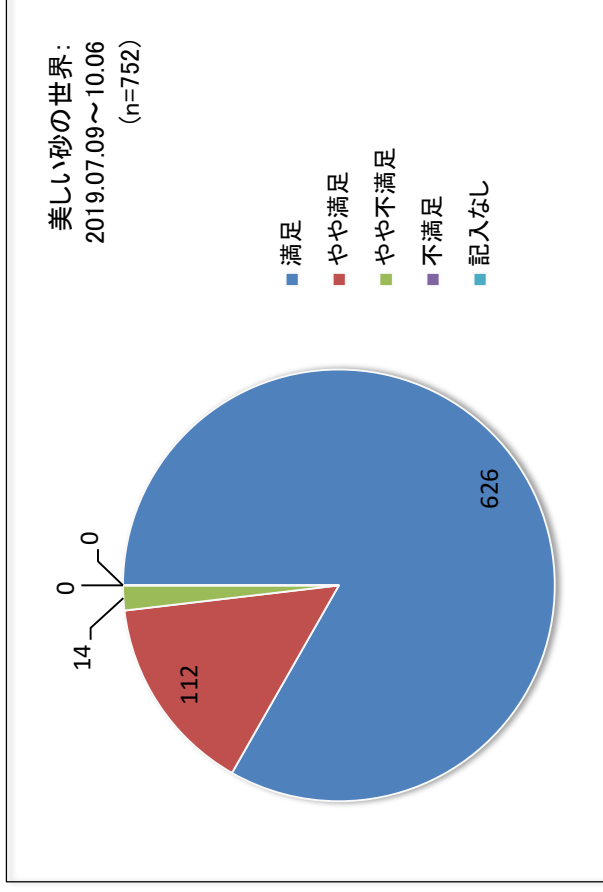
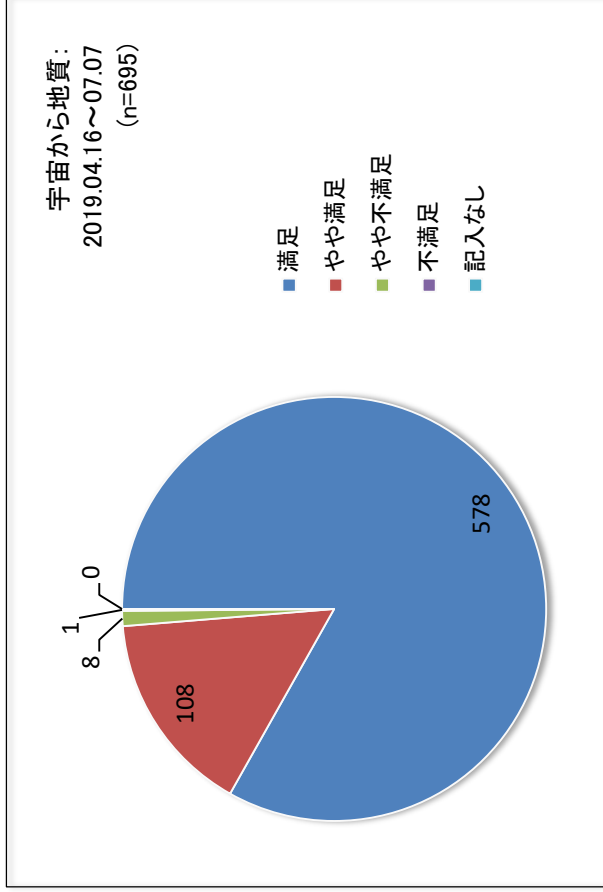
第32図 建物やサービスについて(受付の対応) (期間ごと)



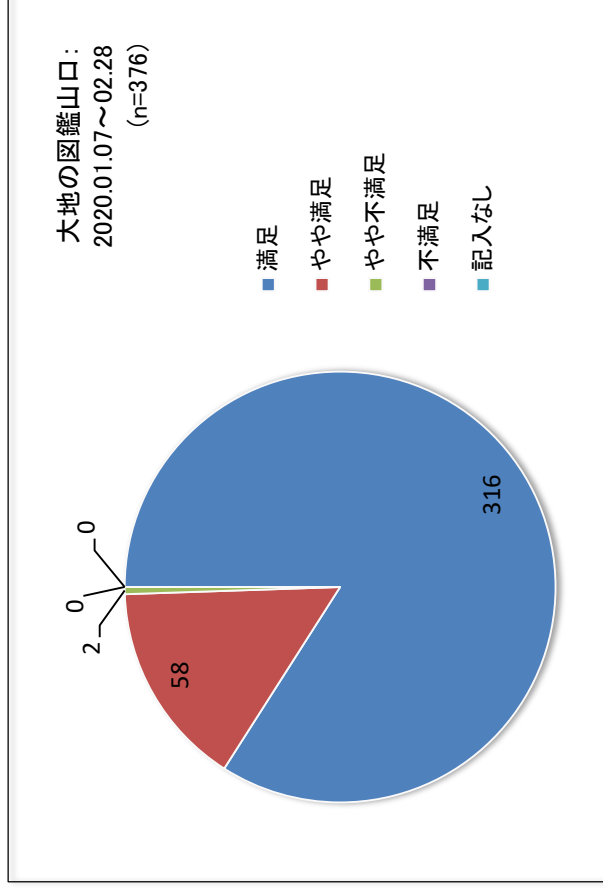
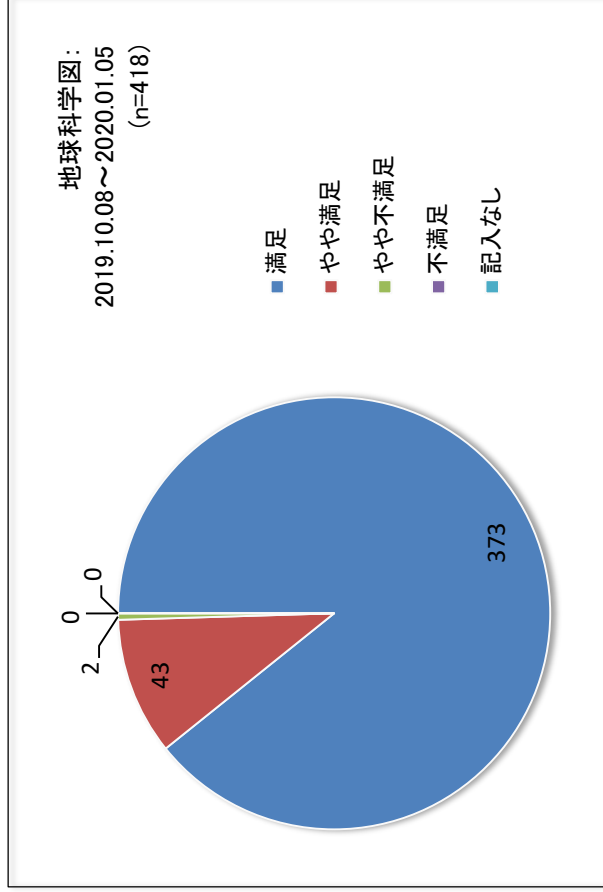
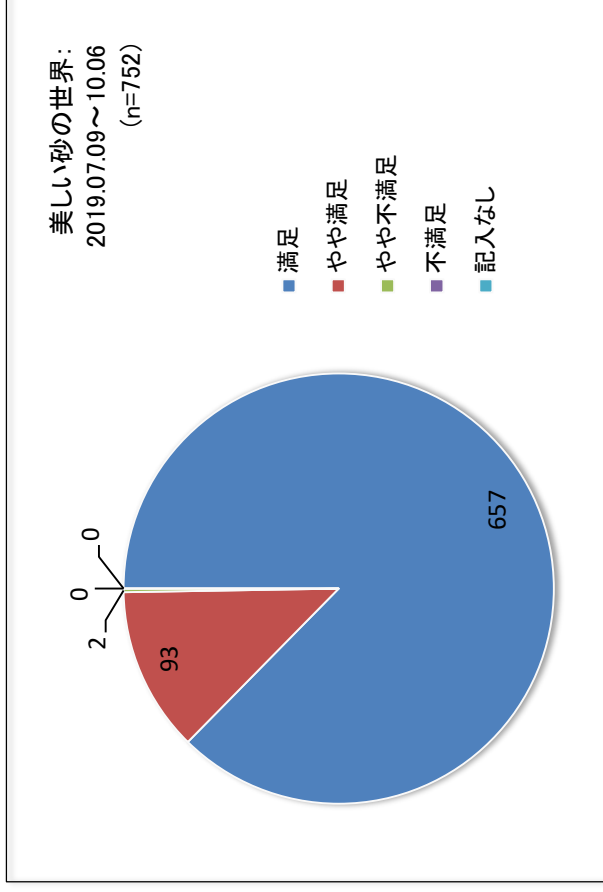
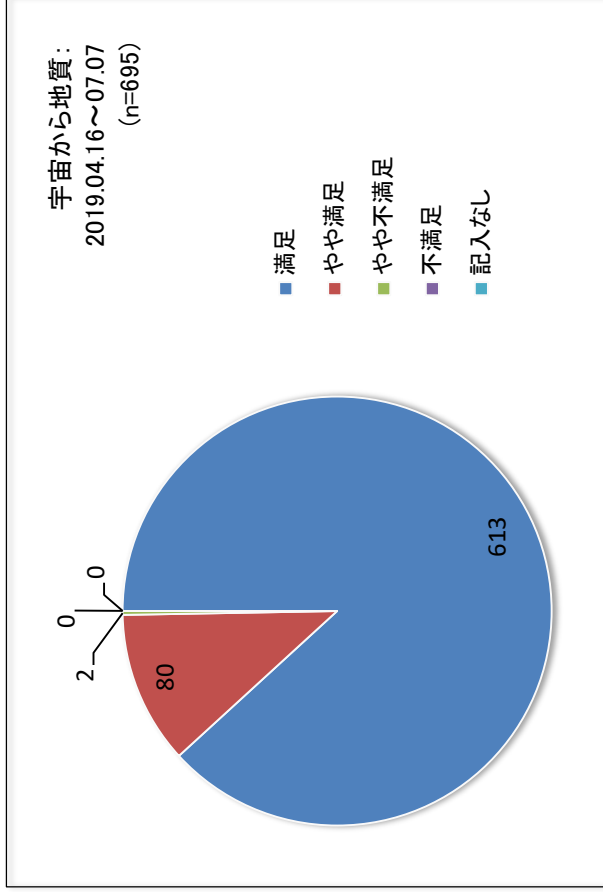
第33図 建物やサービスについて(案内表示) (期間ごと)



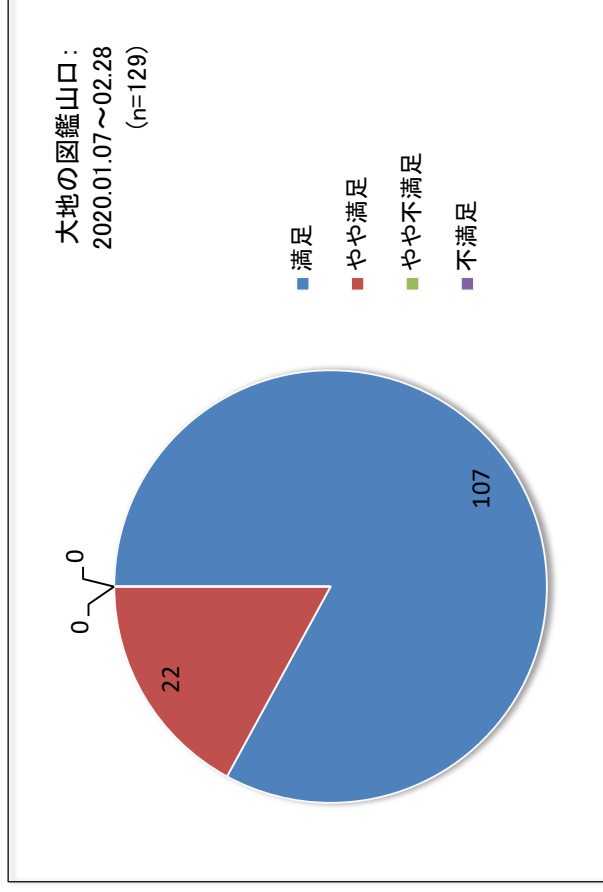
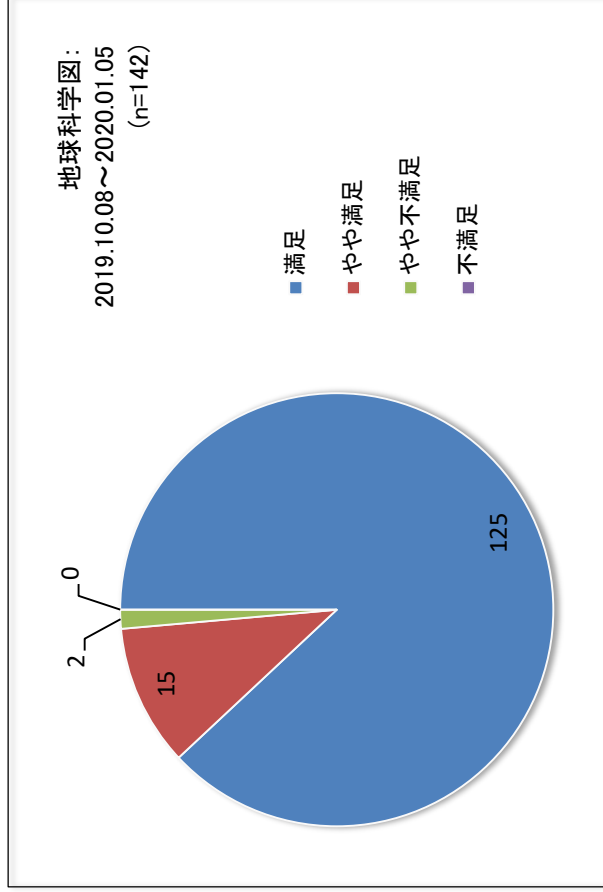
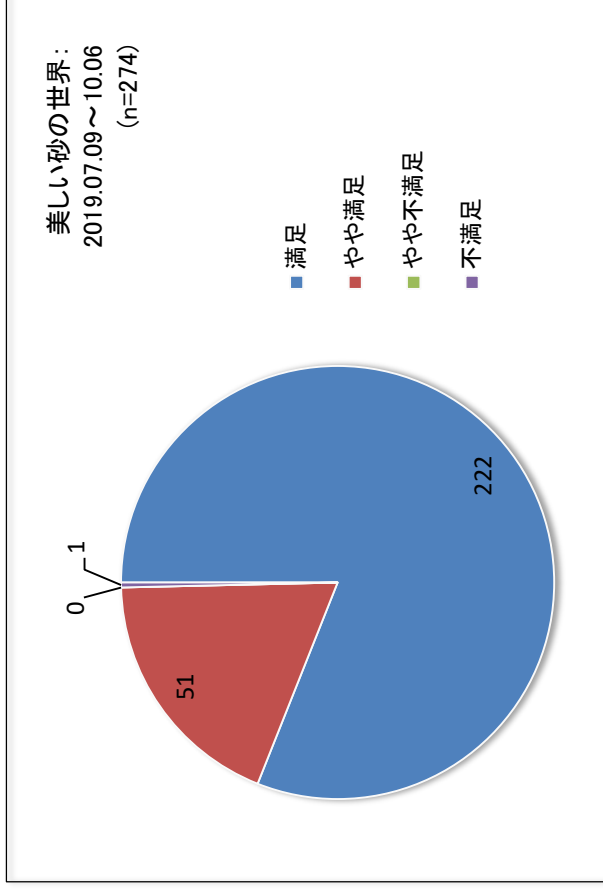
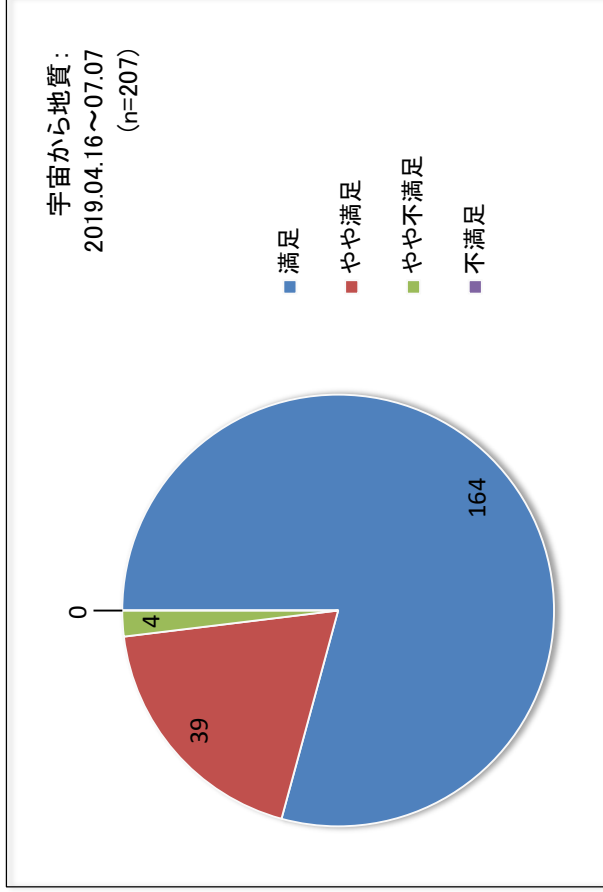
第34図 建物やサービスについて(館内の明るさ)(期間ごと)



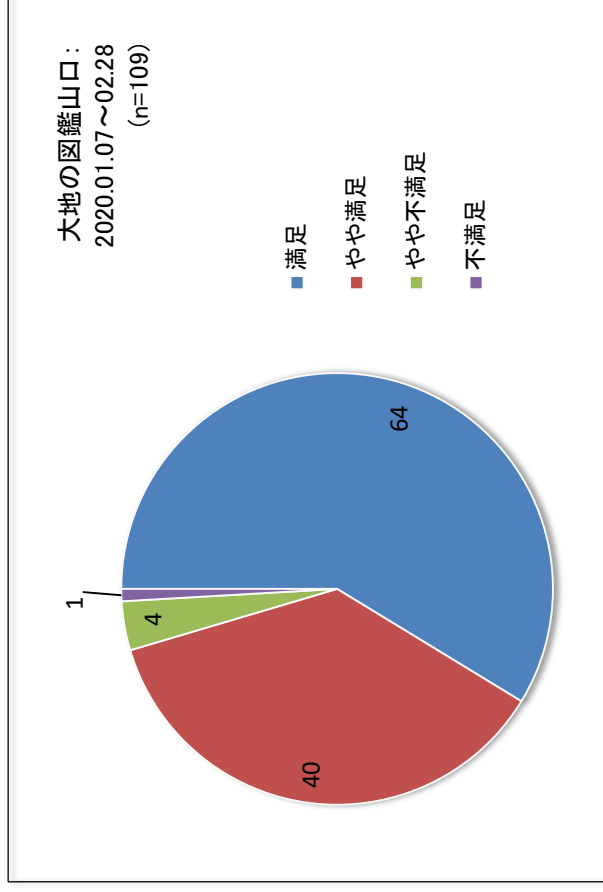
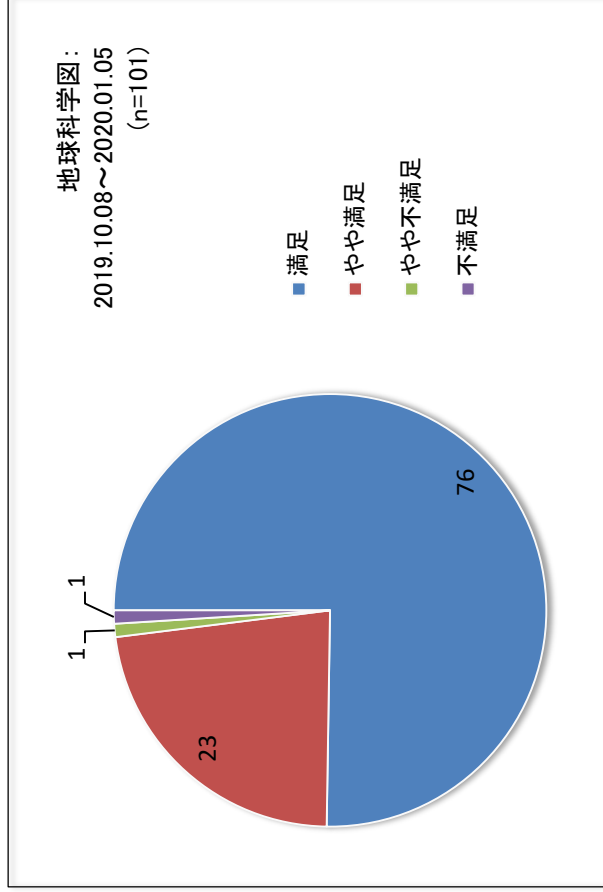
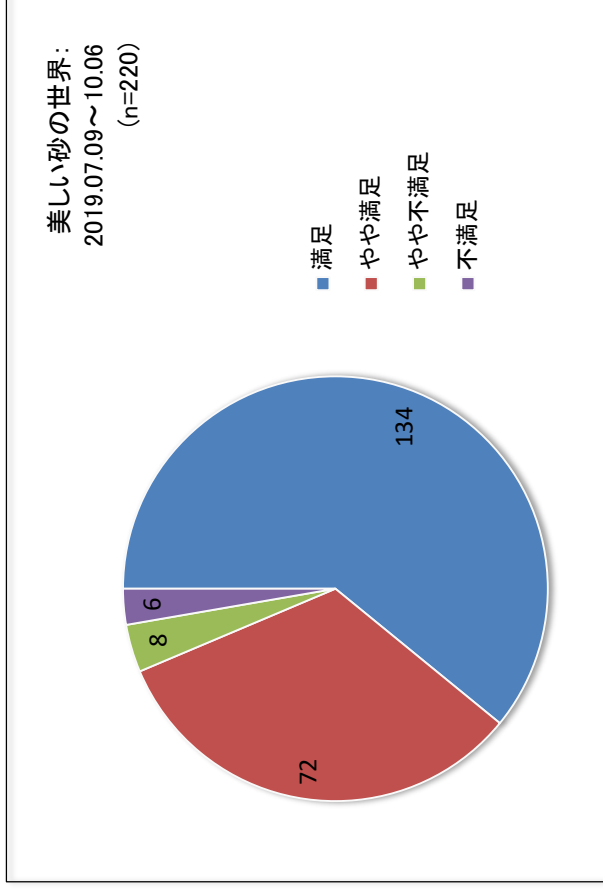
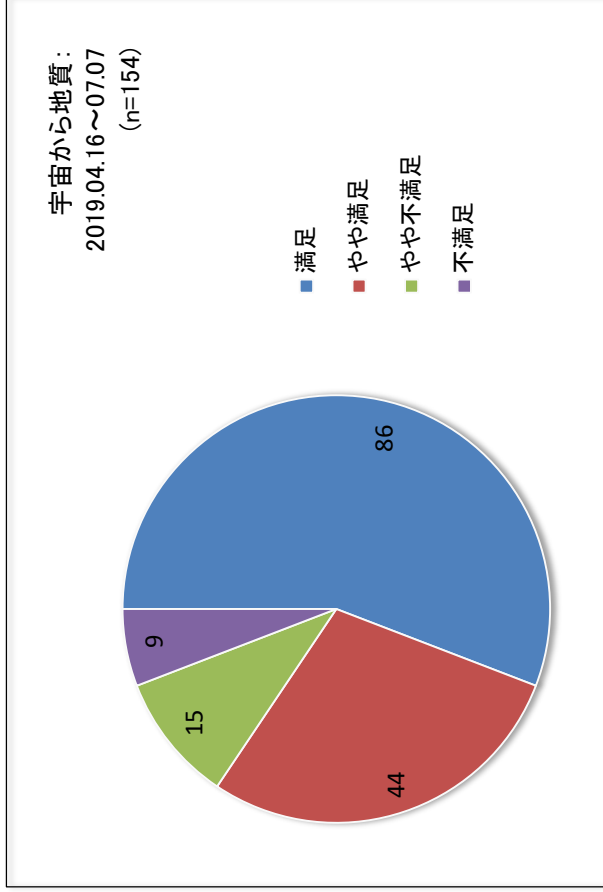
第35図 建物やサービスについて(空調温度) (期間ごと)



第36図 建物やサービスについて(清掃)(期間ごと)

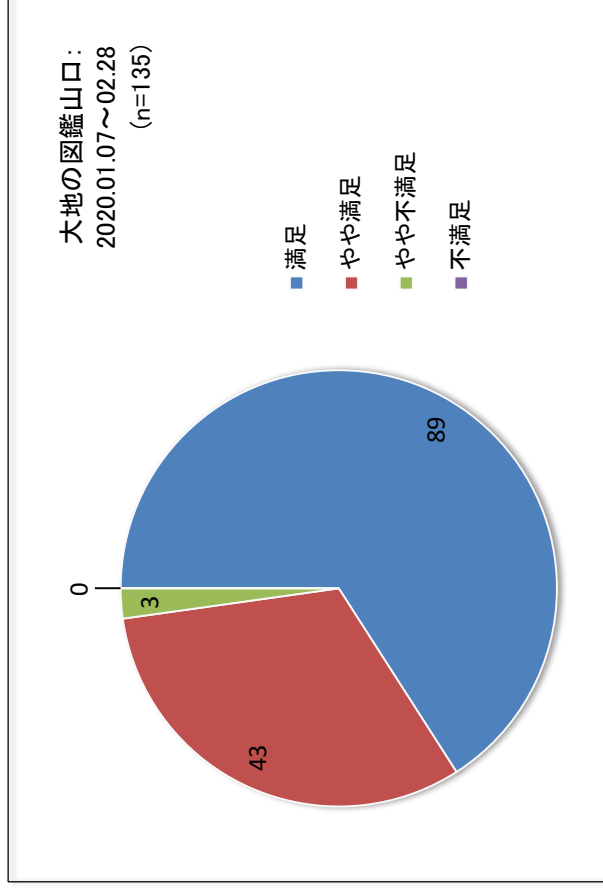
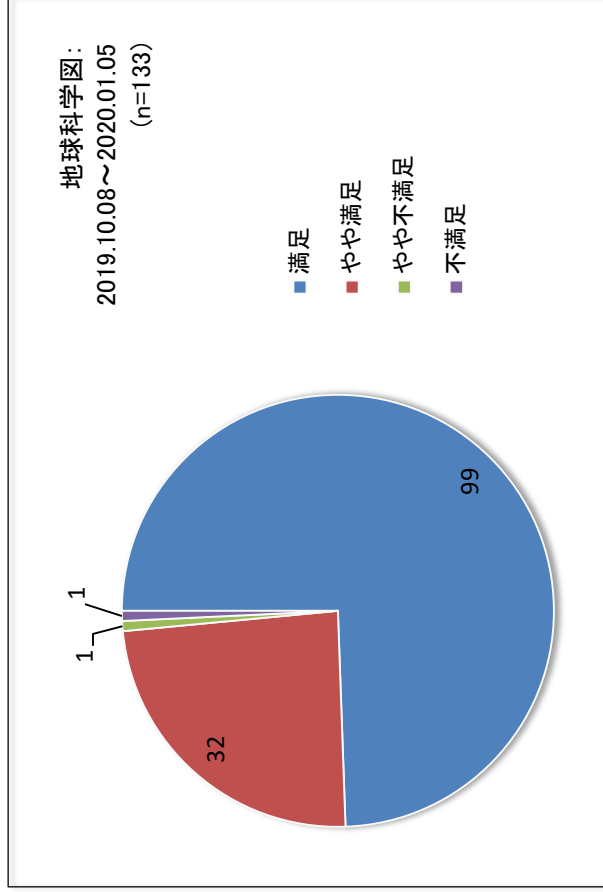
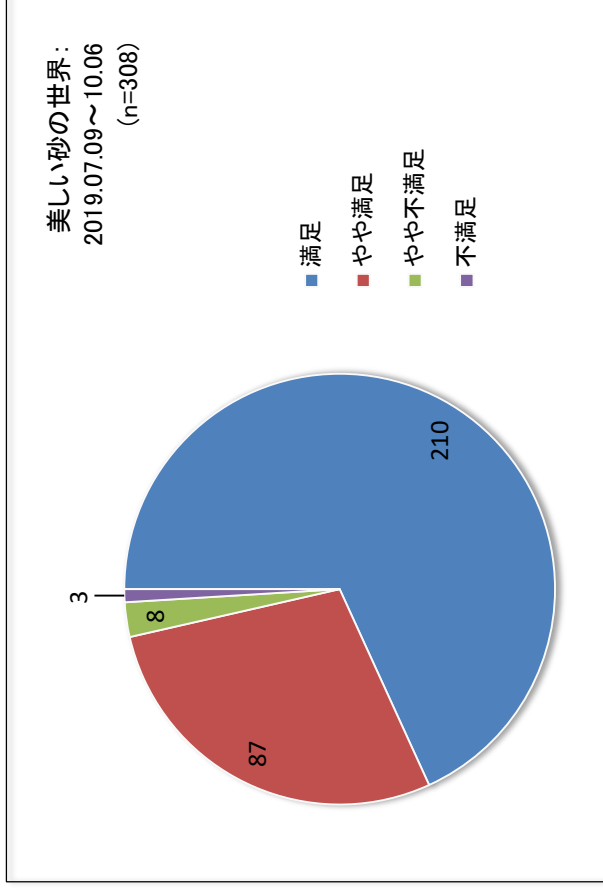
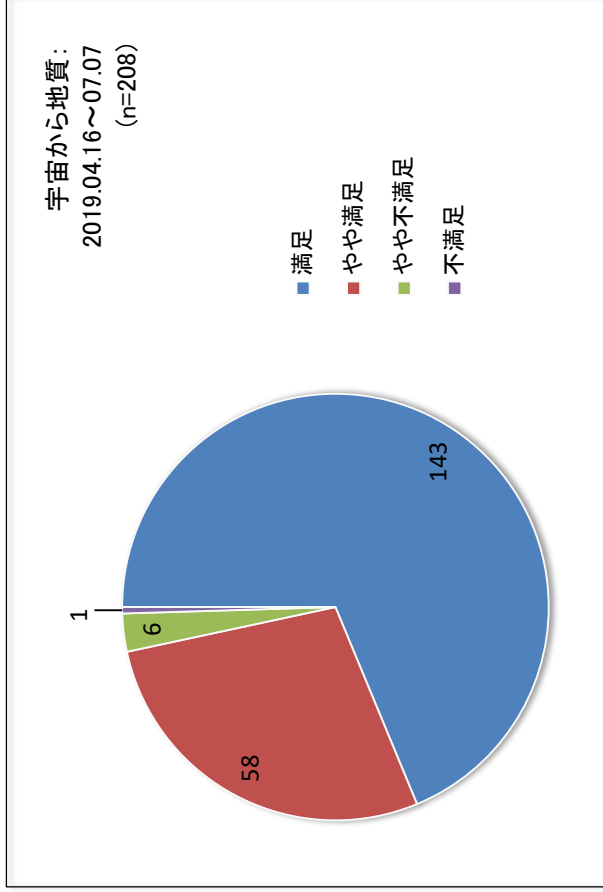


第37図 解説サービスについて(解説案内)(期間ごと)



第38図 解説サービスについて(QRコード解説) (期間ごと)





第39図 解説サービスについて(標本館クイズ)(期間ごと)

地質調査総合センター技術資料集12

# 地質標本館の来場者 アンケート分析

(2019年度)

2021年1月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報基盤センター  
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第7

【執筆・集計担当】 兼子尚知・利光誠一・朝川暢子・谷島清一  
下川浩一・谷田部信郎・森田澄人

【レイアウト担当】 朝川暢子

【問い合わせ】 <https://www.gsj.jp/inquiries.html>

本報告書は産業技術総合研究所地質調査総合センターの組織著作物です。

「政府標準利用規約（第2.0版）」準拠



産業技術総合研究所 地質調査総合センター  
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第7  
<https://www.gsj.jp/>